



デジカム用パソコン静止画キット 取扱説明書（機能説明用）

VW-DTA2W



このたびはパナソニック デジカム用パソコン静止画キットをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

別添付されている取扱説明書（インストール用）と、この取扱説明書（機能説明用）をよくお読みの上、正しくお使いください。

尚、この取扱説明書（機能説明用）は、必要に応じてプリントアウトしてお使いください。

もくじ

はじめに

はじめに

もくじ	2
DVスタジオの楽しみかた	3
DVスタジオの概要	4
DVスタジオの起動	5
オリジナルはがきを作る	6
オリジナルはがき作成の手順	7
画像サンプル	8

第Ⅰ章 プレーヤー

1.1 プレーヤーの起動と終了	I -2
1.2 再生モード	I -5
1.3 メモリー再生モード	I -9
1.4 撮影モード	I -11
1.5 簡易画像	I -12
1.6 DV画像の設定	I -14
1.7 環境設定	I -15
1.8 画像の保存	I -18

第Ⅱ章 アルバム

2.1 アルバムの起動	II -2
2.2 アルバム画面	II -3
2.3 アルバムの終了	II -4
2.4 アルバムファイルの操作	II -5
2.5 アルバムの画像の印刷	II -8
2.6 画像の登録	II -10
2.7 アルバムの操作	II -16
2.8 画像の検索	II -20
2.9 登録画像の表示	II -22
2.10 環境設定	II -27
2.11 設定の初期化	II -30
2.12 サムネイル画面のコンテキストメニュー	II -31
2.13 フォルダ画面のコンテキストメニュー	II -38
2.14 ツールバー	II -40
2.15 「レタッチ」、「レイアウト」との連携	II -41

第Ⅲ章 レタッチ

3.1 レタッチの起動	III -2
3.2 レタッチの終了	III -3
3.3 画像の新規作成	III -4
3.4 画像ファイルの操作	III -5
3.5 画像の印刷	III -8
3.6 ツールパレット	III -9
3.7 範囲の選択	III -51
3.8 編集	III -53
3.9 フィルタ	III -73
3.10 「アルバム」との連携	III -84
3.11 設定の初期化	III -86
3.12 マスクサンプルの使用	III -87

第Ⅳ章 レイアウト

4.1 レイアウトの起動	IV -2
4.2 編集領域の設定	IV -3
4.3 レイアウトの終了	IV -5
4.4 ファイル操作	IV -6
4.5 テキストの配置	IV -12
4.6 画像の配置	IV -16
4.7 図形の描画	IV -17
4.8 オブジェクトの編集・操作	IV -18
4.9 シートの操作	IV -25
4.10 レイアウトの印刷	IV -26
4.11 ツールバー	IV -28
4.12 設定の初期化	IV -31

第Ⅴ章 住所録

5.1 住所録の起動	V -2
5.2 住所録の終了	V -3
5.3 住所録画面	V -4
5.4 コントロールパネル	V -5
5.5 レコード一覧画面	V -6
5.6 入力パネル	V -8
5.7 データベース操作	V -10
5.8 住所録の印刷	V -13
5.9 データの読み込みと書き込み	V -17
5.10 「レイアウト」との連携	V -21

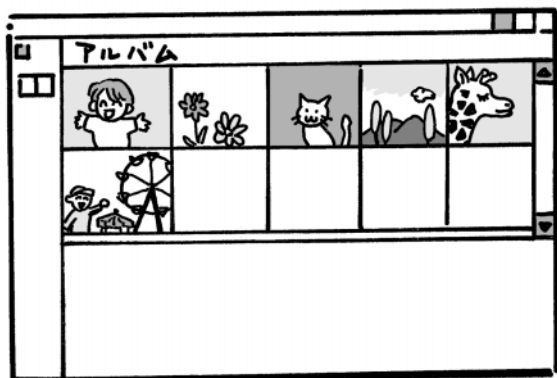


DVスタジオの楽しみかた

はじめに

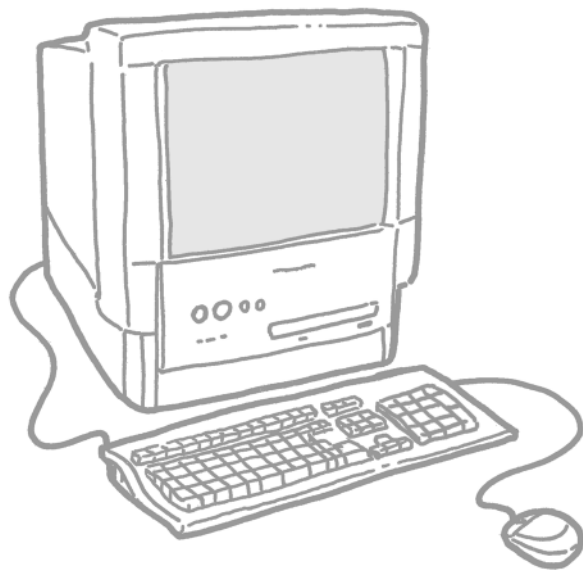
パソコンと組み合わせて

無限に近いシャッターチャンスから
ベストショットが撮れます



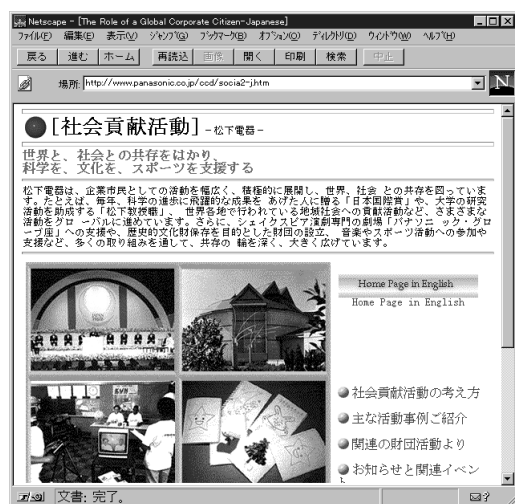
●アルバムをつくる

パソコンで静止画を
編集・加工・整理



●年賀状も

自分で編集



●ホームページに 貼り付けて 世界に発信



DVスタジオの概要

はじめに

「DVスタジオ2」は、以下のアプリケーションのパッケージになっています。

デジカムで撮影した映像を気軽にコンピューターに取り込んで静止画の編集、加工が楽しめます。画像を各アプリケーション間でドラッグ&ドロップで利用できます。



パソコンでデジカムを操作

●プレーヤー

デジタル静止画端子付きのパナソニック製デジタルビデオカメラ、デジタルビデオデッキ（以下、本書ではデジカムと略称）から静止画を取り込む機能です。「DVスタジオ2」では、「プレーヤー」は、「アルバム」から起動します。

取り込んだ画像を一覧に

●アルバム

画像データベース機能です。画像を登録して管理します。「レイアウト」や「レタッチ」の書類を登録して管理することもできます。

写真や画像を自在に加工

●レタッチ

画像編集機能です。「レイアウト」に直接、画像編集画面の画像を透明度の情報を維持したままドロップできます。

写真に文字やイラストを

●レイアウト

レイアウト機能です。画像や文字、図形を配置してレイアウトを作成します。

宛名づくりも

●住所録

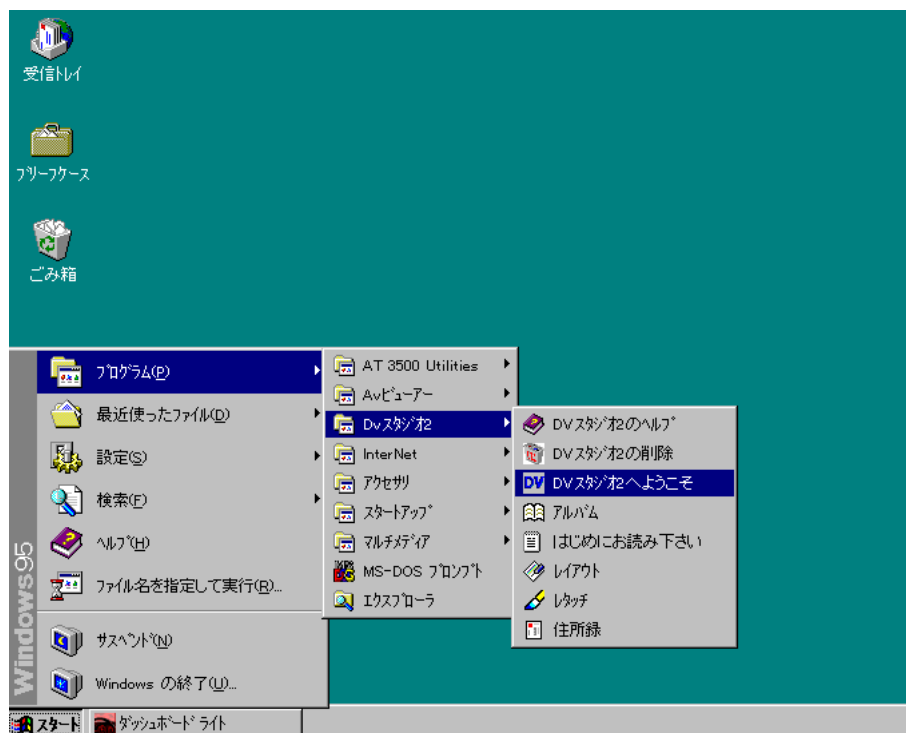
住所管理機能です。宛名の自動レイアウト印刷を行うことができます。

DVスタジオの起動

はじめに

次の3種類の起動方法があります。

- A** [スタート] メニューから [プログラム(P)] - [DVスタジオ2] - [機能名] を選択する。
[DVスタジオ2へようこそ] を選択すると、「DVスタジオ2」の「ようこそ」画面が起動されます。
好みの [機能名] をクリックすると、それぞれの機能画面が起動されます。



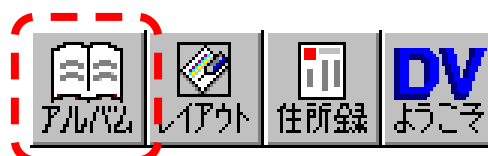
- B** 「DVスタジオ2へようこそ」を起動後、「ようこそ」画面で、好みの [機能名] をクリックする。

[アルバム] の例



- C** 「アルバム」「レイアウト」「レタッチ」「住所録」それぞれのリモコンバーで、好みの [機能名] をクリックする。

[アルバム] の例



オリジナルはがきを作る

はじめに

デジカムで撮影した人物・風景と、DVスタジオや一般の素材集を組み合わせて楽しいオリジナル年賀状を作ります。

① デジカムで撮った人物画像



■完成イメージ



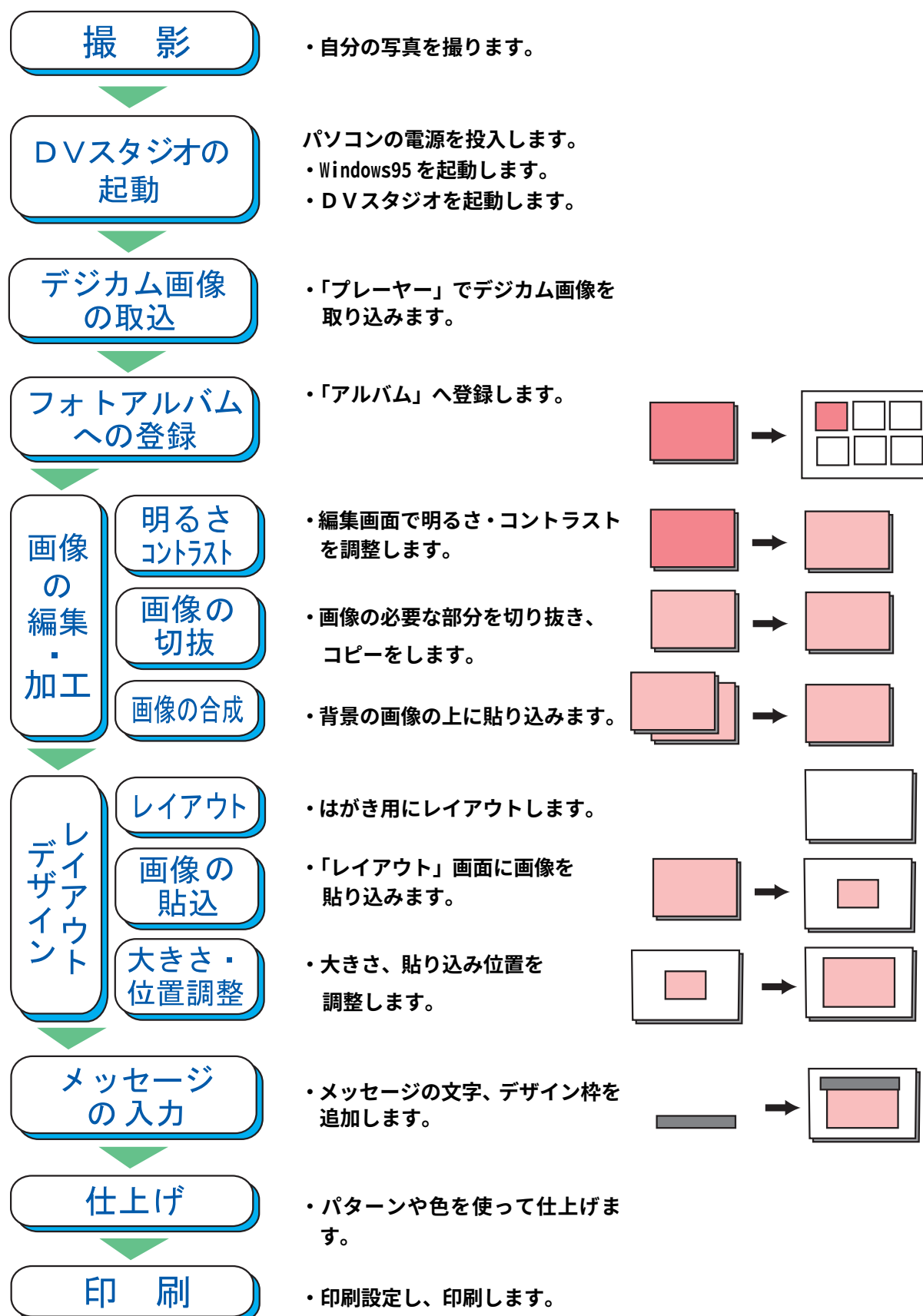
② 素材集で見つけた風景画像



オリジナルはがき作成の手順

はじめに

デジカム画像を使ったはがき作成の手順例を示します。詳細操作方法是各章の説明をご覧ください。



画像サンプル

はじめに

「DVスタジオ2」にはさまざまな画像サンプル（画像素材）が用意されています。「DVスタジオ2」のアプリケーションに応じてお使いください。

「DVスタジオ2」のセットアップで画像サンプルも併せてインストールした場合、ハードディスク上にインストールされた「DVスタジオ2」フォルダ内に「画像サンプル」フォルダが作成されます。

- 「アルバム」の「編集 (T)」メニューから「画像の登録」を選択して「画像サンプル」フォルダを見た例



●画像サンプルの種類

画像の種類	フォルダ名	ファイル名	個数
D V F	DVGAZO	0000.dvf	12
J P E G	JPEGAZO	0000.jpg	12
イラスト	ILLUST	0000.bmp	16
干支の絵	ETO	0000.bmp	12
星座の絵	SEIZA	0000.bmp	12
「レイアウト」サンプル	LAYOUT	0000.lay	6
		0000.pcf	5
		0000.bmp	1
		0000.lbo	1
「レタッチ」サンプル	RETOUCH	0000.jpg	27
		0000.pcf	9
画像サンプル(*)		0000.alb	1

(*) 付属の上記画像サンプル全部を「アルバム」機能を使って整理し、一覧できるようにしたもの

お知らせ

- 画像サンプルを取り込むときは、「ファイルの種類」に注意して、取り込んでください。
- 「レイアウト」に「アルバム」から「0000.lay」をドラッグ&ドロップする場合は、用紙の外にドロップしてください。

第Ⅰ章 プレーヤー

「プレーヤー」はデジタル静止画端子付きのパナソニック製デジタルビデオカメラ、デジタルビデオデッキ（以下、本書ではデジカムと略称）から静止画を取り込むための機能です。

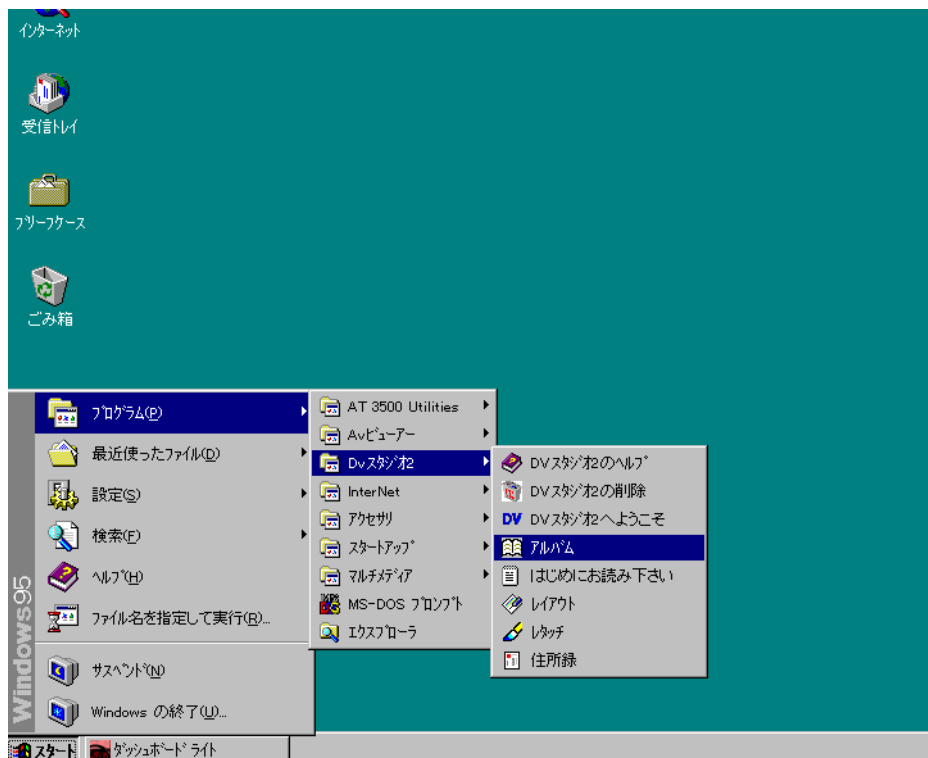
「プレーヤー」操作画面から、デジカムの再生や停止などの操作もできます。

1.1 プレーヤーの起動と終了	I -2
1.2 再生モード	I -5
1.3 メモリー再生モード	I -9
1.4 撮影モード	I -11
1.5 簡易画像	I -12
1.6 DV画像の設定	I -14
1.7 環境設定	I -15
1.8 画像の保存	I -18

プレイヤーの起動と終了

■「アルバム」を起動すると同時に「プレーヤー」が起動される方法

A 「スタート」メニューから「プログラム(P)」－「DVスタジオ2」－「アルバム」を選択する。

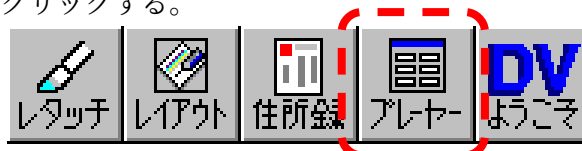


B 「DVスタジオ2 へようこそ」を起動後、「ようこそ」画面で「アルバム」をクリックする。



■「アルバム」を起動中に「プレーヤー」を起動する方法

D 「アルバム」のリモコンバーで「プレーヤー」をクリックする。

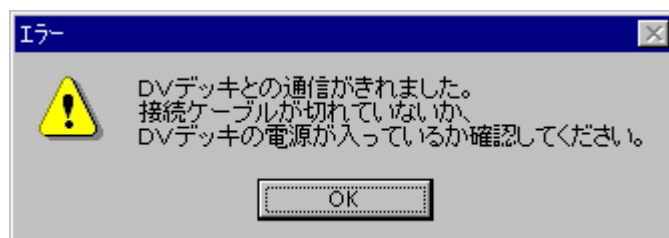
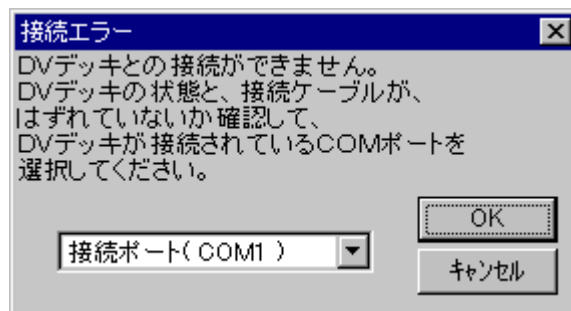


プレイヤーの起動と終了

第I章 プレーヤー

■接続

デジカムが接続されていなかったり、電源が入っていない場合、「接続エラー」画面が表示されます。デジカム電源、接続を確認し、接続先COMポート（通信ポート）を選択してください。



お知らせ

「DVスタジオ2」の動作環境やデジカムとパソコンとの接続については、取扱説明書（インストール用）をご覧ください。

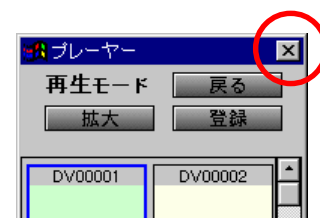
■プレイヤーの終了

 をクリックします。

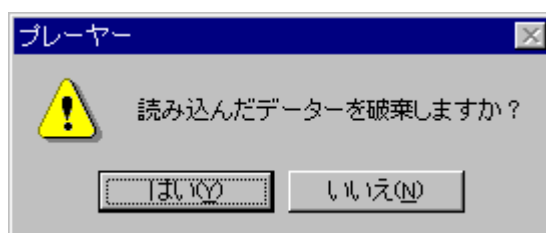
「プレイヤー」が閉じられます。



簡易画像を取り込んだ場合、「プレイヤー」を閉じると読み込んだデータを破棄するかどうかの確認メッセージが表示されます。

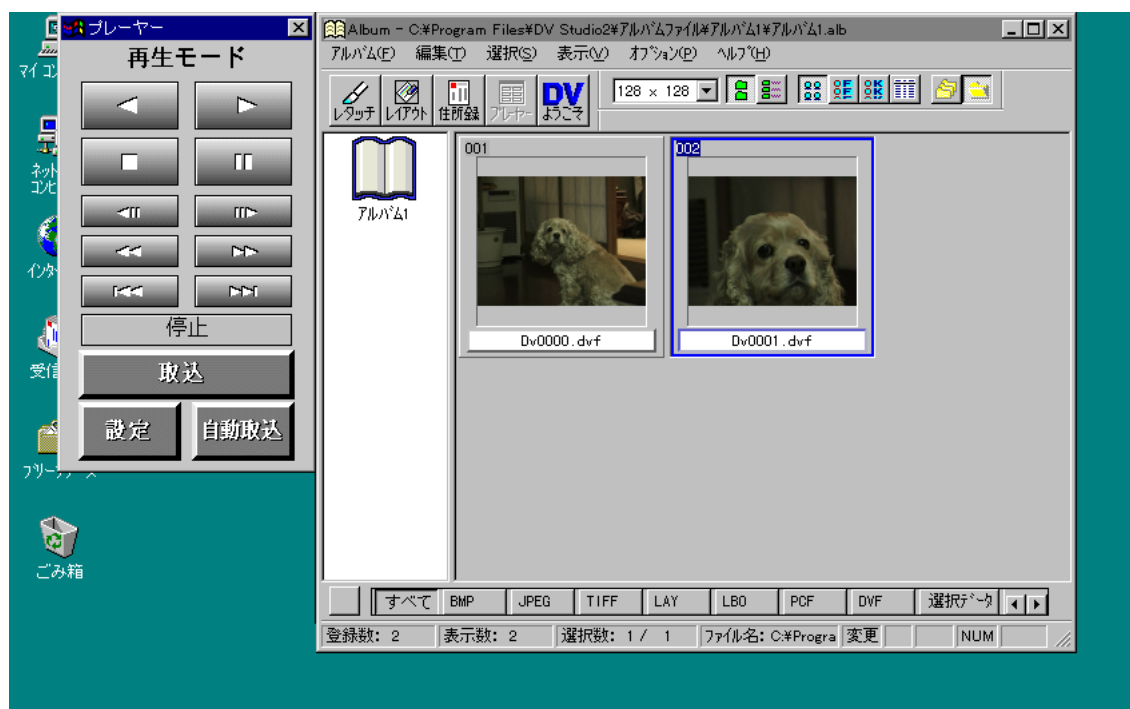


取り込んだ簡易画像のデータを破棄する場合は「はい (Y)」を選択してください。破棄しない場合は「いいえ (N)」を選択し、画像を「アルバム」に登録してから、「プレイヤー」を閉じてください。



プレイヤーの起動と終了

■プレイヤー画面



お知らせ

お使いのパソコンで「ディスプレイの省電力機能」がはたらき、「低電力スタンバイ」状態に入ったときは、画面の再立ち上げ時に「プレイヤー」の表示が遅れる場合があります。このときは、「プレイヤー」または「アルバム」のタイトルバーをクリックしてください。

再生モード

「プレーヤー」が起動されると、「プレーヤー」画面（＝ビデオ操作パネル）が表示されます。
「プレーヤー」画面（＝ビデオ操作パネル）を使ってデジカムを操作できます。
接続しているデジカムに撮影されたテープを入れ、再生モードにしてください。

◀ 逆再生ボタン
デジカムを逆再生します。

▶ 再生ボタン
デジカムを再生します。

■ 停止ボタン
デジカムを停止します。

■ 静止ボタン
デジカムの再生を一時停止し、静止画再生にします。

◀ 1 コマ戻しボタン
静止画再生中に押すと、画像を 1 コマ戻します。

▶ 1 コマ送りボタン
静止画再生中に押すと、画像を 1 コマ進めます。

◀◀ 巻き戻しボタン
デジカムを巻き戻します。
再生中に押すと、巻き戻し再生します。

▶▶ 早送りボタン
デジカムを早送りします。
再生中に押すと、早送り再生します。

◀◀ 逆フォトサーチボタン
フォトショット撮影した画像を、始端方向に検索します。

▶▶ 正フォトサーチボタン
フォトショット撮影した画像を、終端方向に検索します。

○環境設定ボタン
「プレーヤー」の環境設定ができます。

○自動取り込みボタン
自動取込形式設定に従い、静止画を自動的に取り込みます。

○取り込みボタン
現在、静止している標準画像を取り込みます。
(再生時は、静止状態にしてから取り込みます。)

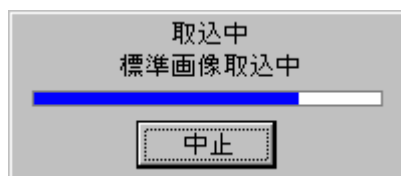
○デジカムの状態表示
デジカムの表示と画像処理の状態などを表示します。
(注) 実際のデジカムの状態と表示が異なる場合があります。

■画像取り込み

画像取り込み方法には、「任意の静止画取り込み」と「自動取り込み」があります。「アルバム」の [オプション(P)] メニューの [DV画像の設定] や、「プレーヤー」画面（＝ビデオ操作パネル）の [設定] で画像取り込みの設定ができます。

■任意の静止画取り込み

- 1 デジカムに、取り込みたい画像が記録されているテープを入れる。
- 2 デジカムを再生モードにする。
- 3 「プレーヤー」画面（＝ビデオ操作パネル）を操作して、任意の画像を静止画再生する。
デジカムの静止画再生は、デジカム側のファインダーやモニターで確認してください。
「プレーヤー」側には再生画は、表示されません。
- 4 [取込] をクリックする。
標準画像の取り込み進行状況が表示されます。



画像取り込みが完了すると、「アルバム」に画像が表示されます。
途中で取り込みを中止する場合は、[中止] をクリックします。

取り込んだ画像の加工などの処理は「レタッチ」機能で行います。

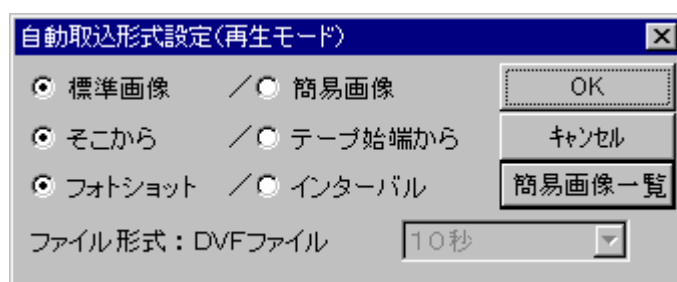
お知らせ

NV-C1 では、再生モードで、テープの静止画にタイトルやイラストフレームを重ねた画像を取り込むことはできません。

再生モード

■自動取り込み

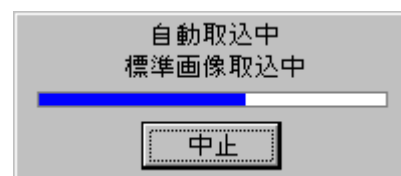
- 1 デジカムに、取り込みたい画像が記録されているテープを入れる。
- 2 デジカムを再生モードにする。
- 3 [自動取込] をクリックする。
「自動取込形式設定」画面が表示されます。
- 4 自動取込の設定をし、
[OK] をクリックする。
設定に従って自動的に画像が
取り込まれます。

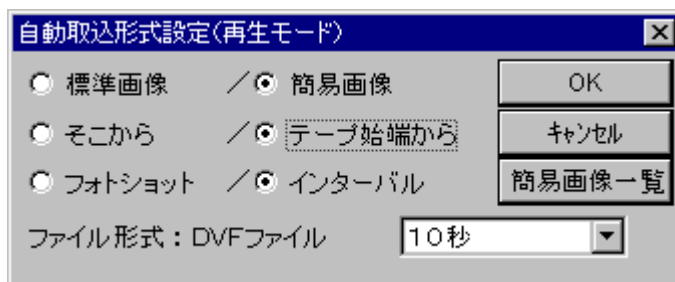


画像取り込みが完了すると、「アルバム」に画像が表示されます。

途中で取り込みを中止する場合は、
[中止] をクリックします。

取り込んだ画像の加工などの処理は
「レタッチ」機能で行います。





●標準画像

静止画標準データを取り込みます。

●簡易画像

静止画の表示用小画面データを取り込みます。取り込んだデータは簡易画像の一覧表示部に表示されます。[登録] をクリックすると、「アルバム」に画像を登録できます。[拡大] をクリックすると、画像を拡大して確認できます。[登録] や [拡大] を実行すると、デジカムが元の画像が記録されているテープ位置を検索してから、登録・拡大処理が実行されます。

(参照：[簡易画像](#))

●そこから

画像の自動取込（検索／取込）を、現在のテープ位置から開始します。

●テープ始端から

画像の自動取込（検索／取込）を、テープを始めまで巻戻してから開始します。

●フォトショット

フォトショット撮影された画像だけを検索し、取り込みを行ないます。

●インターバル

指定した時間ごとの静止画の取り込みを行ないます。

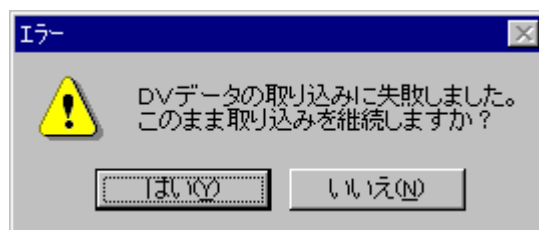
10 秒、20 秒、30 秒、1 分、2 分、3 分、5 分から選択します。

●簡易画像一覧

簡易画像の一覧表示画面に切り替わります。

お知らせ

- デジタルビデオカメラの場合、カメラ本体側のメニューの「ガメンヒョウジ」は「カウンタメモリ」以外にしてください。
- テープ内のすべてのデータを正常に取り込み完了後に、「エラー」画面が表示されますが、異常ではありません。[いいえ (N)] をクリックして取り込みを終了してください。



メモリー再生モード

接続しているデジカムをメモリー再生モードにすると、デジカムのメモリーに保存されているメモリーショット画像を取り込むことができます。

■設定

「プレーヤー」の環境設定を行ないます。(参照:[環境設定](#))

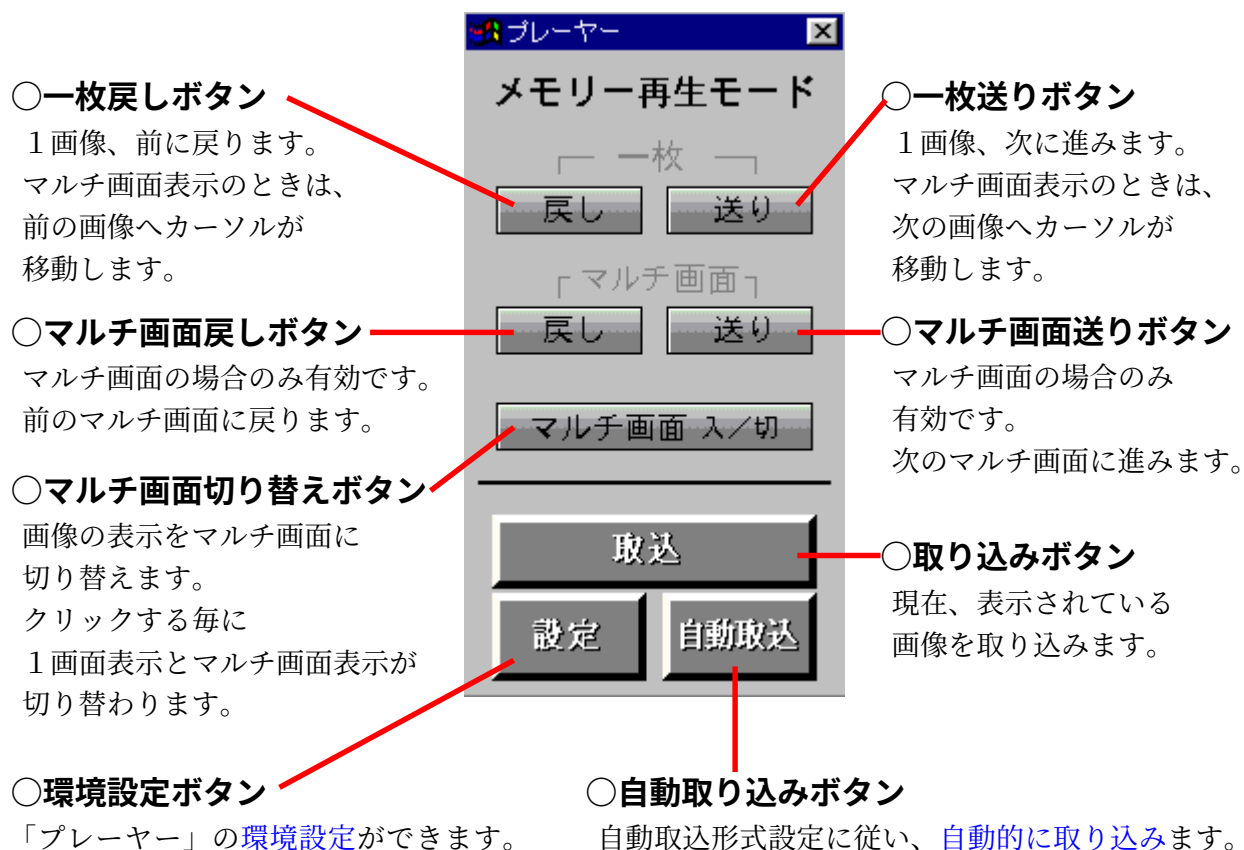
■画像取り込み

1 [一枚戻し] [一枚送り] ボタンで、取り込む画像を選択する。

マルチ画面の場合は枠で囲まれた画像が、現在選択されている画像になります。

2 [取込] ボタンをクリックする。

進行状況が表示され完了すると、アルバムに画像が登録されます。



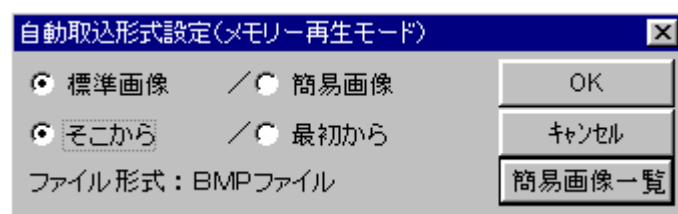
お知らせ

○ [一枚戻し] をクリックして、メモリーされている1枚目の画像よりさらに前に画面を戻そうとしたときや、[一枚送り] をクリックしたときに、メモリーに画像データがないときなどに「画像が記録されていません。」の確認画面が表示されます。

○ NV-C 1 のメモリーショット画像には、[環境設定] — [画像補正] のファインフレーム補正と簡易補正ははたられません。

■自動取り込み

自動取り込みボタンをクリックすると、[自動取込形式設定] 画面が表示されます。選択した設定に基づいて画像を取り込みます。



●標準画像

静止画標準データを取り込みます。

●簡易画像

静止画の表示用小画面データを取り込みます。取り込んだデータは簡易画像の一覧表示部に表示されます。[登録] をクリックすることで、「アルバム」に画像を登録できます。[拡大] をクリックすると、画像を拡大して確認できます。(参照: [簡易画像](#))

●そこから

画像の自動取込を行なう位置を、現在表示されている画像から取り込みます。

●最初から

画像の自動取込を行なう位置を、メモリの最初の画像から取り込みます。

●簡易画像一覧

簡易画像の一覧表示画面に切り替わります。

接続しているデジカムを撮影モードにすると、デジカムの撮影状態で静止画を取り込むことができます。

■設定

「プレーヤー」の環境設定を行ないます。(参照:[環境設定](#))

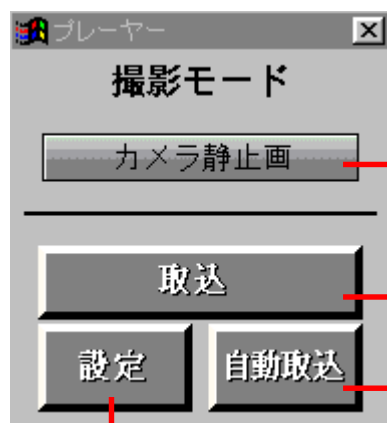
■画像取り込み

1 [カメラ静止画] ボタンをクリックする。

現在撮影されている画像が静止画の状態になります。

2 [取込] ボタンをクリックする。

静止画の標準画像が取込まれ、アルバムに登録されます。



○カメラ静止画ボタン

デジカムを静止画の状態にします。
再度クリックすると撮影の状態に戻ります。

○取り込みボタン

カメラ静止画ボタンで静止された画像を取り込みます。

○自動取り込みボタン

自動取込形式設定に従い、静止画を自動的に取り込みます。

○環境設定ボタン

「プレーヤー」の[環境設定](#)ができます。

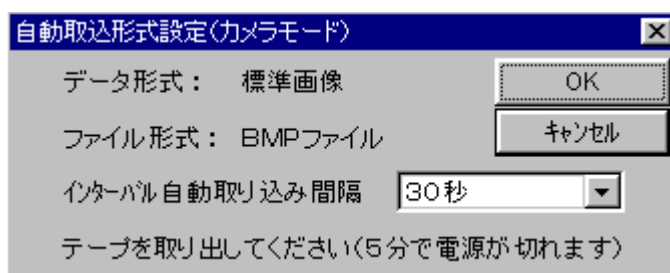
お知らせ

次の品番の機種では、撮影モードは機能しません。

NV-DP1、NV-DL1、NV-DE3、NV-DS5、NV-DJ100、
NV-DS7、NV-DS7/NW、NV-DS80K、

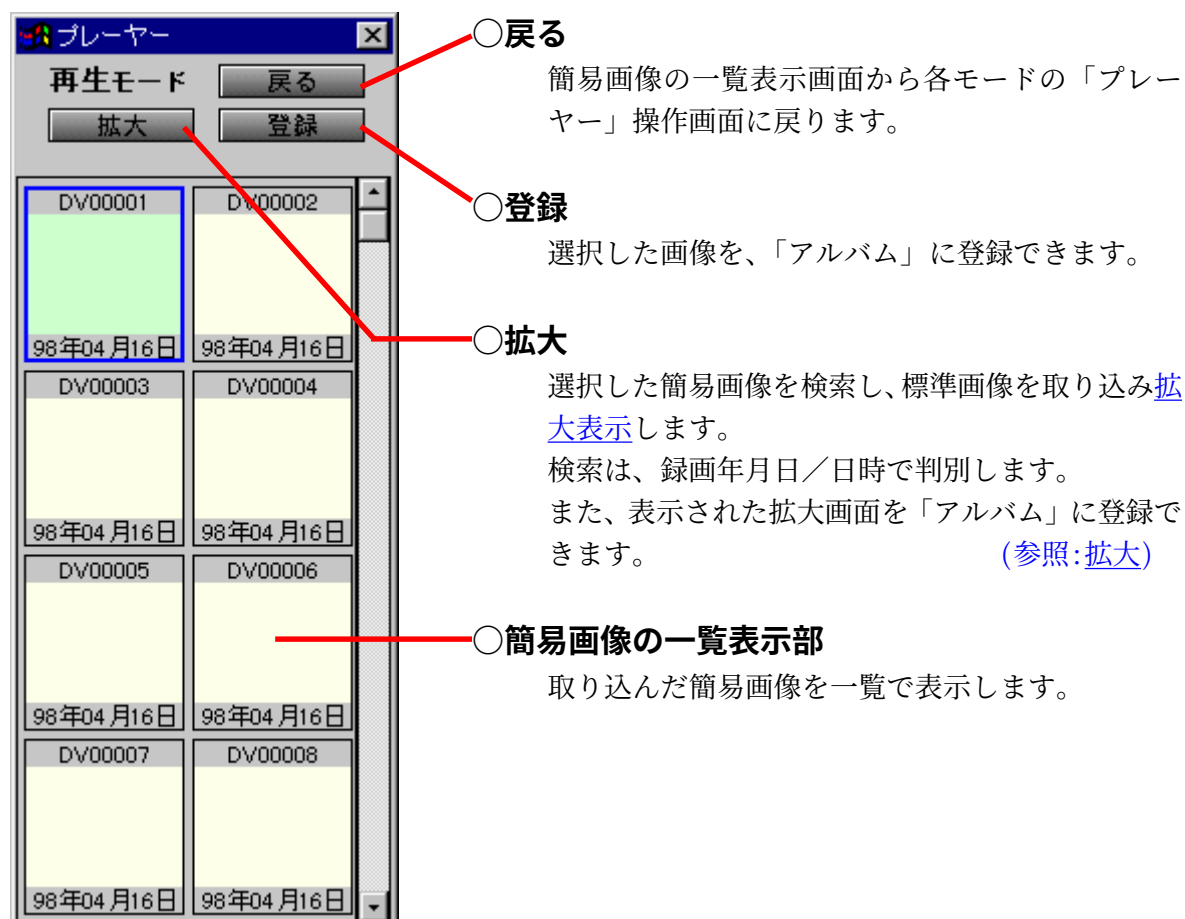
■自動取り込み

[自動取込形式設定] の [インターバル自動取り込み間隔] で設定した時間毎に画像を取り込みます。



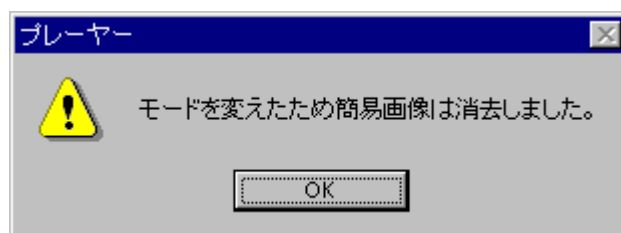
〔自動取込〕で〔簡易画像〕を選択すると、静止画の簡易画像を取り込みます。取り込まれた画像は、「プレーヤー」に取り込んだ順に、一覧表示部に表示されます。

〔拡大〕をクリックすると、選択されている簡易画像が拡大表示されます。また、〔登録〕をクリックすると、アルバムに登録できます。



お知らせ

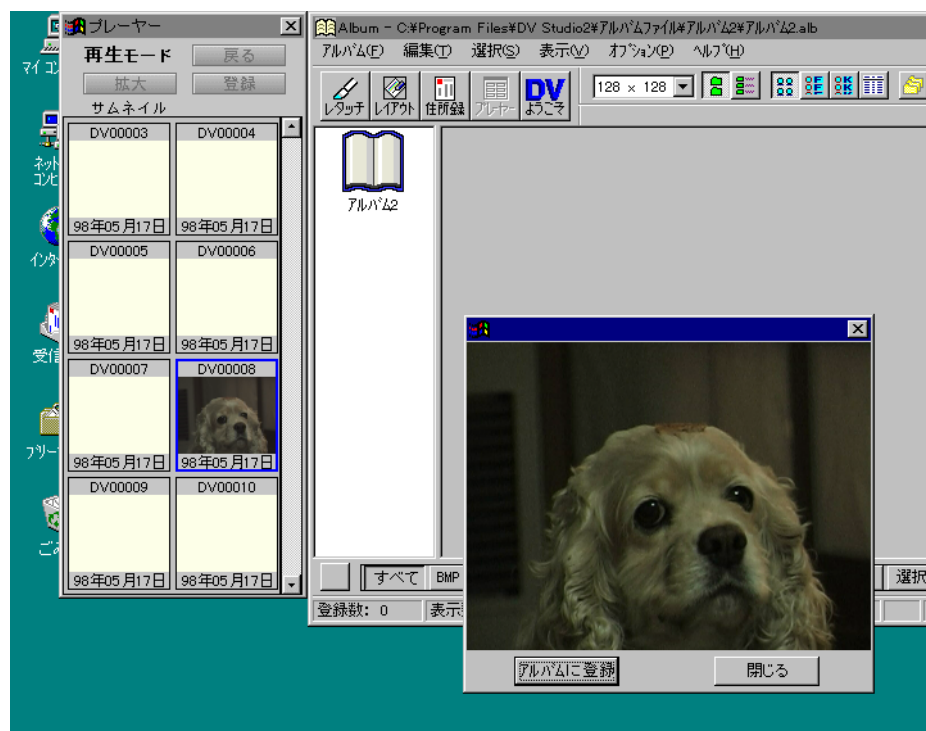
- デジカムの操作モードを切り替えると、簡易画像は消去されます。必要な画像は、モードを切り替える前に、「アルバム」に登録してください。



- 簡易画像に該当する標準画像の検索は、録画年月日／日時に判別するため、撮影時にデジカム本体で「日時」設定がされていないと、簡易画像からの登録／拡大ができない場合があります。

●拡大

拡大表示画面の「アルバムに登録」をクリックすると、そのまま「アルバム」に登録されます。
「閉じる」をクリックすると、登録されず、拡大画面が閉じられます。



DV画像の設定

「プレーヤー」で取り込む画像について、次のような設定ができます。

- 1 「アルバム」の[オプション(P)]メニューの[D V画像の設定]を選択する。
「DVの設定」画面が表示されます。

- 2 画像の設定を行い、
[OK]をクリックする。



●取り込み形式

取り込む画像の保存フォーマット形式を選択します。取込時点ではD V F形式ですが、保存するさいの形式をB M P形式とD V F形式から選択します。

「プレーヤー」のビデオ操作パネルの[設定]でも設定できます。

●画像補正

D V F形式からの画像フォーマット変換時に有効です。

- ☐ ファインフレーム自動補正
- ☐ ファインフレーム(奇数フィールド)
- ☐ ファインフレーム(偶数フィールド)
- ☐ 簡易補正
- ☐ 簡易補正 (奇数フィールド)
- ☐ 簡易補正 (偶数フィールド)
- ☐ 補正なし

(参照:環境設定、「画像補正」)

●上下左右の削除ライン

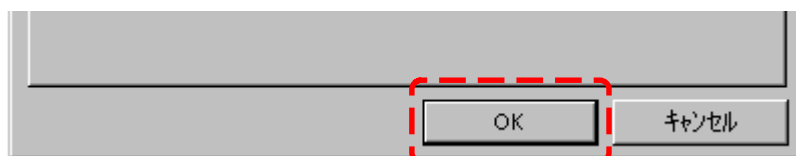
取り込んだ画像に、黒い枠が表示される場合があります。上下左右の黒枠をドット単位で削除することができます。「プレーヤー」の[環境設定]でも設定することができます。

「プレーヤー」の操作環境を設定することができます。

- 1 **「設定」をクリックする**
「環境設定」画面が表示されます。



- 2 **操作環境を設定し、[OK] をクリックする。**
操作環境が設定され、画面がもとに戻ります。



●登録ファイル

「アルバム」に登録するファイルのファイル形式を選択します。

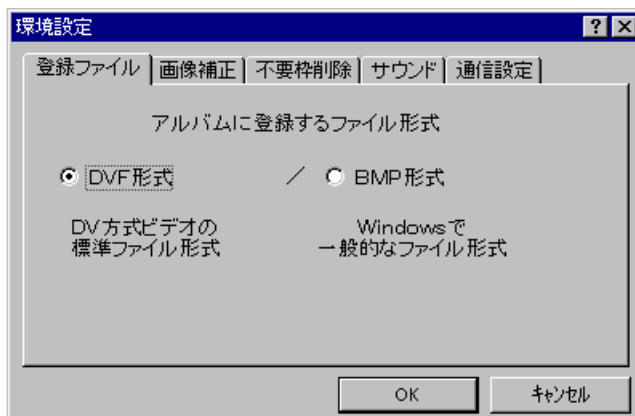
○BMP形式

Windows で使用する画像の一般的なファイル形式です。

○DV F 形式

デジカムから取り込んだ画像形式です。(BMP に対して約 1 / 7 のファイルサイズです。)

「アルバム」から「レタッチ」などへドラッグ&ドロップで移動はできませんが、「レタッチ」などで編集する場合は自動的に画像フォーマットが変換されます。



●画像補正

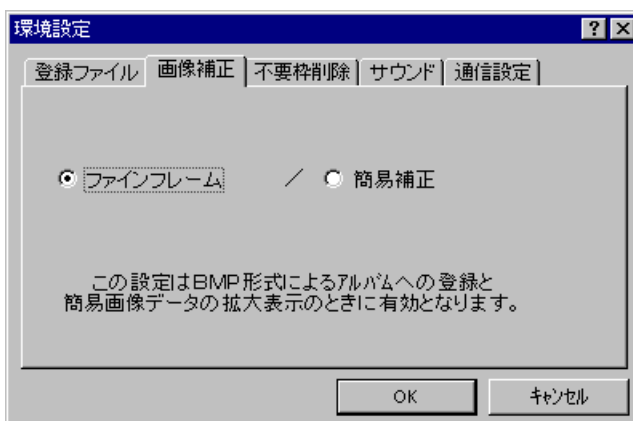
動いている映像を静止画再生して取り込んだ場合の、画像の輪郭がギザギザになることを補正します。BMP形式による「アルバム」への登録と簡易画像の拡大表示のときに有効です。

○ファインフレーム

1 フレーム内の 2 枚のフィールド間の動きを検出し、動きのある場合にはブレが少なくなるように補正します。動きが少ない場合は 2 枚のフィールドを使用してフレームの解像度を保ちます。通常はこちらをお使いください。

○簡易補正

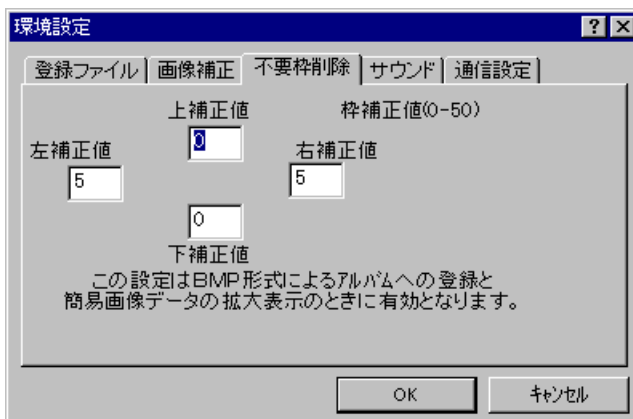
再生中のフィールド画像だけを使用して画像のブレを補正します。



●不要枠削除

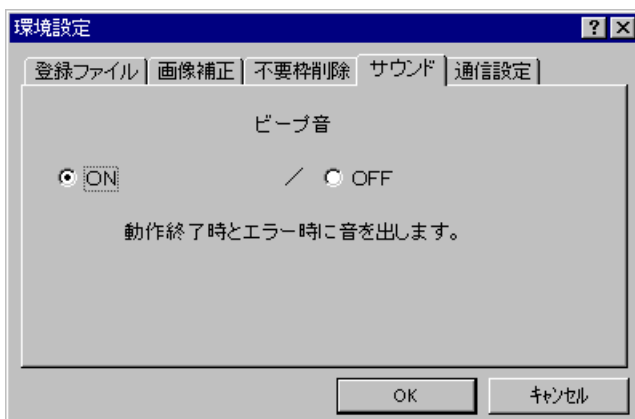
画像以外の部分（黒い枠）などを削除できます。上下左右の削除する部分をドット単位で設定します。枠補正值は 0～50 の値で入力します。

BMP形式による「アルバム」への登録と簡易画像の拡大時に使います。



●サウンド

「プレーヤー」の動作が終了した時と、エラーが発生した時に鳴るビープ音のオン・オフ設定ができます。



●通信設定

インターフェースアダプターが接続されている COM ポート（通信ポート）や、COM ポートの通信速度の設定ができます。設定する際は、使用中のパソコンの通信ポートをご確認ください。

○接続ポート

デジカムのインターフェースアダプターが接続されている COM ポート（通信ポート）をリストから選択します。COM1～COM4の中から選びます。

○通信速度（ボーレート）

通常は「自動設定」にします。

「自動設定」を選択すると、現在接続できる最も速い通信速度に設定されます。

取り込み操作時にデータ転送の障害が発生した場合は、通信速度を低く設定してください。

また、パソコンの機種によっては、115.2kbpsの速度に対応していないものもありますので、その場合は通信速度を低く設定してください。



画像の保存

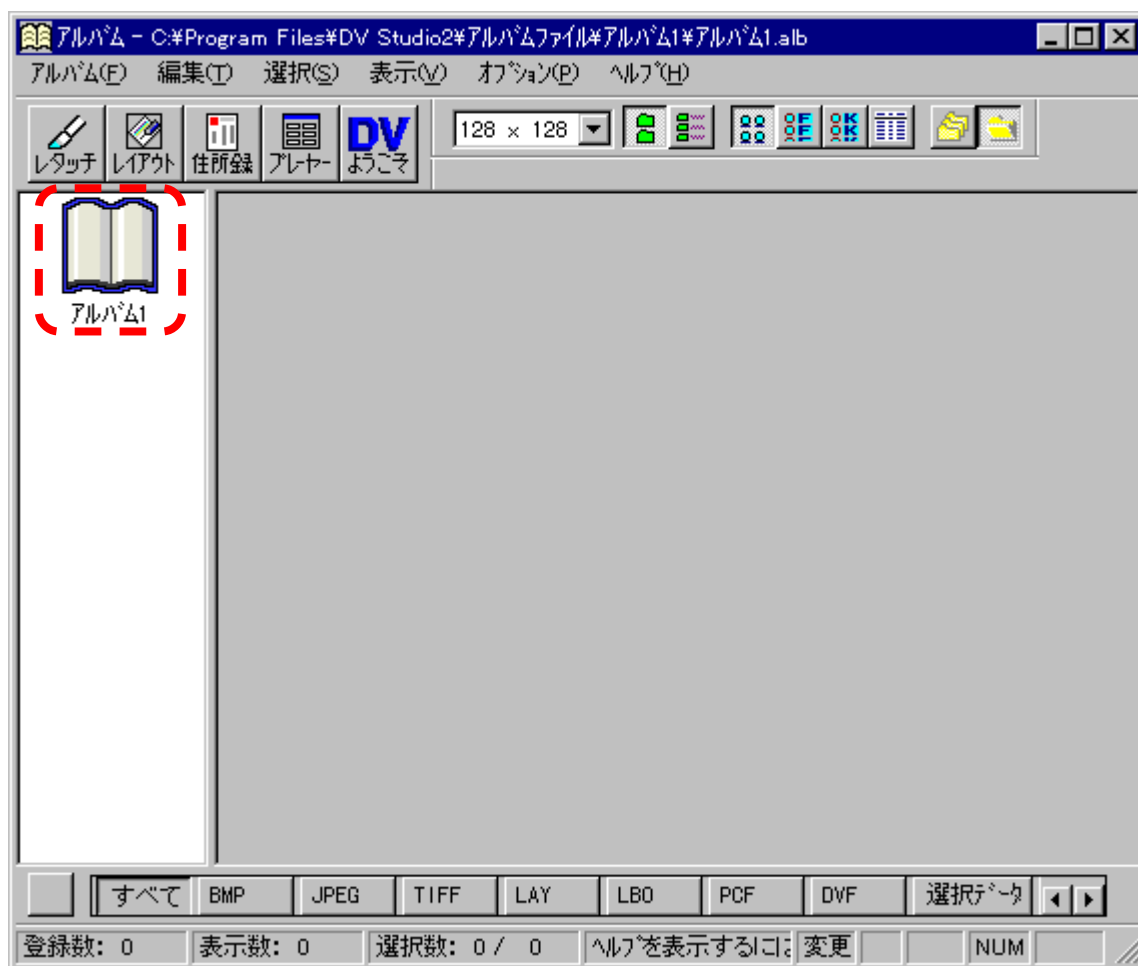
A 「ようこそ」画面の「アルバム」から「プレーヤー」を起動した場合

自動で作成される新規「アルバム」のフォルダに画像が登録されます。初期設定では、画像保存フォルダ名は「アルバム＊」になっています。この「アルバム＊」の名前を変えることもできます。

フォルダー名の＊の数字は、「アルバム」が起動するたびに、自動的に連番で増えていきます。

B 「アルバム」のリモコンバーから「プレーヤー」を起動した場合

現在開いている「アルバム」のフォルダに画像が登録されます。



第Ⅱ章 アルバム

「アルバム」は、画像を管理する画像データベースソフトです。画像をファイル単位、フォルダ単位で登録し、登録画像をサムネイルで一覧表示します。登録した画像には独自のキーコメントを設定して、検索や分類することができます。また、登録している画像からダイレクトに編集アプリケーションの「レタッチ」を起動して画像を編集することができます。

「アルバム」では、一般的な形式の画像ファイルに加えて、「DVスタジオ2」の各種書類を登録できます。「レタッチ」のレイヤーが保存された独自形式の画像や「レイアウト」の書類も登録できます。

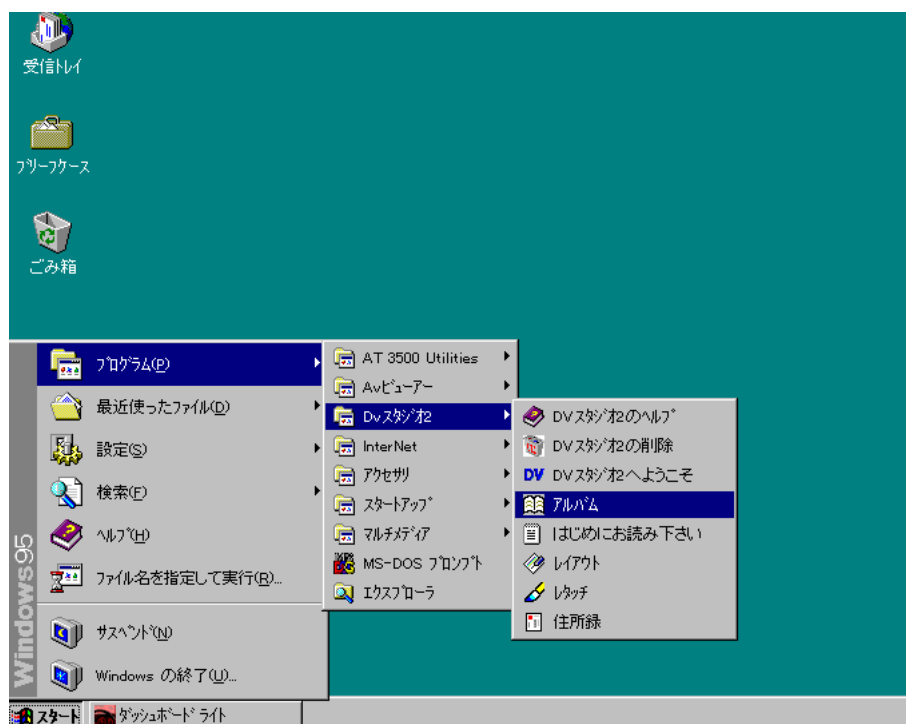
2.1	アルバムの起動	Ⅱ -2
2.2	アルバム画面	Ⅱ -3
2.3	アルバムの終了	Ⅱ -4
2.4	アルバムファイルの操作	Ⅱ -5
2.5	アルバムの画像の印刷	Ⅱ -8
2.6	画像の登録	Ⅱ -10
2.7	アルバムの操作	Ⅱ -16
2.8	画像の検索	Ⅱ -20
2.9	登録画像の表示	Ⅱ -22
2.10	環境設定	Ⅱ -27
2.11	設定の初期化	Ⅱ -30
2.12	サムネイル画面のコンテキストメニュー	Ⅱ -31
2.13	フォルダ画面のコンテキストメニュー	Ⅱ -38
2.14	ツールバー	Ⅱ -40
2.15	「レタッチ」、「レイアウト」との連携	Ⅱ -41

アルバムの起動

次の3種類の起動方法があります。

「アルバム」を起動すると、同時に「プレーヤー」も起動されます。

A 「スタート」メニューから「プログラム(P)」－「DVスタジオ2」－「アルバム」を選択する。



B 「DVスタジオ2へようこそ」を起動後、「ようこそ」画面で「アルバム」をクリックする。



C 「レイアウト」「レタッチ」「住所録」のリモコンバーで「アルバム」をクリックする。



アルバム画面

第II章 アルバム

起動操作後、「アルバム」が起動され、編集用の画面が表示されます。各ツールバーのボタンをクリックすることで、画像登録や削除、ウィンドウの表示方法などの処理ができます。

○リモコン バー

他のパッケージプログラムを
起動できます。

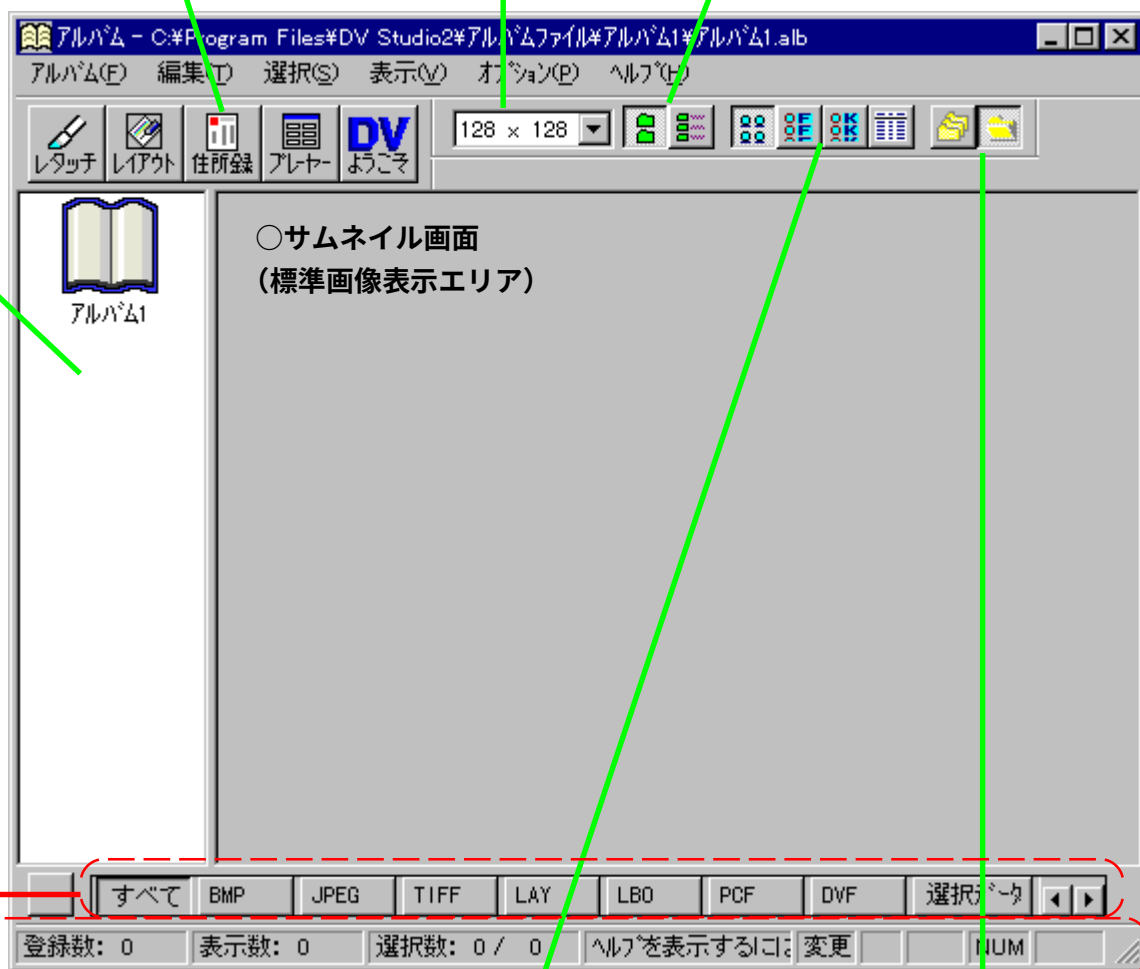
○フォルダ画面のアイコン表示

フォルダ画面に表示されている、
フォルダアイコンの大きさを変更
することができます。

○サムネイルのサイズ

サムネイルの表示サイズを変更
することができます。

○フォルダ画面



○登録画像の表示方法を変更

左側から、「標準」、「ファイル情報」、
「キーデータ」、「詳細」です。

○ステータス バー

アルバムの表示情報を表示することができます。

○カテゴリタグ バー

登録されている画像を対象に、画像ファイル形式別に表示することができます。

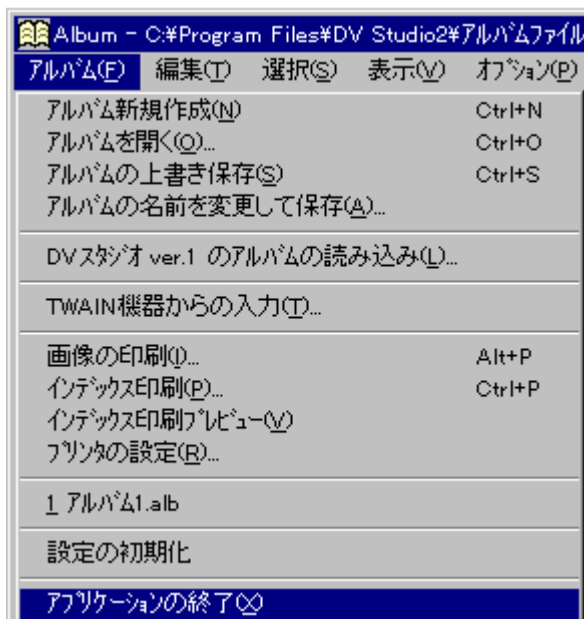
○サムネイル画像の表示方法

登録されているすべての画像
を表示するか、現在のフォル
ダ内を表示するかを切り替え
ます。

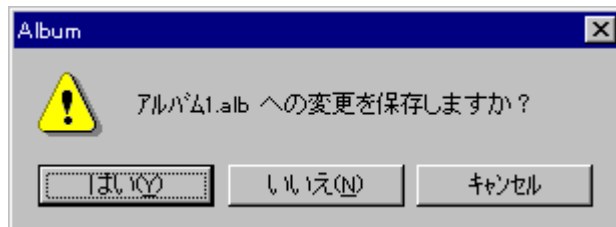
アルバムの終了

第Ⅱ章 アルバム

「アルバム(F)」メニューより[アプリケーションの終了 (X)]を選択して終了します。



「アルバム」画面に保存されていない書類がある場合、保存メッセージが表示されます。必要であれば保存処理を行ってください。



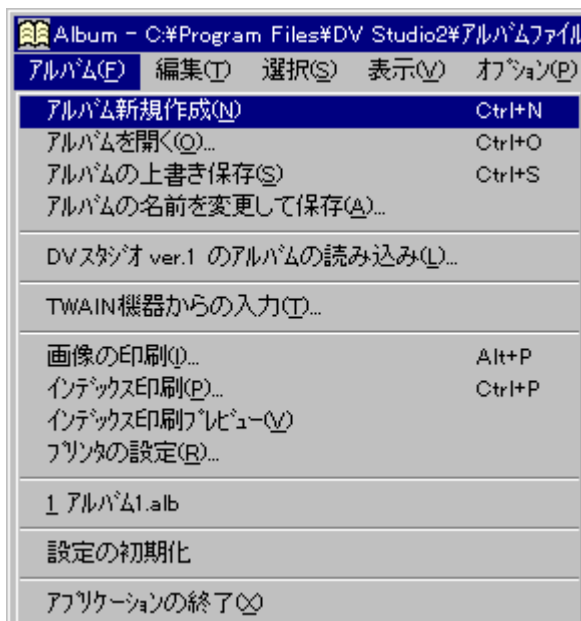
お知らせ

「プレーヤー」で簡易画像が表示されているときに、「アルバム」を終了すると、簡易画像のデータが破棄されます。画像を保存したい場合は、一旦、簡易画像を「アルバム」に登録後、保存処理を行ってください。

アルバムファイルの操作

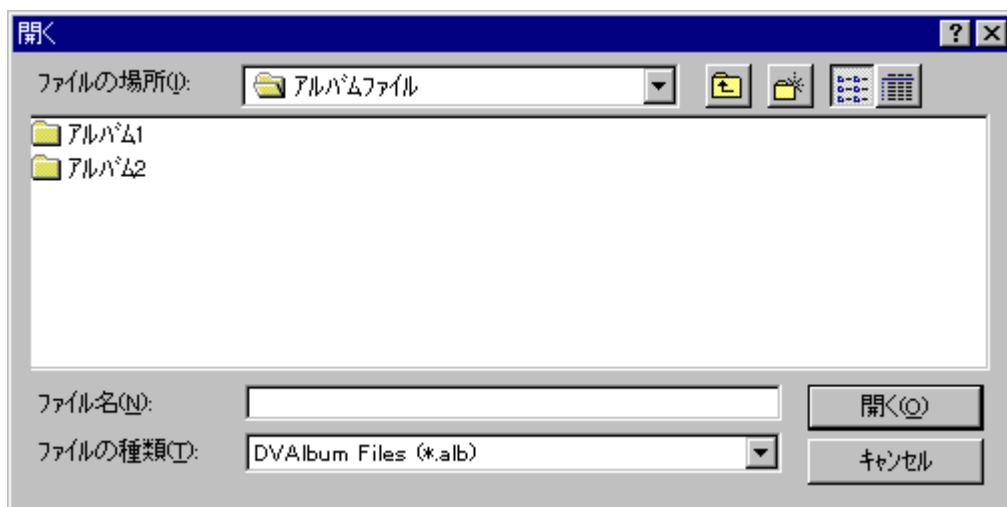
■アルバムの新規作成

「アルバム(F)」メニューより[アルバム新規作成 (N)]を選択します。機能画面に新規書類が開かれます。



■アルバムファイルを開く

「アルバム」で保存したファイルを開きます。「アルバム(F)」メニューより[アルバムを開く (O)]を選択すると「開く」画面が表示されます。「アルバム」で保存したファイルの場所、保存先フォルダを指定し、ファイルを開きます。



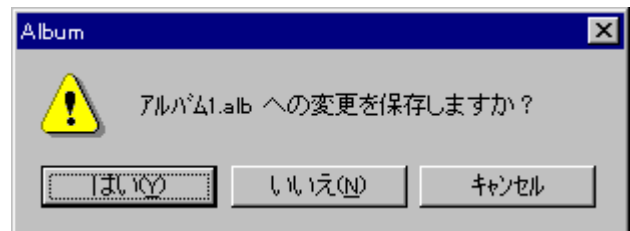
「DVアルバムファイル」内の「アルバム1」というフォルダに「(例)アルバム1.alb」という名前で保存されています。

アルバムファイルの操作

第Ⅱ章 アルバム

■アルバムの上書き保存

「アルバム」に現在開かれている書類に対しての変更を保存します。既存のアルバムファイルを開き変更を加えて保存する場合、「アルバム(F)」メニューより「アルバムの上書き保存(S)」を選択します。上書き保存をせずに「アルバム」を終了した場合、変更を保存する画面が表示されますので、必要であればメッセージに従い保存してください。



■アルバムの名前を変更して保存

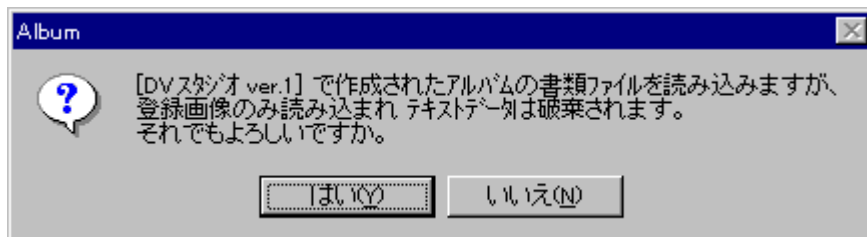
「アルバム」に現在開かれている書類に対して、名前を付けて別の書類として保存します。「アルバム(F)」メニューより「アルバムの名前を変更して保存(A)」を選択します。選択すると「名前の変更」画面が表示されます。入力された名前で新たにファイルが保存されます。



■アルバムの前バージョン書類の読み込み

以前の「DV Studio ver1.0」で保存したアルバム書類を開くことができます。但し、前バージョンで入力した文字情報は破棄され、登録画像のみの読み込みになります。

- 1 「アルバム(F)」メニューより[DVスタジオ ver.1のアルバムの読み込み(L)]を選択する。
テキストデータが破棄される旨のメッセージが表示されます。

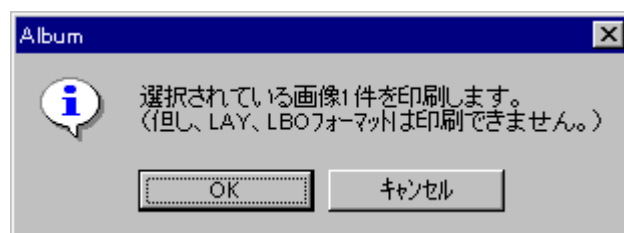


- 2 「はい」を選択する。
ファイルを「開く」画面が表示されます。
- 3 保存場所を指定し前バージョンで作成したアルバム書類を開く。
テキストデータは破棄され登録画像が表示されます。

アルバムの画像の印刷

選択された画像を印刷できます。

- 1 印刷したい画像を選択する。
- 2 「アルバム(F)」メニューより「プリンタの設定 (R)」を選択する。
プリンタの設定を行なってください。
- 3 「アルバム(F)」メニューより「画像の印刷 (I)」を選択する。
「Album」画面が表示されます。



- 4 [OK] をクリックする。
印刷が実行されます。

印刷サイズなどは元画像のサイズで印刷されます。

お知らせ

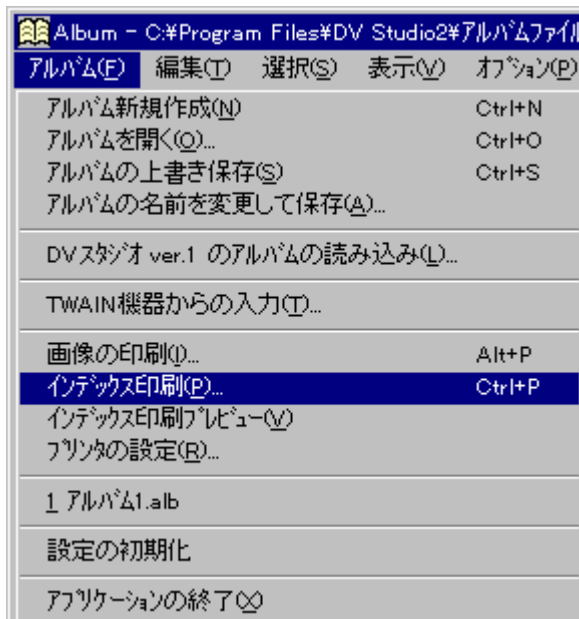
画像を右クリックし、表示された[コンテキストメニュー](#)より「[画像の印刷](#)」を選択しても、印刷できます。

アルバムの画像の印刷

■インデックス印刷

現在表示されている登録画像を一覧形式で印刷できます。

- 1 「アルバム(F)」メニューより[インデックス印刷 (P)]を選択する。
「印刷」画面が表示されます。



- 2 用紙サイズや印刷モードなどを設定し印刷を実行する。

■インデックス印刷プレビュー

インデックス印刷のプリントイメージを表示できます。

「アルバム(F)」メニューより[インデックス印刷プレビュー(V)]を選択すると、現在表示されている登録画像の印刷イメージが表示されます。

■画像の登録

画像をファイル単位で「アルバム」に登録します。

- 1 「編集 (I)」メニューより「画像の登録」を選択する。
「画像の登録」画面が表示されます。



- 2 登録したい画像ファイルを選択する。
複数選択する場合は [Ctrl] キー、[Shift] キーを使用します。
[Ctrl] キーを押しながら、ファイルをクリックすると、クリックしたもの全て選択できます。
[Shift] キーを押しながら、クリックすると、クリックしたファイルからクリックしたところまで選択されます。
単独で選択した場合は、[プレビュー表示] のチェックボックスにチェックを付けることで、選択した画像をプレビュー画面で確認することができます。
- 3 登録するファイルを選択した後、[追加] をクリックする。
選択されているファイル名が「登録されたファイル一覧」画面に表示されます。不要なファイルを削除する場合は、ファイルを選択し[削除]をクリックします。
- 4 登録するファイルの追加が完了したら [開く (O)] をクリックする。
選択された画像の登録進行状況が表示され、登録作業が終了すると「アルバム」に選択した画像が表示されます。

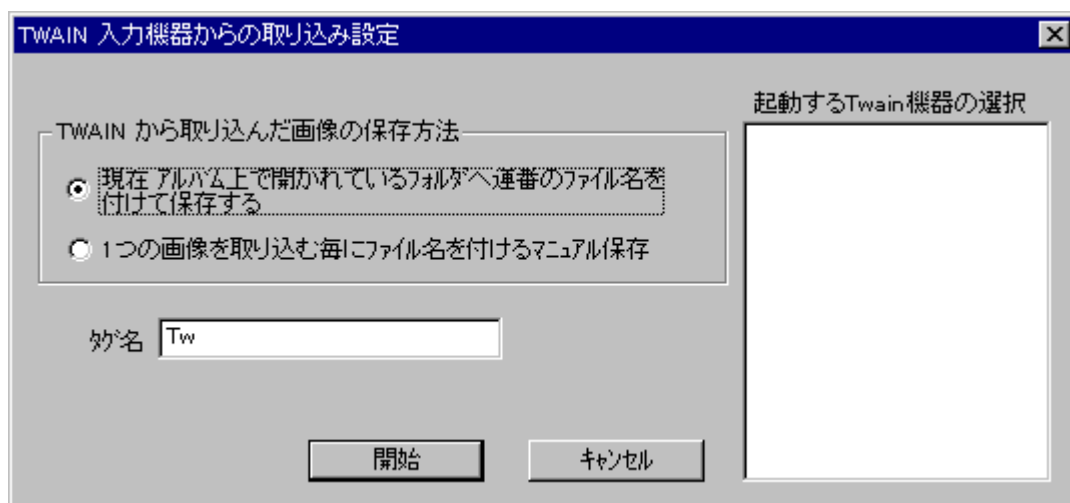
■ TWAIN 機器からの登録

TWAIN とは、スキャナとアプリケーションのインターフェイスに関する業界標準規格のことです。DV SUTUDIO では、デジカムやスキャナなどの TWAIN 対応機器から、画像を登録できます。

● TWAIN 機器からの入力

1 [アルバム(F)] メニューより [TWAIN 機器からの入力 (T)] を選択する。

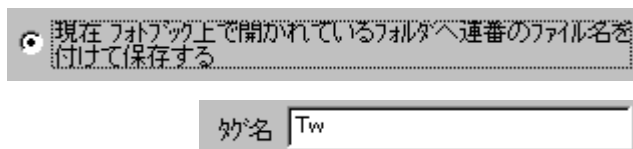
「TWAIN 入力機器からの取り込み設定」画面が表示されます。



2 設定後、[開始] をクリックする。

○ TWAIN から取り込んだ画像の保存方法

- ・ 連番を付けて保存：



現在アルバム上に開かれているフォルダに連番のファイル名を付けて保存します。タグ名に入力されている名前に連番を付けて保存します。タグ名は初期の状態では「Tw」に設定されています。変更する場合は、あらたな名前を入力して下さい。

- ・ 画像ごとにファイル名を付けて保存：



現在アルバム上に開かれているフォルダに取り込んだ画像1枚ごとファイル名を付けて保存します。

○ 起動する Twain 機器の選択

起動する TWAIN 機器を選択できます。

お知らせ

現在、パソコンにインストールされている TWAIN ドライバが表示されます。

表示されない場合は、使用する TWAIN 機器の TWAIN ドライバをインストールしてください。

■画像登録の削除

「アルバム」に登録した画像を削除します。

- 1 表示されている登録画像より削除する画像を選択する。
- 2 「編集 (T)」メニューより[画像登録の削除 (D)]を選択する。
「削除」確認画面が表示されます。
- 3 [OK] を選択する。
選択した画像が削除されます。



削除したい画像を右クリックし、表示された[コンテキストメニューから\[削除\]を選択](#)しても削除できます。

■フォルダの登録

画像ファイルをフォルダ単位で「アルバム」に登録できます。現在開いている「アルバム」にフォルダごとコピーして登録します。

1 「編集 (T)」メニューより[フォルダの登録 (O)]を選択する。

「フォルダの参照」画面が表示されます。

2 登録するフォルダの選択リストより、画像ファイルの保存されているフォルダを選択し、「OK」をクリックする。

登録進行状況が表示され、完了すると選択したフォルダと画像が「アルバム」に表示されます。



フォルダをドラッグ&ドロップで「アルバム」に登録することもできます。

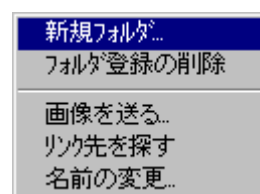
■新規フォルダの作成

登録画像もしくはファイルを移動、コピーして管理するための新しいフォルダを作成できます。

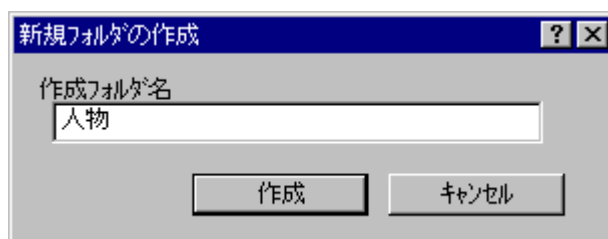
- 1 フォルダ画面を右クリックする。
メニューが表示されます。



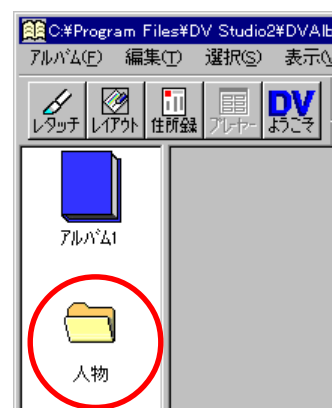
- 2 メニューより「新規フォルダ」を選択する。
「新規フォルダの作成」画面が表示されます。



- 3 作成フォルダ名を入力し、
「作成」をクリックする。
フォルダー画面に新規のフォルダーが
表示されます。



「人物」という名前の新規フォルダー



お知らせ

- フォルダーを新規作成するだけで、この時点では画像の登録はできません。また、フォルダーの作成場所は指定できません。
- Windows95のエクスプローラなどを使用したフォルダの追加、登録などの操作はできません。

■登録フォルダの削除

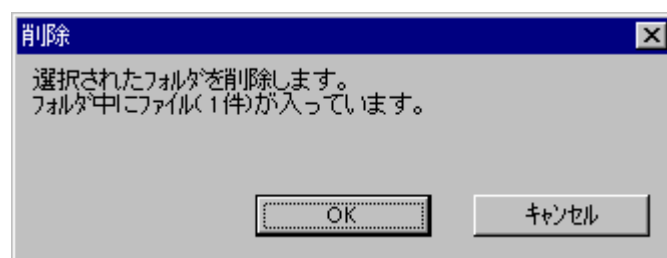
登録したフォルダを削除できます。

1 削除するフォルダを選択する。



2 「編集 (T)」メニューより [フォルダ登録の削除 (W)] を選択する。

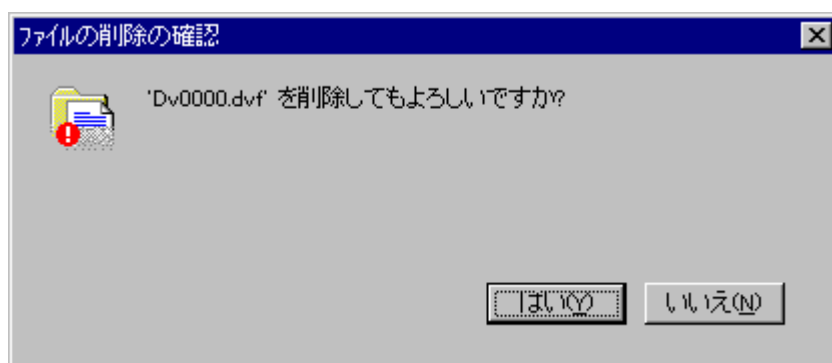
「削除」確認画面が表示されます。



3 「OK」を選択する。

フォルダ内に画像データが無い場合は、そのまま削除されます。

画像データがある場合、フォルダ内のコピーされた画像を削除する「ファイルの削除の確認」画面が表示されます。



4 画像ファイルを削除する場合は [はい (Y)] を選択し、 削除しない場合は [いいえ (N)] を選択する。

■ドラッグ&ドロップでの操作

画像ファイルをドラッグ&ドロップで登録できます。

「レタッチ」や他のグラフィックソフトなどにもドラッグ&ドロップで開くことができます。他のグラフィックソフトへのドラッグ&ドロップの場合、画像をコピーという形になります。

お知らせ

DV F形式はドラッグ&ドロップに対応していません。サムネイル画像を右クリックして、表示された[コンテキストメニュー](#)から[\[画像フォーマットの変換\]](#)を選択し、画像の形式を変換してからドラッグ&ドロップしてください。

■画像を送る

選択された画像を他の場所や他のフォルダに、コピーできます。

- 1 送りたい画像を選択する。
- 2 「編集 (I)」メニューより「画像を送る (S)」を選択する。
「画像を送る」画面が表示されます。



- 3 「送り先のフォルダ」でファイルを送るフォルダを指定する。
- 4 送り先フォルダの場所、フォルダ名を直接入力するか、[参照] をクリックし、フォルダを指定する。
- 5 「送る」をクリックする。

お知らせ

- サムネイル画像を右クリックし、表示された[コンテキストメニュー](#)より[\[画像を送る\]](#)を選択しても、「画像を送る」画面を表示できます。
- 同じ「アルバム」内では、「画像を送る」コマンドでは、一旦「アルバム」を閉じないと画像が表示されないため、ドラッグ&ドロップで画像を送ってください。

■サムネイル画像のコピー

「アルバム」に表示されているサムネイルの画像を、クリップボードにコピーできます。
コピーする画像を選択し、「編集 (T)」メニューより「サムネイル画像のコピー(C)」を選択します。
サムネイル画像がクリップボードにコピーされます。

■選択画像の更新

選択された画像のサムネイルを更新します。
元画像の情報とサムネイル画像の情報が違う場合など、「オプション(O)」メニューの「カートのリンク情報の更新 (P)」を選択すると、元画像の情報に合わせてサムネイルデータを更新できます。

■すべての登録画像の更新

元画像に編集を加えたり、元画像に変更を加えたりした時に、サムネイル画像の表示が変更されずに変更前のままの時があります。そのような時に、「オプション(O)」メニューから「全てのリンク情報の更新 (U)」を選択すると、サムネイル画像の表示を更新し、元画像と同じ表示に変更できます。

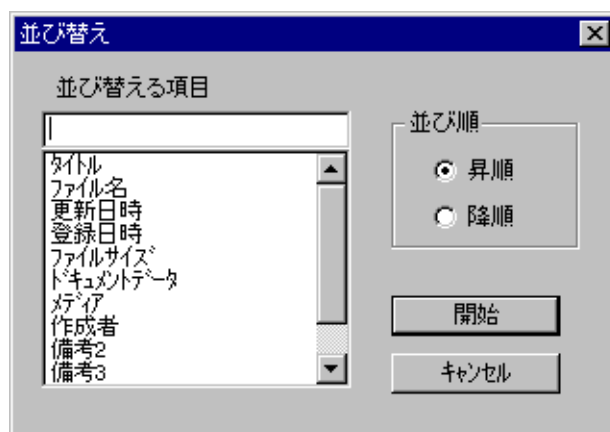
■サムネイル画像の再作成

サムネイル画像を再作成し、元画像に合わせて表示します。
「オプション(O)」メニューより「サムネイル画像の再作成 (W)」を選択します。

■登録画像の並び替え

表示されている登録画像を対象に順番を並び替えることができます。

- 1 「編集 (I)」メニューより「並び替え (I)」を選択する。
「並び替え」画面が表示されます。



- 2 「並び替える項目」に、並び替えの対象となる項目を選択する。
- 3 「並び順」で選択した項目を対象に、「昇順」か「降順」を選択する。
- 4 「開始」をクリックする。

並び替えが実行され、条件にあった順序で表示されます。

ドラッグ&ドロップで任意に順番を替えることもできます。

■表示されている画像のすべてを選択する

「アルバム」に表示されている、全ての画像を一度に選択することができます。「選択 (S)」メニューより「全て選択 (S)」をクリックすると、表示されている全ての画像が選択されます。

■すべての選択を解除する

表示中の画像が全て選択された状態を解除するには、「選択 (S)」メニューの「全ての選択を解除 (D)」をクリックします。クリックすると全ての画像の選択が解除されます。

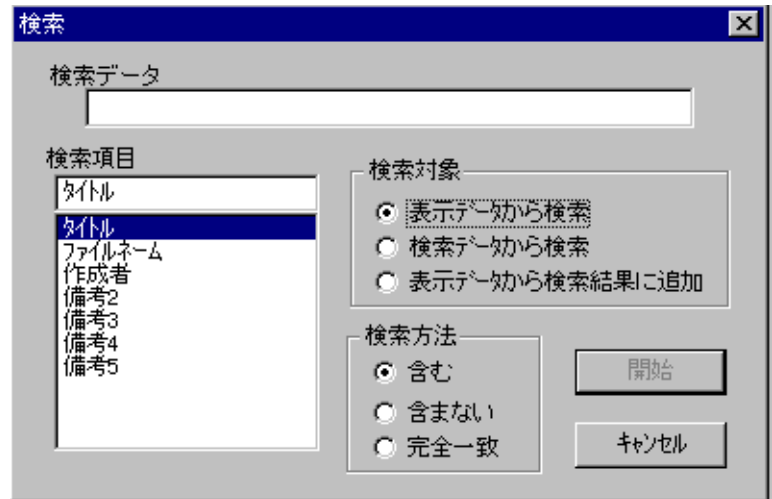
■選択の反転

選択されている画像を反転することができます。「選択 (S)」メニューより「選択を反転 (I)」をクリックします。クリックすると、現在選択されている画像と、選択されていない画像が反転して選択されます。

■文字での検索

設定した検索条件で該当のものを検索します。

- 1 「編集 (I)」メニューより [検索] を選び、[文字検索 (F)] を選択する。
「検索」画面が表示されます。

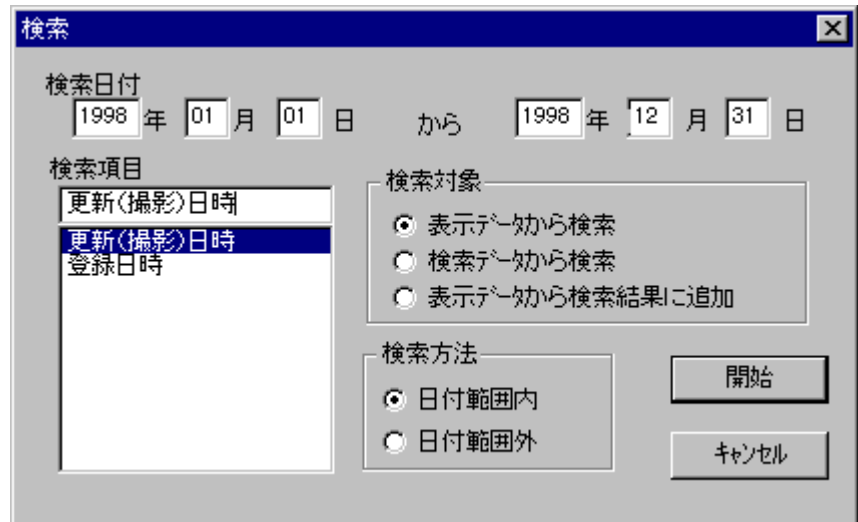


- 2 [検索データ] に検索したい条件（文字列）を入力する。
- 3 [検索項目] で検索を実行する項目を選択リストより選ぶ。
- 4 [検索対象] で検索の対象となるデータを選択する。
 - 表示データから検索：
現在表示されているサムネイル画像の中から、検索条件に該当のものを検索します。
 - 検索データから検索：
検索を実行して表示されたデータの中から、さらに絞り込んで検索することができます。
 - 表示データから検索結果に追加：
現在表示されているサムネイル画像の中から、検索条件に該当するものを検索し、現在表示されている検索結果に追加していきます。
- 5 [検索方法] で入力したデータを検索する方法を選択する。
 - 含む：
検索データで入力した文字列を含んだものを検索します。
 - 含まない：
検索データで入力した文字列を含まないものを検索します。
 - 完全一致：
検索データで入力した文字列と完全に一致したものを検索します。
- 6 各検索条件を設定したら、[開始] をクリックする。
検索条件を元に検索が開始され、検索結果が表示されます。

■日付での検索

設定した日付けや検索条件に該当したものを検索します。

- 1 「編集 (I)」メニューより「検索」を選択し、「日付検索 (Y)」を選ぶ。
「検索」画面が表示されます。



- 2 「検索日付」に検索項目で選んだ項目の当てはまるデータの日付を入力する。

- 3 「検索項目」で検索する項目を選択する。

- 4 「検索対象」に検索の対象となるデータを選択する。

○表示データから検索：

現在表示されているサムネイル画像の中から、検索条件に当たるものを検索します。

○検索データから検索：

検索を実行して表示されたデータの中から、さらに絞り込んで検索することができます。

○表示データから検索結果に追加：

現在表示されているサムネイル画像の中から、検索条件に該当するものを検索し、現在表示されている検索結果に追加していきます。

- 5 「検索方法」を検索日付で入力した日付の検索範囲を選択する。

○日付範囲内：

検索日付で入力した日付の範囲内で検索します。

○日付範囲外：

検索日付で入力した日付の範囲外で検索します。

- 6 各検索条件を設定したら、「開始」をクリックする。

検索条件を元に検索が開始され、検索結果が表示されます。

■画像形式別の表示

登録されている画像を対象に、画像ファイル形式別に表示できます。

「表示 (V)」メニューより「カテゴリ タグ (C)」を選択し、一覧より表示したいファイル形式の種類をクリックします。カテゴリタグ バーでも同様に選択できます。

○すべて：

登録されている画像すべてを表示します。

○BMP：

登録されている画像の中から、BMP ファイル形式の画像だけを表示します。

○JPEG：

登録されている画像の中から JPEG ファイル形式の画像だけを表示します。

○TIFF：

登録されている画像の中から TIFF ファイル形式の画像だけを表示します。

○LAY：

登録されている画像の中から LAY ファイル形式（レイアウトブックで作成した書類）を表示します。

○LBO：

レイアウトブックに貼り付けてあるオブジェクトを、ドラッグ&ドロップでアルバムに登録したオブジェクトを表示。

○PCF：

登録されている画像の中から、レタッチで作成された書類を表示します。

○DVF：

登録されている画像の中から DVF ファイル形式の画像だけを表示します。

○選択データ：

登録されている画像の中から、現在選択されている画像だけを表示します。

○検索結果：

登録されている画像の中から検索された画像だけを表示します。

■選択画像の表示

現在表示されている登録画像から選択されている画像だけを表示します。

「表示 (V)」メニューより「カテゴリ タグ (C)」を選択し、「選択データ」をクリックします。クリックすると選択されている画像だけが表示されます。



■検索結果の表示

検索条件により検索された画像だけを表示します。

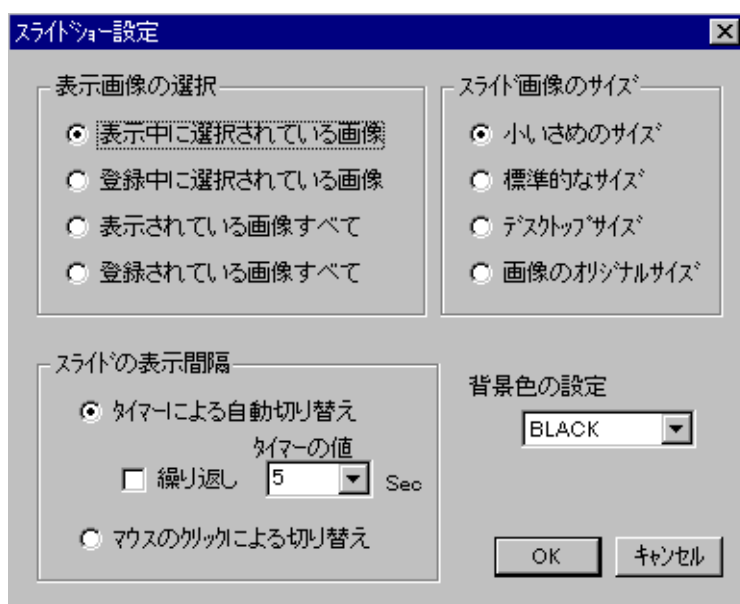
「表示 (V)」メニューより「カテゴリ タグ (C)」を選択し、「検索結果」をクリックします。クリックすると検索条件で検索された画像だけが表示されます。

■スライドショー

登録されている画像を、パソコン画面にスライド表示することができます。

1 「表示 (V)」メニューより [スライドショー(L)] を選択する。

[スライドショー設定] 画面が表示されます。



2 [表示画像の選択] でスライドショーの対象とする画像を選択する。

3 [スライド画像のサイズ] でスライド表示する画像の大きさを選択する。

4 [スライドの表示間隔] でスライド表示の画像を切り替える方法を設定する。

○タイマーによる自動切り替え：

設定した秒数の間、画像が表示され自動的に画面が切り替わります。「繰り返し」にチェックを付けると、画像のスライド表示が繰り返すことができます。

○マウスのクリックによる切り替え：

スライド表示されている画像をクリックすると、画像の切り替えができます。

5 [背景色の設定] でスライド表示する画面の背景の色を設定する。

[BLACK] [WHITE] [LIGHT GRAY] [GRAY] の4色を選択できます。

スライドショーを解除する場合は、スライドショー画面の右上  をクリックします。

登録画像の表示

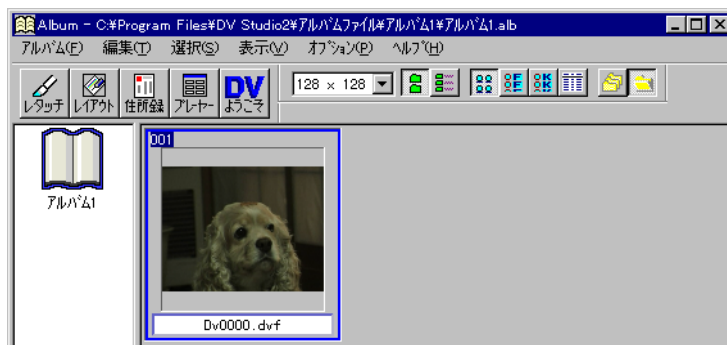
■サムネイルサイズの変更

「アルバム」に表示するサムネイル画像の大きさを変えることができます。

「表示 (V)」メニューより「サムネイルサイズ (U)」を選択し、5種類の大きさから選択します。

ツールバーの「サムネイルサイズ」をクリックしても選択できます。

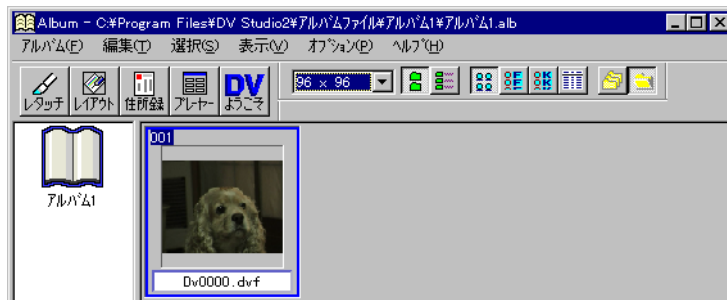
128 × 128



96 × 96



64 × 64



48 × 48



32 × 32



■サムネイル画面の表示方法

「アルバム」に表示されているサムネイル画面の表示を変えることができます。「表示(V)」メニューより「サムネイルウィンドウ」を選択し、4種類の表示方法から選択します。

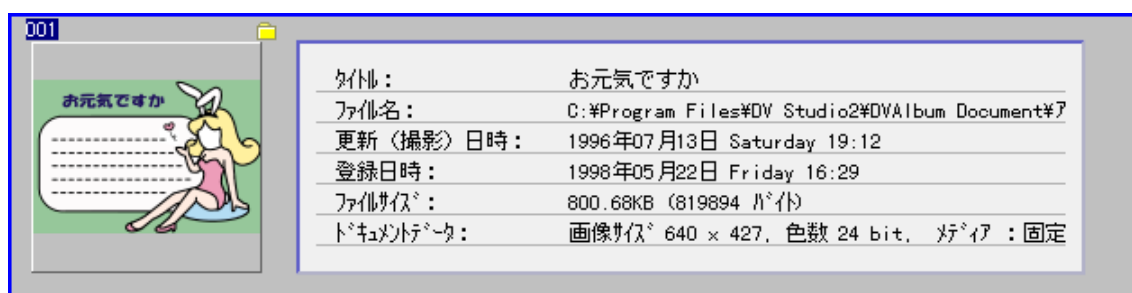
○標準 (N)

画像、画像のタイトル名などが表示されます。



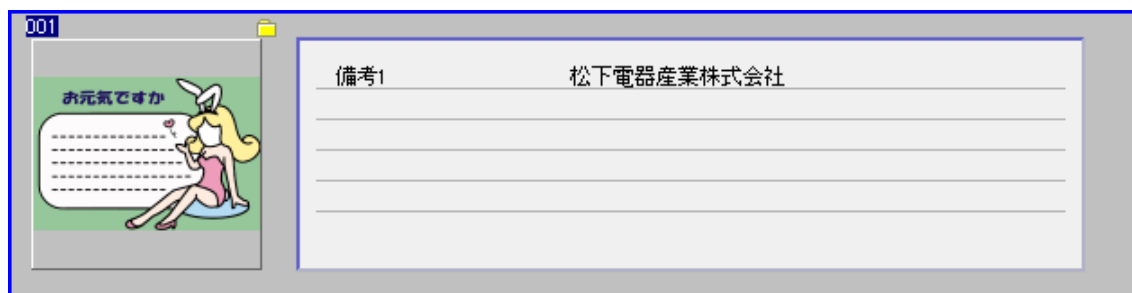
○ファイルデータ(C)

画像と画像ファイルの情報が表示されます。



○キーデータ(K)

画像と入力したキーデータが表示されます。



例：キーデータの「備考1」に「松下電器産業株式会社」と入力した時の表示です。

キーデータはここでは入力できません。画像を右クリックして「キーデータの入力」を選択して、入力してください。[\(参照：キーデータの入力\)](#)

○詳細 (D)

画像ファイルの詳細を一覧表示しますが、画像は表示されません。

タイトル:	ファイルサイズ:	更新(撮影)日時:	登録日時:	ドキュメントデータ:	メディア:
1: お元気で	801KB	1996/07/13 19:12	1998/05/22 16:29	24 bit W 640 × H 427	固定ドライブ

■表示情報

「アルバム」のステータスバーに、アルバムの表示情報を表示することができます。表示するには、「表示 (V)」メニューの「ステータスバー(S)」へチェックを付けることで表示できます。

登録数: 0	表示数: 0	選択数: 0 / 0	ヘルプを表示するに: 変更		NUM	
--------	--------	------------	---------------	--	-----	--

○登録数：

アルバムに登録されている画像の総数です。

○表示数：

現在表示されている登録画像の枚数です。

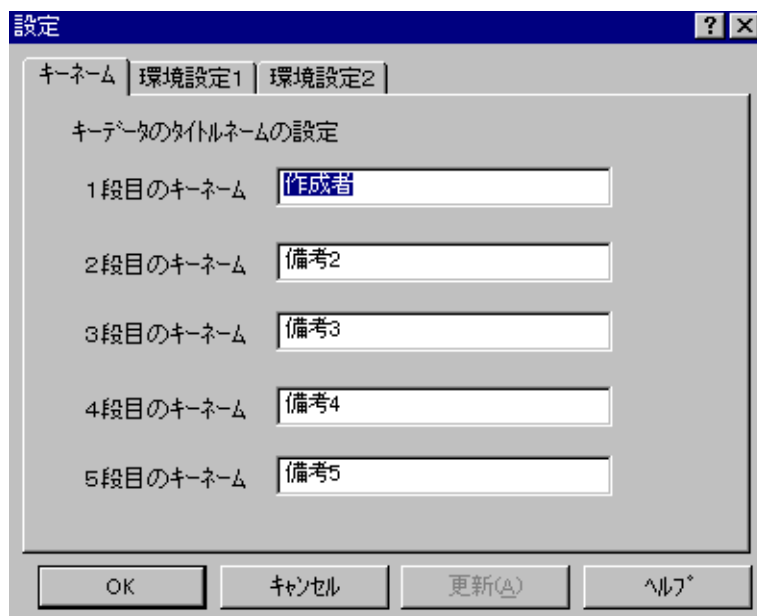
○選択数：

登録されている画像の中で、表示・非表示は関係なく、選択されている画像の総数です。

■キーデータの設定

画像に付随する情報やデータを入力する為の、キーデータのタイトルネームを入力できます。

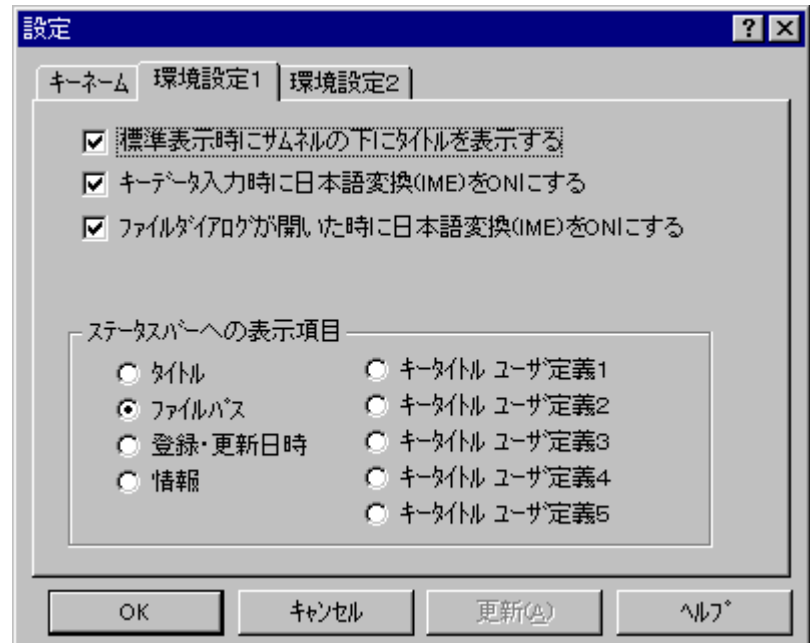
- 1 「オプション(P)」メニューより「設定 (O)」を選択する。
「設定」画面が表示されます。



- 2 「キーネーム」タブを選択し、「キーデータのタイトルネームの設定」でキーネームを入力する。

■環境設定 1

「アルバム」の各環境設定ができます。「オプション(P)」メニューより「設定 (O)」を選択し、「設定」画面を表示させます。



各チェック項目にチェックを付けると、有効になります。

○標準表示時にサムネルの下にタイトルを表示する：

標準表示時にサムネイル画像の下にタイトルを表示します。

○キーデータ入力時に日本語変換（IME）を ON にする：

キーデータを入力する際、自動的に日本語変換（IME）の入力モードになります。

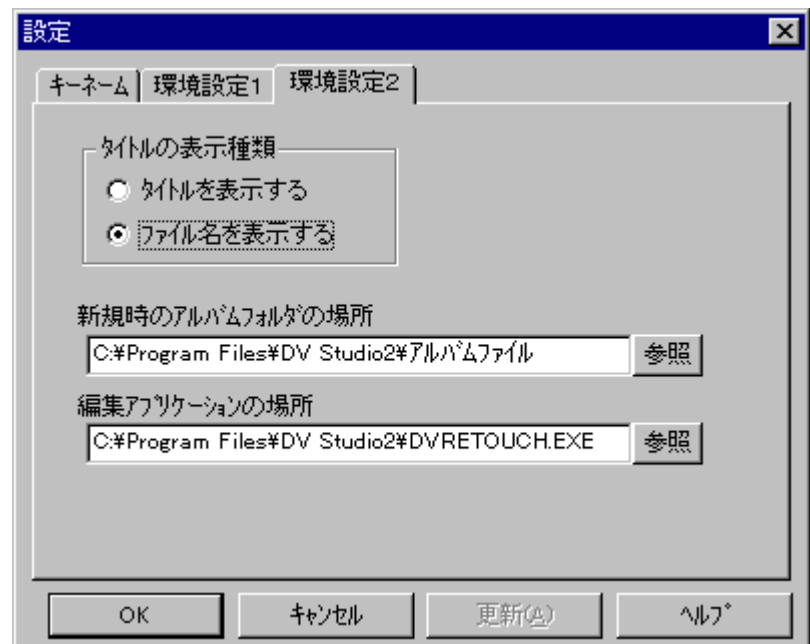
○ファイルダイアログが開いた時に日本語変換（IME）を ON にする：

ファイルの保存画面などを開いた時に、自動的に日本語変換（IME）の入力モードになります。

○ステータスバーへの表示項目：

「アルバム」にステータスバーが表示されている場合、ステータスバーに表示する項目を選択します。選択できるのは1つだけになります。

■環境設定 2



○タイトルの表示種類：

「アルバム」に表示される画像にタイトル名を表示するか、ファイル名で表示するかを選択します。

○新規時のアルバムフォルダの場所：

初期設定時のアルバムフォルダがある場所を表示しています。

○編集アプリケーションの場所：

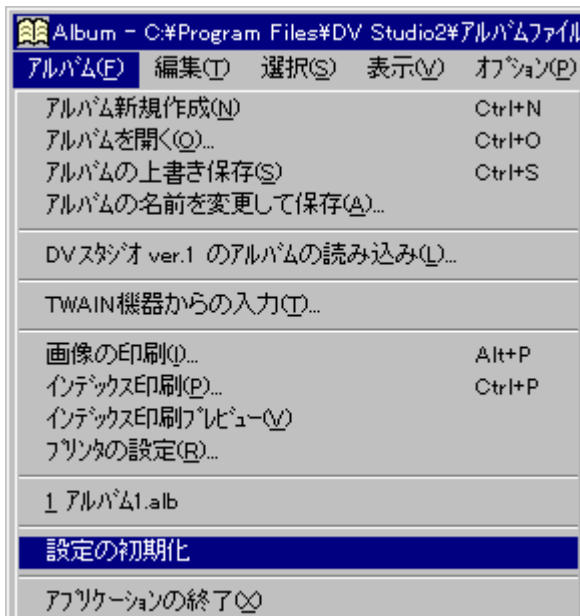
画像を右クリックし、表示されたメニューから「編集」を選択した時に、起動する編集アプリケーションを設定します。初期設定は「レタッチ」に設定されています。変更する場合は、[参照] をクリックし、アプリケーション起動プログラムを指定します。

設定の初期化

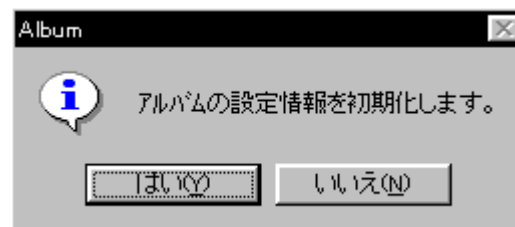
「アルバム」の様々な設定状態をインストール直後の状態に戻します。

1 「アルバム(F)」メニューより「設定の初期化」を選択する。

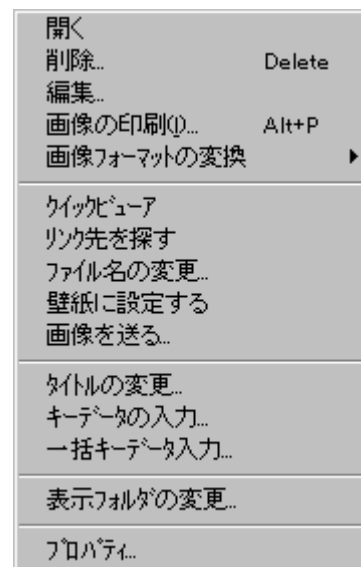
「初期化の確認」画面が表示されます。



2 初期化する場合は「はい (Y)」を選択し、初期化しない場合は「いいえ (N)」を選択する。



サムネイル画面の画像を右クリックすると、画像処理についてのさまざまなメニュー（コンテキストメニュー）が表示されます。



■開く（画像を開く）

選択した画像を、元の画像ファイルからアプリケーションを使用して開くことができます。

開くアプリケーションは、現在選択された画像ファイルが、関連付けされているアプリケーションです。

■削除（画像の登録を削除）



選択した画像の登録を削除します。[OK] をクリックすると、「ファイルの削除の確認」画面が表示されるので、確認できたら「はい (Y)」をクリックします。

■編集（画像の編集）

画像を編集アプリケーションで起動することができます。

起動するアプリケーションは、「オプション(P)」メニューの「設定 (Q)」から「環境設定 2」タブの「編集アプリケーションの場所」で設定した編集アプリケーションで起動されます。

■画像の印刷 (I)

選択した画像を印刷できます。印刷サイズなどは元画像のサイズで印刷されます。

■画像フォーマットの変換

選択した画像を、他の画像フォーマット（BMP、JPG、TIFF）に変換することができます。変更する画像フォーマットを選択すると、「画像フォーマット変換」画面が表示されます。[変換した画像ファイルの保存先フォルダ] に、ファイルの保存先フォルダ名を入力し、[OK] をクリックすると、変換後のファイルが指定のフォルダに保存されます。



■クイックビューア

画像ファイルをプレビュー表示させ、画像を確認できます。

■リンク先を探す（ファイル）

サムネイル画像の保存されている元の画像ファイルを探すことができます。

■ファイル名の変更

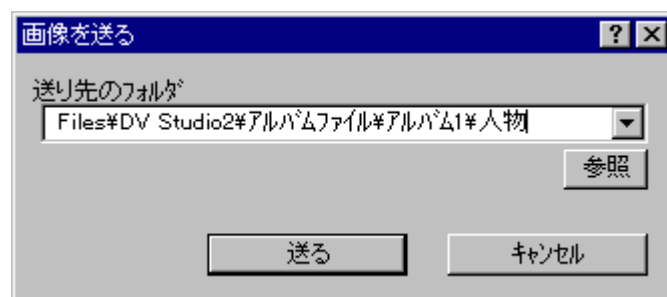
サムネイル画像の保存されている元の画像ファイルのファイル名を変更できます。「名前の変更」画面で、ファイル名を入力します。

■壁紙に設定する

選択した画像を Windows の壁紙として使用できます。

■画像を送る（ファイルを送る）

選択された画像を他の場所や他のフォルダにコピーできます。



「画像を送る」画面で、送り先のフォルダを指定します。

同じ「アルバム」内では、「画像を送る」コマンドでは、一旦「アルバム」を閉じないと画像が表示されないため、ドラッグ&ドロップで画像を送ってください。

■タイトルの変更

「アルバム」に表示されているサムネイル画像のタイトル名を変更することができます。

画像の「プロパティ」画面が表示されますので、[タイトル]に入力します。



■キーデータの入力

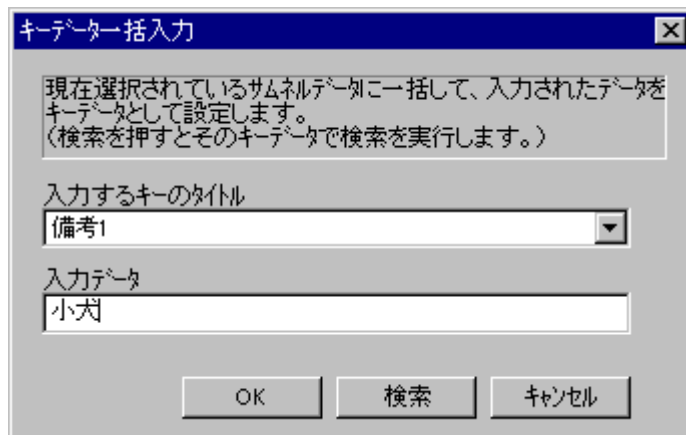
選択された画像に、付随するデータや情報を入力することができ、そのキーデータを元に、検索もできます。

画像の「プロパティ」画面が表示されますので、「キーデータ」タブの入力欄に入力します。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled 'プロパティ' (Properties). It has three tabs: 'ファイル情報' (File Information), '画像情報' (Image Information), and 'キーデータ' (Key Data). The 'キーデータ' tab is selected. Inside the dialog, there are five text input fields, each preceded by a label: '備考1' (Remarks 1), '備考2' (Remarks 2), '備考3' (Remarks 3), '備考4' (Remarks 4), and '備考5' (Remarks 5). At the bottom of the dialog, there are four buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), '更新(A)' (Update), and 'ヘルプ' (Help).

■一括キーデータ入力

現在選択された複数のサムネイル画像を対象に、一括してキーデータを入力できます。



「一括キー入力」画面が表示されますので、[入力するキーのタイトル] を選択し、[入力データ] を入力します。

■表示フォルダの変更

現在登録されている、フォルダの画像を別のフォルダの画像に変えることができます。



「表示フォルダの変更」画面の中に登録されているフォルダ名が表示されます。表示されているフォルダから、「アルバム」に表示したいものを選択すると、選択したフォルダの画像が表示されます。

■選択画像のプロパティ

選択された画像の「プロパティ」画面が表示されます。

●ファイル情報

元画像のファイル情報を表示します。



●画像情報

画像と画像の情報、タイトルが表示されます。

タイトルを変更する場合、
[タイトル] に入力すると
入力したタイトルで
登録されます。

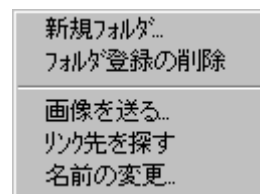


●キーデータ

選択された画像のキーデータの表示と入力を行なうことができます。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled 'プロパティ' (Properties). It has three tabs: 'ファイル情報' (File Information), '画像情報' (Image Information), and 'キーデータ' (Key Data). The 'キーデータ' tab is selected. Inside the dialog, there are five text input fields labeled '備考1' (Remarks 1) through '備考5' (Remarks 5). At the bottom of the dialog, there are four buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), '更新' (Update) with a circular arrow icon, and 'ヘルプ' (Help) with a question mark icon.

フォルダ画面のフォルダを右クリックすると、処理についてのさまざまなメニュー(コンテキストメニュー)が表示されます。

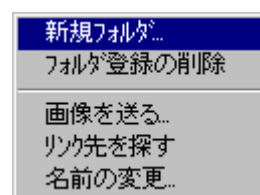


■新規フォルダの作成

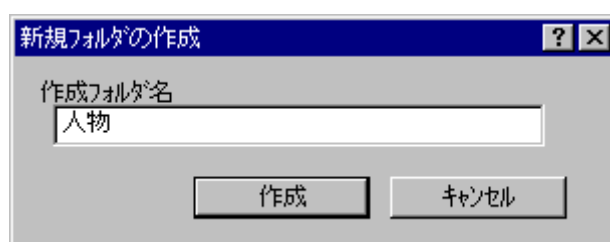
登録画像もしくはファイルを移動、コピーして管理するための新しいフォルダを作成できます。

- 1 フォルダ画面を右クリックする。
メニューが表示されます。

- 2 メニューより「新規フォルダ」を選択する。
「新規フォルダの作成」画面が表示されます。



- 3 作成フォルダ名を入力し、
「作成」をクリックする。
フォルダ画面に新規のフォルダが表示されます。



「人物」という名前の新規フォルダ



■登録フォルダの削除

現在選択されている登録フォルダを削除します。

■画像を送る（フォルダ）

選択された画像フォルダを他の場所や他のフォルダにコピーできます。

「画像を送る」画面で、送り先のフォルダを指定します。

お知らせ

他の場所や他のメディアにコピーする機能です。「DVスジお2」内の「アルバム」フォルダに対しては行わないでください。

■リンク先を探す

選択された登録フォルダの、元となるフォルダを探すことができます。

対象の登録フォルダを右クリックし、[リンク先を探す]を選択します。選択すると元フォルダが表示されます。これにより、登録したフォルダの保存先がわかります。

■名前の変更

フォルダ名を変更できます。

「名前の変更」画面で、フォルダ名を入力します。

各ツールバーをクリックすると、画像登録や削除、画面の表示方法などの処理ができます。

●メインツール バー

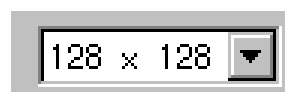
アルバムファイルの操作やサムネイル画像のコピー、印刷などができます。



●ビュータイプ バー

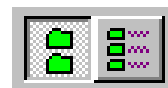
○サムネイルのサイズ

サムネイルの [表示サイズを変更](#) することができます。



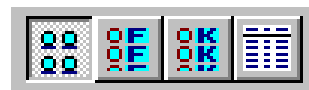
○フォルダ画像のアイコン表示

フォルダウィンドウに表示されている、
フォルダアイコンの大きさを変更することができます。



○登録画像の [表示方法を変更](#)

左側から、[標準]、[ファイル情報]、[キーデータ]、[詳細] です。



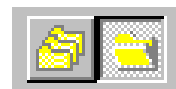
○サムネイル画像の表示方法

○すべてを表示

登録されているすべての画像が表示されます。

○フォルダ内を表示

登録されているフォルダ内の画像が表示されます。



●サムネイルコントロール バー

画像やフォルダの登録、削除や、並べ替えたり検索したりするサムネイルの操作ができます。



●カテゴリタグ バー

登録されている画像を対象に、画像ファイル形式別に表示できます。



●リモコン バー

他のパッケージプログラムを起動することができます。



「レタッチ」、「レイアウト」との連携

第Ⅱ章 アルバム

「アルバム」では、「DVStudio ver2.00」の機能である、「レタッチ」、「レイアウト」の書類形式を登録できます。このことにより書類の管理はもちろん、登録した書類をオブジェクト感覚で簡単に再利用できます。

■ 「レタッチ」との連携

「レタッチ」は、[レイヤー構造をもって画像を編集](#)できます。個々のレイヤーには透明度の概念があり、画像のない部分は透明になっています。この状態を保ったまま、「アルバム」に登録できます。レイヤー単位でも、すべてのレイヤーをあわせて登録することもできます。

登録できる形式：レタッチ形式（pcf）

●登録した画像を「レタッチ」で編集する

「アルバム」に登録した画像を「レタッチ」でオブジェクト感覚で編集、加工できます。

- ① 「アルバム」を起動し、登録しているサムネイル画像を表示させる。
- ② 「レタッチ」を起動する。
- ③ 「レタッチ」の [ウィンドウ(W)] メニューで [アルバムを並べる (B)] を選択する。
「レタッチ」と「アルバム」の編集画面が並んで表示されます。
- ④ 「レタッチ」の編集画面に「アルバム」のサムネイル画像をドラッグ&ドロップする。
編集画面に画像が表示されます。
すでに、開いている画像の上にドロップした場合は、フロート選択範囲が作成されます。
レイヤーに変換して利用できます。

お知らせ

- DVF形式の画像は「アルバム」以外では扱えないファイル形式です。ドラッグ&ドロップで「レタッチ」に開くことはできません。
サムネイル画面の画像をダブルクリックするか、画像選択後にコンテキストメニューから [編集] を選択して取り込むと、BMP形式のファイルが自動的に作成されて、「レタッチ」にBMP形式で開かれています。このとき、同時に「アルバム」内には同じ画像がBMP形式で追加登録されています。
- 「レタッチ」で修正、加工した画像ファイルを上書き保存しても、そのままでは「アルバム」に表示されているサムネイル画像には修正、加工した内容が反映されません。「選択画像の更新」または、「すべての登録画像の更新」を行ってください。

(参照：[「選択画像の更新」](#)、[「すべての登録画像の更新」](#))

●アルバムへの登録

- ① 「レタッチ」で画像編集画面に画像を開く。
複数のレイヤーが保存されたP C F形式の画像を開いてください。
- ② 「アルバム」に登録するレイヤーをクリックして選択する。
- ③ 登録したい画像の選択範囲を作成する。
レイヤー全体を選択する場合は、「編集」メニューの「全画面の選択」を選択します。
- ④ 「ウィンドウ(W)」メニューの「[アルバムを並べる]」を選択する。
アルバムが起動して新規のデータベース画面が表示されます。
- ⑤ 必要であれば、「アルバム」の書類を開く。
- ⑥ 「Alt」キーを押して、作成された選択範囲を「アルバム」のサムネール一覧ウィンドウにドラッグする。
また、「レタッチ」の手のひらツールを選択して、「Alt」キーを押して「アルバム」にドロップすると、すべてのレイヤーを含む画像を登録できます。

「アルバム」のサムネール一覧画面にドラッグしたレイヤーの画像が登録されます。
登録した「アルバム」のフォルダに保存されます。

登録後に「アルバム」機能でファイル名を変更し、適切な場所へ送って管理することができます。

■ 「レイアウト」との連携

「レイアウト」に配置したオブジェクトは、すべて「アルバム」に登録して管理できます。

○登録できる形式

レイアウト書類形式 (lay)、レイアウトオブジェクト形式 (lob)

●アルバムへの登録

- 1 「レイアウト」画面に図形や、テキストなどのオブジェクトを配置する。
- 2 「ウィンドウ(W)」メニューの「**アルバムを起動 (R)**」を選択する。
「アルバム」が起動し画像データベースが開きます。
- 3 必要であれば登録したいアルバム書類を開く。
- 4 「レイアウト」上のオブジェクトを選択して、「選択 / ドラッグ」ツールでドラッグし、「アルバム」のサムネイル画面にドロップする。
「レイアウト」上からオブジェクトが移動し、「アルバム」に登録されます。
オブジェクトを別のファイルとして登録したい場合は、「Ctrl」キーを押しながらドラッグします。この場合は、ドロップ後も「レイアウト」上にオブジェクトが残ります。

保存は自動的に行われます。保存先は「DV Studio2」のプログラムフォルダ内の「layobj」フォルダになります。

登録後に「アルバム」機能でファイル名を変更し、適切な場所に送って管理することができます。

「アルバム」に登録される場合は、「レイアウト」上の画像もテキストもすべてレイアウトオブジェクト形式 (ljb) として保存されます。

お知らせ

「レイアウト」のフィールドオブジェクトを「アルバム」に登録することは可能ですが、登録してもサムネイルを表示しません。ファイル名を変更するなどして管理してください。

「レタッチ」、「レイアウト」との連携

●登録した画像を「レイアウト」で利用する

「アルバム」に登録した画像やレイアウトオブジェクトを「レイアウト」に簡単に配置して利用できます。

- 1 「アルバム」を起動し、サムネイル画像または、レイアウトオブジェクトを開く。
- 2 「レイアウト」を起動し、新規書類を開く。
- 3 「レイアウト」の[ウィンドウ(W)]メニューで[アルバムを並べる(B)]を選択する。
「レイアウト」と「アルバム」の編集画面が並んで表示されます。
- 4 「レイアウト」の編集画面に、配置する「アルバム」のサムネイル画像やレイアウトオブジェクトをドラッグ&ドロップする。
「レイアウト」にオブジェクトが配置されます。

「レイアウト」上に配置できるのは、レイアウトオブジェクトだけでなく、「アルバム」に登録できるオブジェクトをすべて配置できます。

「レイアウト」書類自体を「アルバム」に登録することができます。「レイアウト」書類は「レイアウト」の編集画面にドロップして開くことができます。「レイアウト」上にドロップしても意味を持ちません。

お知らせ

D V F形式の画像は「アルバム」以外では扱えないファイル形式です。ドラッグ&ドロップで「レタッチ」「レイアウト」に開くことはできません。

サムネイル画像を選択後にコンテキストメニューから[画像フォーマットの変換]でBMP形式に変換し、変換後のBMP形式の画像を「レイアウト」にドラッグ&ドロップしてください。

第Ⅲ章 レタッチ

「レタッチ」は、画像編集のソフトウェアです。「アルバム」に登録した画像や既存の画像ファイルを開いて編集できます。レイヤー機能を搭載していますので、画像の合成などの処理が簡単に行えます。

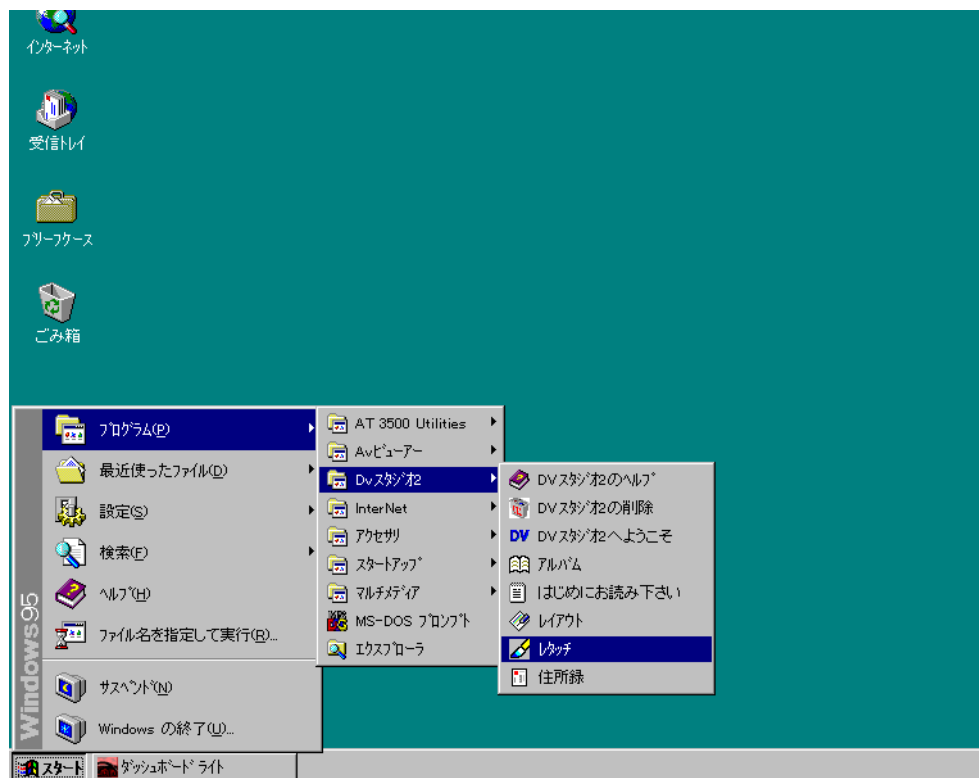
3.1 レタッチの起動	Ⅲ -2
3.2 レタッチの終了	Ⅲ -3
3.3 画像の新規作成	Ⅲ -4
3.4 画像ファイルの操作	Ⅲ -5
3.5 画像の印刷	Ⅲ -8
3.6 ツールパレット	Ⅲ -9
3.7 範囲の選択	Ⅲ -51
3.8 編集	Ⅲ -53
3.9 フィルタ	Ⅲ -73
3.10 「アルバム」との連携	Ⅲ -84
3.11 設定の初期化	Ⅲ -86
3.12 マスクサンプルの使用	Ⅲ -87

レタッチの起動

次の3種類の起動方法があります。

操作後、「レタッチ」が起動され、画像編集用の画面が表示されます。

- A** [スタート] メニューから [プログラム(P)] - [DVスタジオ2] - [レタッチ] を選択する。



- B** 「DVスタジオ2 へようこそ」を起動後、「ようこそ」画面で [レタッチ] をクリックする。

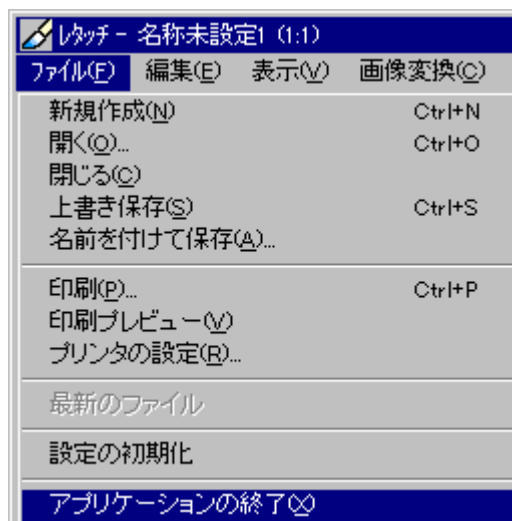


- C** 「アルバム」「レイアウト」「住所録」のリモコンバーで [レタッチ] をクリックする。

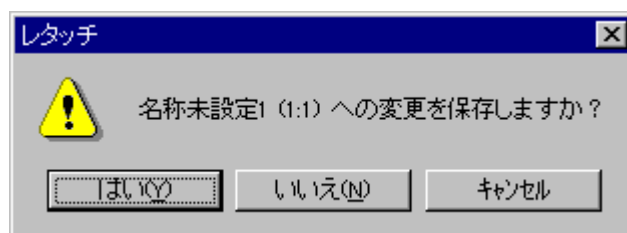


レタッチの終了

- 1 [ファイル(F)] メニューから[アプリケーションの終了 (X)]を選択する。



このとき画面に開かれている書類の状態によって次のメッセージが表示されます。



- 2 保存する場合は [はい (Y)] をクリックする。
保存しない場合は [いいえ (N)] をクリックする。
閉じるのを中止する場合は [キャンセル] をクリックする。
「レタッチ」が終了します。

●新規書類として一度も保存していない場合

確認メッセージが表示されます。

保存しない場合は [いいえ (N)] を、閉じるのを中止する場合は [キャンセル] をクリックします。保存する場合は [はい (Y)] をクリックすると「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名、保存する場所を指定して保存画面の[保存(S)]をクリックして保存処理を行ないます。保存後に「レタッチ」が終了します。

画像の新規作成

新規の画像を作成します。[ファイル(F)] メニューから[新規作成 (N)]を選択すると、「新規作成」画面が表示されます。



○新規の設定を画像サイズ「A 4」で縦方向：幅「565」×高さ「803」「Pixel」とし、初期表示内容を「白」、解像度「72dpi」とした例

●画像サイズ／方向

ポップアップメニューから作成したい画像のサイズ（一般的な用紙サイズ）を選択します。合わせて用紙方向を縦横、設定します。自由なサイズ設定をおこなう場合は、幅と高さを「設定値」の欄に入力します。数値を変更すると画像サイズ選択は[フリー]に変更されます。設定する単位をポップアップメニューで指定します。mm、inch、Pixel から選択します。Pixel とは画像のドット（画素）数のことです。

お知らせ

デジカムなど、DV 方式のムービーやビデオデッキから取り込んだ画像は「画像サイズ」で「VGA」を選択すると、自動的に 640 × 480 の最適な画像サイズが設定されます。

●解像度

画像の解像度を 72dpi・180dpi・360dpi から選択します。通常、画像解像度を大きくするとファイルのサイズも大きくなります。解像度は 1 インチあたりのドット数 (dpi) で表されます。高解像度の画像は、同じ大きさに低解像度の画像に比べてドット数が多くなります。解像度が 72dpi の場合は、1 インチ四方に 5,184（横 72 × 縦 72）ドットが含まれます。360dpi の画像では、129,600（横 360 × 縦 360）ドットが含まれます。

●初期表示内容

画像画面の作成時の表示を設定します。

「白」を選択した場合：透明度を含まない背景として表示されます。

「透明」を選択した場合：透明な [レイヤーを表示](#) します。

複数の画像を重ねたり、合成画像を作成するときは、「透明」を選択してください。「透明」は、確認が容易なように薄いチェック模様になっています。

■画像ファイルを開く

画像編集画面に既存の画像を開きます。

1 [ファイル(F)] メニューから[開く (O)]を選択する。

[ファイルを開く]画面が表示されます。

2 開きたい書類を選択し、[開く (O)] をクリックする。

選択した画像が画像編集画面に表示されます。

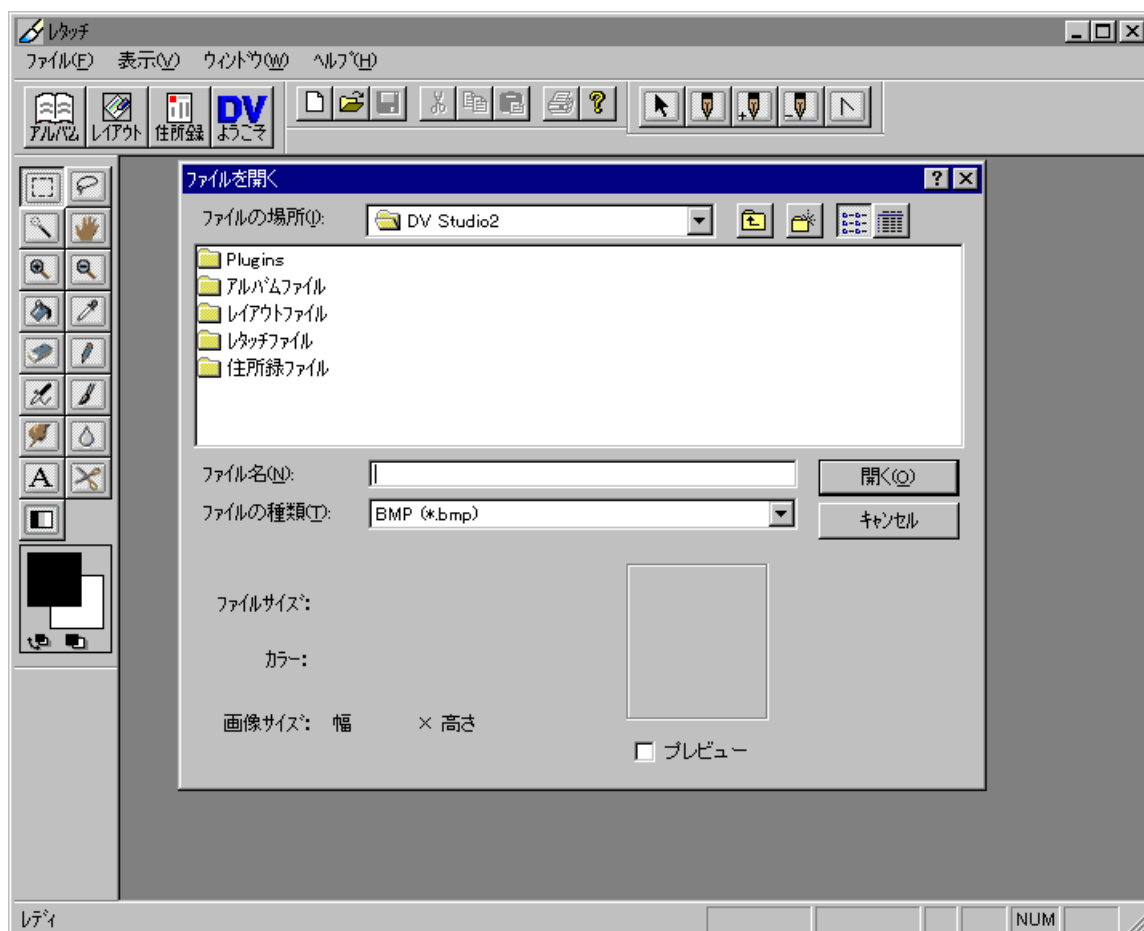
「ファイルを開く」画面の下段にはリストで選択した画像の情報が表示されます。[プレビュー]チェックボックスをチェックすると選択した画像がプレビューを持っていれば画像の内容を表示できます。

お知らせ

「レタッチ」では、以下のデータ形式の画像を開くことができます。

BMP 形式、TIFF 形式、JPEG 形式、PCF（オリジナル）形式

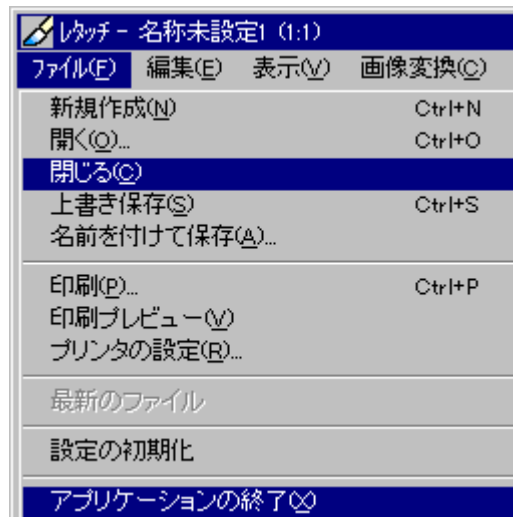
JPEG 形式では、72dpi で画像を開きます。高解像度の画像データも 72dpi の解像度に変換されますのでご注意ください。画像を保存する際も高解像度で保存したい場合は、TIFF 形式か BMP 形式で保存してください。



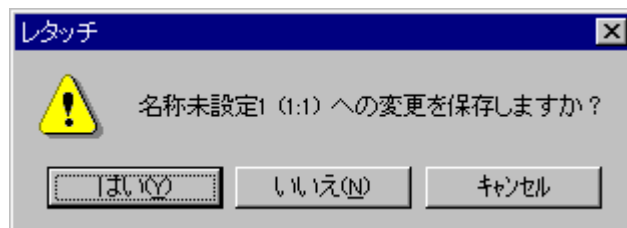
■画像を閉じる

編集中的画像画面が閉じられます。

- 1 [ファイル(F)] メニューから[閉じる (C)]を選択する。



このとき画面に開かれている書類の状態によって次のメッセージが表示されます。



- 2 保存する場合は [はい (Y)] をクリックする。
保存しない場合は [いいえ (N)] をクリックする。
閉じるのを中止する場合は [キャンセル] をクリックする。

編集中的画像が閉じられます。。

●新規書類として一度も保存していない場合

確認メッセージが表示されます。

保存しない場合は [いいえ (N)] を、閉じるのを中止する場合は [キャンセル] をクリックします。保存する場合は [はい (Y)] をクリックすると[ファイル名を付けて保存]画面が表示されます。ファイル名、保存する場所を指定して保存画面の[保存 (S)]をクリックして保存処理を行ないます。保存後に画像が閉じられます。

■画像ファイルの保存

[ファイル(F)] メニューから[上書き保存 (S)]を選択する。

現在編集集中の画像の変更を保存します。

新規書類として作成後、一度も保存していない場合は「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名、保存する場所を指定して「ファイル名を付けて保存」画面の[保存 (S)]をクリックして保存処理を行います。

■画像ファイルの新規保存

[ファイル(F)] メニューから[名前を付けて保存 (A)]を選択する。

現在開かれている画像に名前を付けて別の書類として保存します。

選択すると「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名、保存する場所を指定して「ファイル名を付けて保存」画面の[保存 (S)]をクリックして保存処理を行います。

保存する画像の形式を変更するには、「ファイル名を付けて保存」画面のファイルの種類から選択します。

お知らせ

保存できる形式は、下記のとおりです。

BMP形式、TIFF形式、JPEG形式、PCF（オリジナル）形式

○[レイヤーを作成](#)して、画像を結合しないまま、保存する場合は、PCF形式を選択してください。

○初期設定では、文字オブジェクトはパスで作成されますので、PCF形式で保存してください。他の形式で保存したい場合は、文字を右クリックしてコンテキストメニューを表示させ、[文字をビットマップに変換]を選択してください。

○PCF形式について

PCF形式は「レタッチ」独自の画像ファイル保存形式です。レイヤーを含んだ状態で画像の保存ができます。

また、パスの保存もできます。パスツールで作成したパスを保存しておき、選択範囲の作成などで再利用できます。

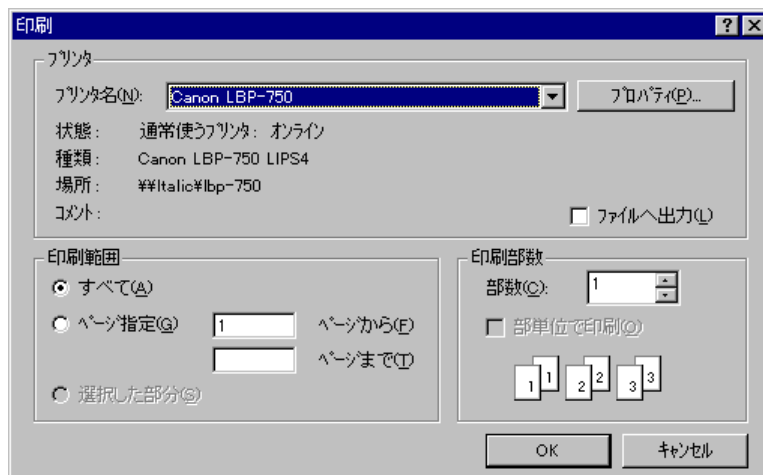
このレイヤーの透明度を持ったまま、「レイアウト」で作成するレイアウト画面に配置することもできます。

「アルバム」にはレイヤー単位で登録することもでき、合成するための画像をオブジェクト感覚で管理できます。「アルバム」に登録したレイヤー画像を「レタッチ」の画像編集画面にドラッグ&ドロップで配置して合成作業ができます。

画像の印刷

編集中の画像を印刷します。複数の画像編集ウィンドウが開いている場合は、現在編集中の画像を印刷します。

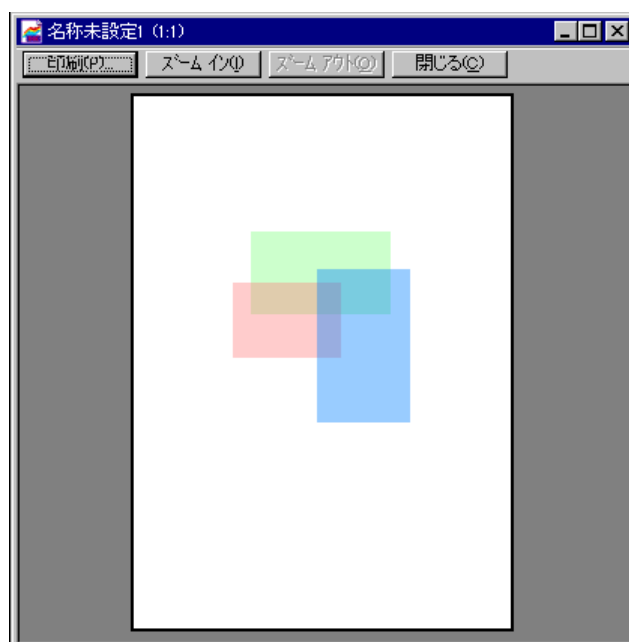
- 1 [ファイル(F)] メニューから[印刷 (P)]を選択する。
- 2 印刷したいページや部数、印刷するプリンタやプリンタのオプションなどを設定して印刷を実行する。



●印刷プレビュー

印刷する前に画像を確認できます。

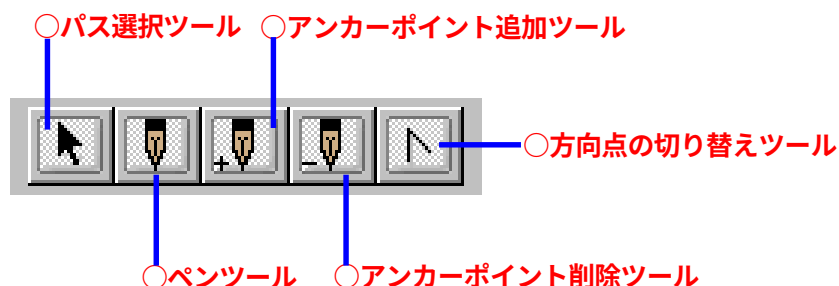
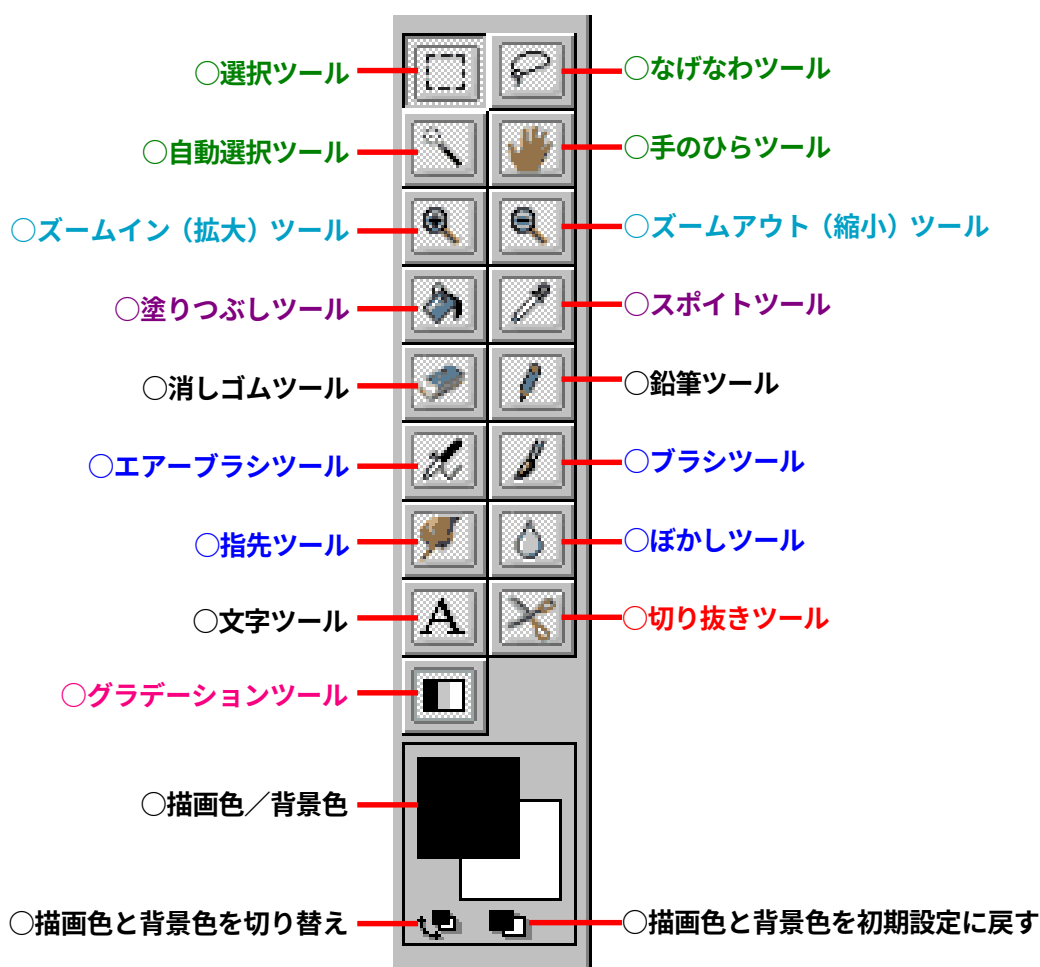
- 1 [ファイル(F)] メニューから[印刷プレビュー (V)]を選択する。
- 2 確認して、[印刷 (P)]をクリックする。
印刷を実行できます。



ツールパレット

- ツールパレットには、選択範囲を作成したり、表示サイズの変更や画像をペイントするためのツールがあります。また、描画色や背景色の選択をおこなうボックスがあります。ツールを選択するには、ツールパレットのアイコンをクリックします。クリックすると関連した画面（パレット）が表示されるツールもあります。
- ツールを選択し画像編集画面上にマウスポインタを置くと、ポインタが選択したツールに応じたアイコンに変わります。現在どのツールを選択しているかポインタの形状で確認できます。

○ツールパレットには
選択ツール、拡大・縮小ツール、塗りツール、ペイントツール、
パスツールなどがあります。



■選択ツール

画像領域を選択する範囲を指定します。「ドラッグ開始点」と「ドラッグ終了点」を対角線とした矩形範囲が選択範囲となります。

選択範囲の操作については、[「選択範囲の操作」](#)を参照してください。

■なげなわツール

なげなわツールを使うと、自由な曲線で範囲を選択できます。「ドラッグ開始点」と「ドラッグ終了点」が結ばれていないときは自動的に2点間が直線で結ばれて範囲が選択されます。

選択範囲の操作については、[「選択範囲の操作」](#)を参照してください。

■自動選択ツール

自動選択ツールを使うと、隣接するピクセルの近似色を利用して画像の一部を選択できます。単色で塗られた範囲を簡単に選択できます。自動選択ツールでの選択は、隣接するピクセルが指定の色域（選択する色の範囲）内にあるかどうかで選択範囲が決まります。

- 1 自動選択ツールを選択する。**
画像編集画面内にポインタを置くと自動選択ツールのアイコンに変わります。
- 2 画像上で選択する色をクリックする。**
指定した範囲内の色の隣接ピクセルがすべて選択されます。

■手のひらツール

手のひらツールを使用すると、画像編集画面内で表示部分を移動させることができます。

- 1 手のひらツールを選択する。**
画像編集画面内にポインタを置くと手のひらのアイコンに変わります。
- 2 編集画面内で画像をドラッグする。**
画像が移動して表示されます。

お知らせ

画像編集画面にスクロールバーが表示されていないときは、手のひらツールでスクロールさせることはできません。

■拡大 / 縮小ツール

拡大縮小ツールを使用すると、画像の表示を拡大／縮小できます。タイトルバーには現在の拡大／縮小率が表示されます。画像表示は1/8から16倍まで拡大できます。

1 拡大（または縮小）ツールを選択する。

画像編集画面内にポインタを置くと虫眼鏡のアイコンに変わります。

2 ウィンドウ内で画像をクリックする。

次の表示段階に拡大（縮小）されます。

お知らせ

キーボードの[Alt]キーを押すと選択しているツールが切り替わります。拡大ツールを選択している場合は縮小ツールに、縮小ツールを選択している場合は拡大ツールとして操作できます。

■塗りつぶしツール

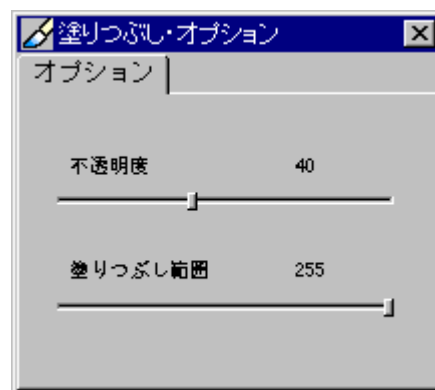
塗りつぶしツールは、クリックしたピクセルに色の近い隣接ピクセルを塗りつぶします。「塗りつぶし・オプション」画面では不透明度、塗りつぶす色域（選択する色の範囲）を設定します。

塗りつぶしツールを選択して、画像の塗りつぶす部分をクリックする。

選択した色の範囲内にあるすべての隣接ピクセルが、描画色で塗りつぶされます。

●塗りつぶしツールのオプション選択

- 1 塗りつぶしツールをクリックする。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「塗りつぶし・オプション」画面が表示されます。



- 3 スライダーをドラッグして不透明度を設定する。

- 4 塗りつぶす色の範囲を指定する。

[塗りつぶし範囲]で指定した値で、塗りつぶすピクセルの色の範囲が決まります。値は0から255の範囲で設定できます。低い値を入力するとクリックしたピクセルに色が近い隣接ピクセルだけが対象となり、高い値を入力すると塗りつぶすピクセルの色の範囲が広がります。

■スポイトツール

スポイトツールを使うと、画像上から色をサンプルリングして、描画色を指定できます。

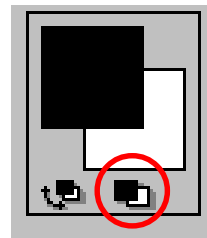
●画像表示ウィンドウに表示されている画像のサンプルにしたい部分をクリックする。

描画色として設定されます。

背景色に設定したい場合は描画色と背景色を切り替えて操作します。

[初期化] アイコンをクリックすると、

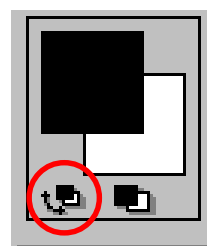
描画色が黒、背景色が白の初期状態に戻ります。



■描画色と背景色を切り替え

ツールパレットの描画色と背景色の「切替」アイコンをクリックします。

(参照: [グラデーションツール] の「描画色と背景色の選択」の項目)



■消しゴムツール

消しゴムツールは、ドラッグした部分のピクセルの色を変化させます。

- 1 消しゴムツールを選択する。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「消しゴム・オプション」画面が表示されます。



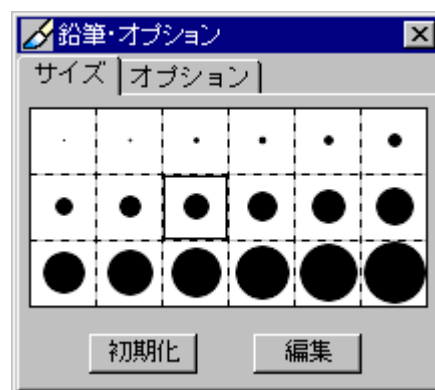
3 消しゴムの不透明度を調整し、消す部分をドラッグする。

背景上で消しゴムツールを使うと背景色で塗りつぶされ、レイヤー上で使うと透明になります。
レイヤー上の画像は、不透明度スライダーを調整して消しゴムの強さを変えて適用することができます。

■鉛筆ツール

鉛筆ツールはフリーハンドのラインを作成するツールです。

- 1 鉛筆ツールを選択する。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「鉛筆・オプション」画面が表示されます。
- 3 [サイズ]タブで鉛筆の形状を選択する。



- 4 [オプション]タブで鉛筆の不透明度を選択する。

○不透明度の設定

ペンストロークの不透明度を弱くする場合は低い値を設定します。設定した透明度でストロークが描画されます。不透明度を設定したストロークを重ねると水彩絵の具で描画したような効果を得ることができます。



- 5 画像上をドラッグする。

描画色でペンストロークが描画されます。不透明度を設定して重ねてストロークを描画することで重ね書きの効果を得られます。

●鉛筆の編集

「鉛筆・オプション」画面の[サイズ]タブを選択して鉛筆形状の編集ができます。

① [サイズ] タブで編集したい鉛筆を選択して [編集] をクリックする。
鉛筆の編集画面が開きます。

② 各項目を設定して、[OK] をクリックする。



○直径：
鉛筆の大きさをピクセルで設定します。

○角度：
鉛筆形状の楕円の角度を設定します。

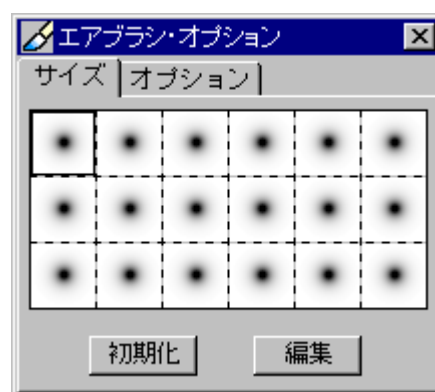
○真円率：
鉛筆形状の楕円の具合を設定します。
100%で正円になります。

■エアークラッシュツール

エアークラッシュツールは、画像に段階的な色調を加え、エアークラッシュの効果を再現することができます。ストロークの輪郭はブラシツールよりもさらに滑らかになります。

- 1 エアークラッシュツールを選択する。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「エアークラッシュ・オプション」画面が表示されます。

- 3 [サイズ]タブでエアークラッシュの形状を選択する。



- 4 [オプション]タブでエアークラッシュの強さを選択する。

○不透明度の設定

エアークラッシュ効果の適用度を強くする場合は高い値を設定し、弱くする場合は低い値を設定します。



- 5 画像上をドラッグする。

色を濃くする場合は、ドラッグしないでマウスボタンを押し続けます。描画色でエアークラッシュ効果が描画されます。

●エアブラシの編集

「エアブラシ・オプション」画面の[サイズ]タブを選択してブラシ形状の編集ができます。

- 1 [サイズ]タブで編集したいブラシを選択して [編集] をクリックする。
ブラシの編集画面が開きます。

- 2 各項目を設定して [OK] をクリックする。
編集した形状が登録されます。



○直径：

ブラシの大きさをピクセルで設定します。

○ぼかしの開始位置：

ブラシの大きさに対してぼかしを開始する位置を % で指定します。
数値が大きいほどぼかし幅が少なくなります。

○角度：

ブラシ形状の楕円の角度を設定します。

○真円率：

ブラシ形状の楕円の具合を設定します。
100%で正円になります。

■ ブラシツール

ブラシツールは、輪郭の柔らかなストロークを描画します。

- 1 ブラシツールを選択する。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「ブラシ・オプション」画面が表示されます。
- 3 [サイズ]タブでブラシの形状を選択する。



- 4 [オプション]タブでブラシの不透明度を選択する。

○不透明度の設定

ブラシストロークの不透明度を弱くする場合は低い値を設定します。設定した透明度でストロークが描画されます。不透明度を設定したストロークを重ねると水彩絵の具で描画したような効果を得ることができます。



- 5 画像上をドラッグする。

色を濃くする場合は、ドラッグしないでマウスボタンを押し続けます。描画色でブラシストロークが描画されます。不透明度を設定して重ねてストロークを描画することで重ね塗りの効果を得ることができます。

●ブラシの編集

「ブラシ・オプション」画面の[サイズ]タブを選択してブラシ形状の編集ができます。

- 1 ブラシ形状リストから編集したいブラシを選択して「編集」をクリックする。
ブラシの編集画面が開きます。
- 2 各項目を設定して「OK」をクリックする。
編集した形状が登録されます。



○直径：

ブラシの大きさをピクセルで設定します。

○ぼかしの開始位置：

ブラシの大きさに対してぼかしを開始する位置を % で指定します。

数値が大きいほどぼかし幅が少なくなります。

○角度：

ブラシ形状の楕円の角度を設定します。

○真円率：

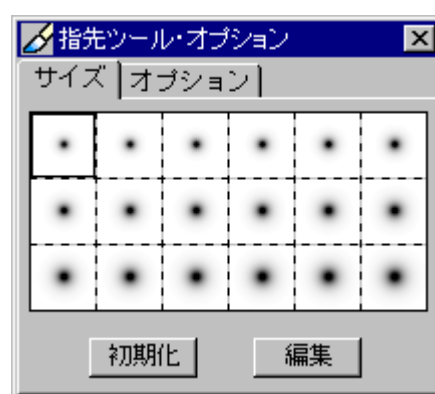
ブラシ形状の楕円の具合を設定します。100%で正円になります。

■指先ツール

指先ツールを使用すると、絵の具の乾いていない画像を指でこすったような効果を得ることができます。マウスでドラッグする方向に、最初にクリックした部分の色を伸ばしていきます。

- 1 指先ツールを選択する。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「指先ツール・オプション」画面が表示されます。

- 3 [サイズ]タブで指先ツールの形状を選択する。



- 4 [オプション]タブで指先ツールの強さをを選択する。

○強さの設定

こする効果の適用度を強くする場合は高い値を設定し、弱くする場合は低い値を設定します。



- 5 画像上をドラッグしてドラッグ方向に色をこする。
ドラッグした方向にドラッグをはじめた場所の色がこすられます。

●指先ツールの編集

「指先ツール・オプション」画面の[サイズ]タブを選択して指先形状の編集ができます。

1 「指先ツール・オプション」画面で編集したい指先形状を選択して[編集]をクリックする。

指先の編集画面が開きます。

2 各項目を設定して[OK]をクリックする。

編集した形状が登録されます。



○直径：

指先の大きさをピクセルで設定します。

○ぼかしの開始位置：

指先の大きさに対してぼかしを開始する位置を % で指定します。

数値が大きいほどぼかし幅が少なくなります。

○角度：

指先形状の楕円の角度を設定します。

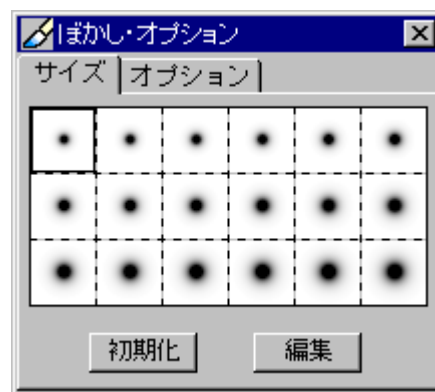
○真円率：

指先形状の楕円の具合を設定します。100%で正円になります。

■ぼかしツール

ぼかしツールは、画像上の鮮明な部分や境界をぼかします。

- 1 ぼかしツールを選択する。
- 2 [表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択する。
「ぼかし・オプション」画面が表示されます。
- 3 [サイズ]タブでブラシの形状を選択する。



- 4 [オプション]タブでぼかしの強さをを選択する。

○ぼかしの強さの設定

ぼかし効果の適用度を強くする場合は高い値を設定し、弱くする場合は低い値を設定します。この設定はインクの噴出量の強さを調整するのと似ています。



- 5 ぼかしを適用する画像部分をドラッグする。
適用した部分がぼかされて表示されます。

●ブラシの編集

「ぼかし・オプション」画面の[サイズ]タブを選択してブラシ形状の編集ができます。

「ぼかし・オプション」画面が表示されない場合は、[表示 (V)]メニューから[ツールオプション]を選択します。

- 1 「ぼかし・オプション」画面で編集したいブラシを選択して[編集]をクリックする。
ぼかしの編集画面が開きます。
- 2 各項目を設定して[OK]をクリックする。
編集した形状が登録されます。



- 直径：
ブラシの大きさをピクセルで設定します。
- ぼかしの開始位置：
ブラシの大きさに対してぼかしを開始する位置を%で指定します。
数値が大きいほどぼかし幅が大きくなります。
- 角度：
ブラシ形状の楕円の角度を設定します。
- 真円率：
ブラシ形状の楕円の具合を設定します。100%で正円になります。

■パスツール

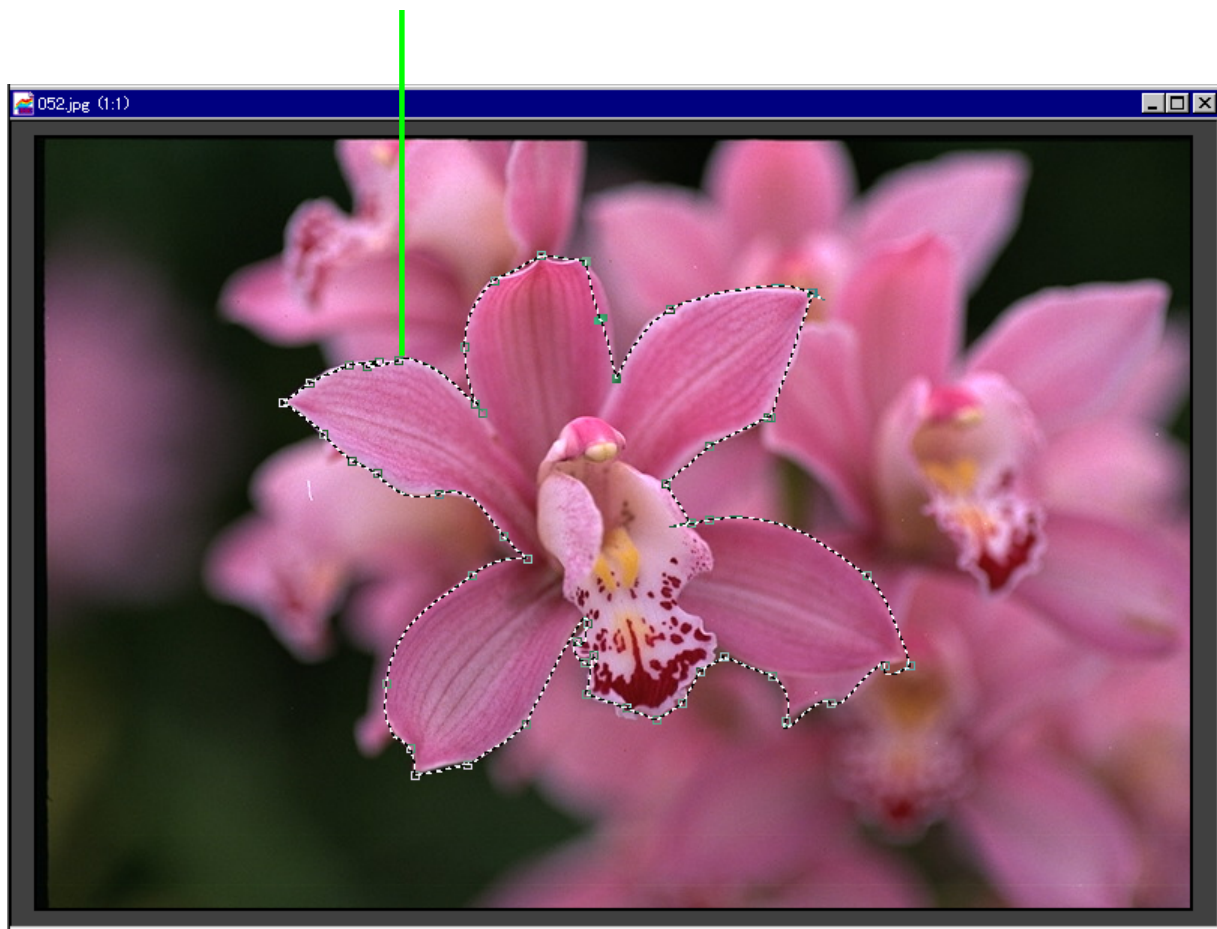
「レタッチ」のパスツールを使って、画像画面上に描く直線や曲線のことをパスといいます。

絵の上にトレーシングペーパーを置いて、画像をなぞるように直線や曲線を描くようなものです。

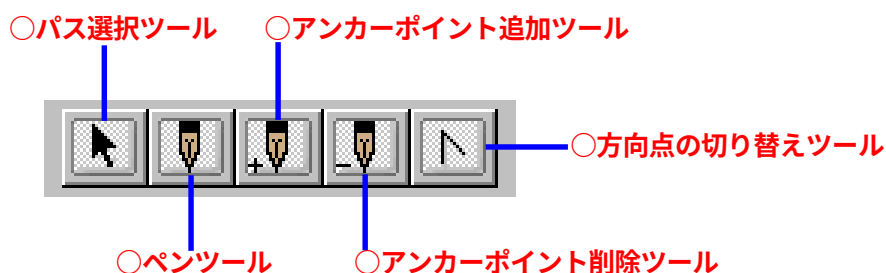
○複雑な画像でもパスツールを使用して、滑らかな境界のパスを正確に描けます。

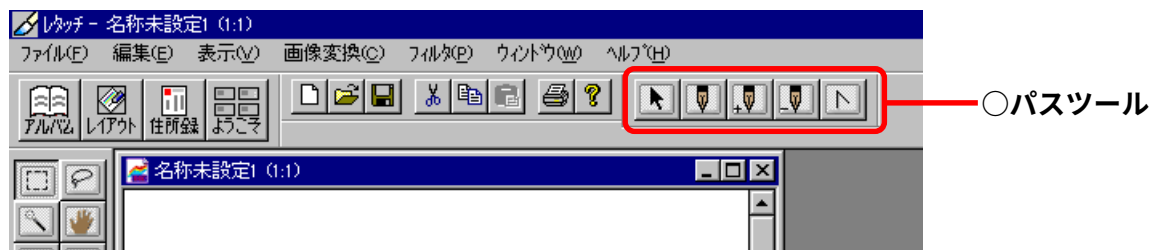
○作成したパスを選択範囲に変換すると、画像の領域を正確に選択できます。塗りつぶす範囲を定義したり、ペイントツールを使ってなぞることができる形状を描くなどの場合に便利です。

○パスを作成して、選択範囲に変換した例



○パスは、5つのツールアイコンを使用して作成します。パスツールはマウスでドラッグすることで自由に移動することができます。





●パスの操作

パスを作成、編集するための5つのツールアイコンが用意されています。



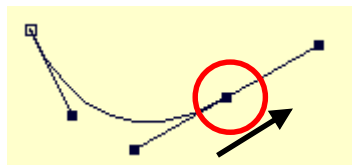
パス選択ツール

アンカーポイントを選択して移動します。パスの周りをドラッグしてすべてのアンカーポイントを選択することでパス全体を移動できます。



ペンツール

パスを作成します。クリックするとアンカーポイントが作成されます。クリックする毎に新しいアンカーポイントが作成されポイント間が結ばれます。



次のアンカーポイントを置いてドラッグします。



アンカーポイント追加ツール

パス上にアンカーポイントを追加します。作成しているパス上のアンカーポイントを作成したい位置でクリックすると追加されます。



アンカーポイント削除ツール

パス上のアンカーポイントを削除します。削除したいアンカーポイントをクリックすると削除され、削除したアンカーポイントの前と後ろのアンカーポイント間がパスでつながります。



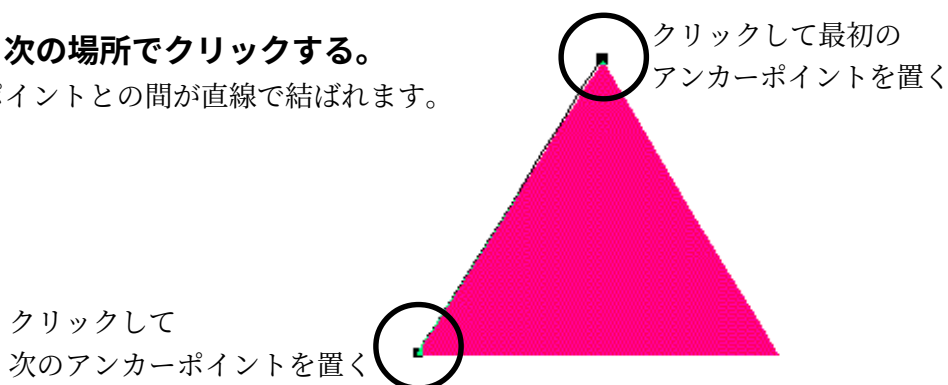
方向点の切り替えツール

パス上のアンカーポイントの種類を切り替えます。ハンドル操作の切り替えとコーナー／カーブポイントの切り替えをします。

●直線のパスを描く

- 1 ペンツールを選択する。
- 2 最初のアンカーポイントを置きたい場所でクリックする。

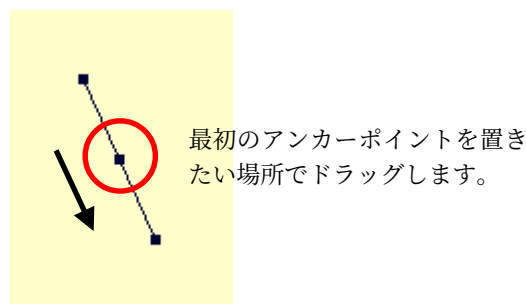
- 3 直線を作成する次の場所でクリックする。
最初のアンカーポイントとの間が直線で結ばれます。



●曲線のパスを描く

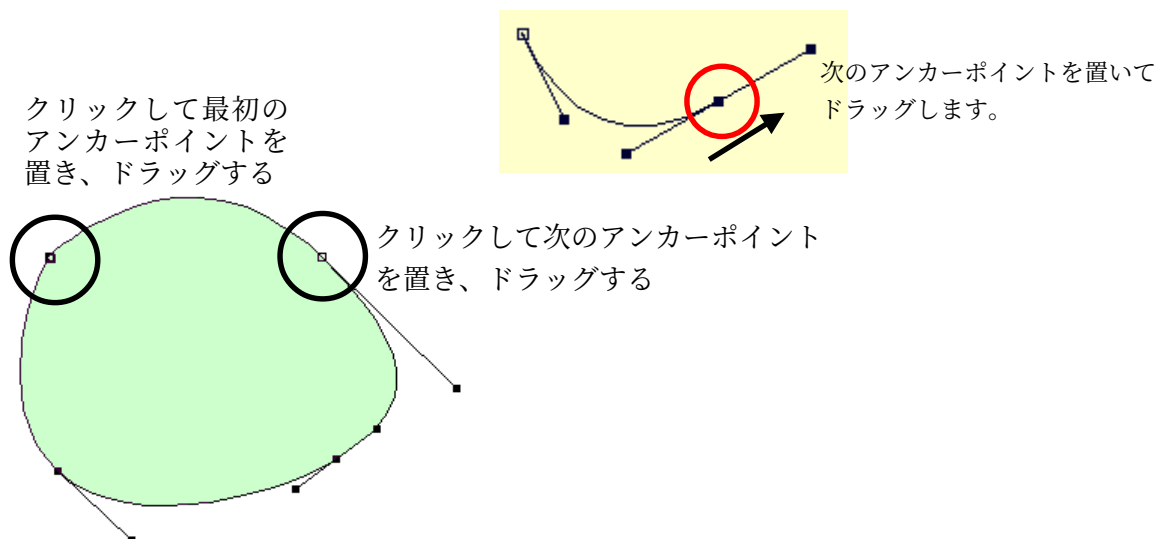
- 1 ペンツールを選択する。
- 2 最初のアンカーポイントを置きたい場所でドラッグする。

ドラッグした方向とその反対方向にハンドルが伸びます。



- 3 曲線を作成する次の場所でクリックする。

最初のアンカーポイントとの間が曲線で結ばれます。曲線の形状は、ドラッグして表示されるハンドルの方向と長さ及び、アンカーポイント間の位置関係によって決まります。



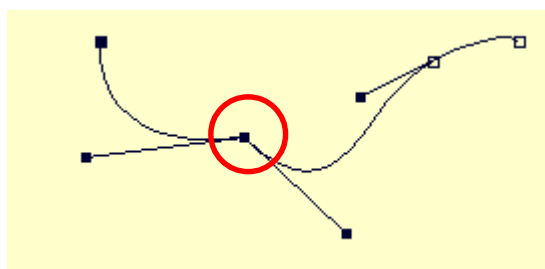
●ハンドルの操作切り替え

曲線のパスのアンカーポイントをクリックして表示される二つのハンドルを独立して操作するか、連動して操作するかを切り替えます。

1  方向点の切り替えツールを選択する。

2 ハンドルの表示されているアンカーポイントのどちらかのハンドルをクリックして少しドラッグする。

ドラッグしたアンカーポイントのハンドルが連動して操作できる状態であった場合は、独立して操作できる状態に切り替わります。



クリックして左右のハンドルを個別に操作できる状態。

3 パス選択ツールを選択しハンドルを操作する。

状態を切り替えた後はパス選択ツールでハンドルの操作を行います。再度、方向点切り替えツールを選択すると連動して操作できる状態にもどります。

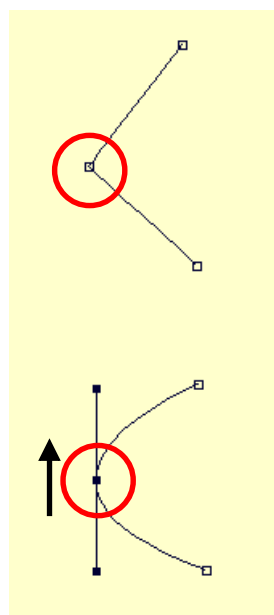
●アンカーポイントの種類の切り替え

方向点の切り替えツールではコーナーポイントからカーブポイントに変更することができます。

1  方向点の切り替えツールを選択する。

2 ハンドルがないアンカーポイントをクリックしてドラッグする。

ドラッグした方向にハンドルが伸びてカーブポイントに変更されます。



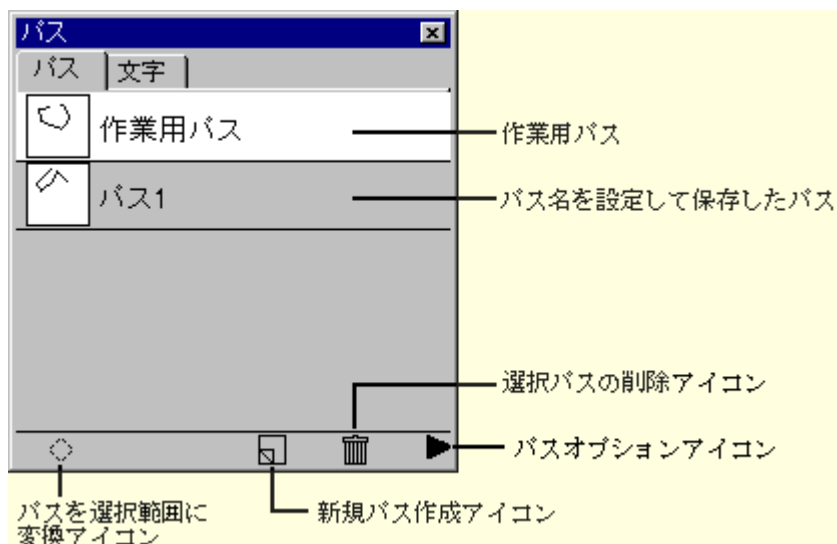
ハンドルのない
コーナーポイント

クリックしてドラッグすることでカーブポイントに変更し左右のハンドルを表示

■パス画面の操作

[表示 (V)]メニューの[パス]を選択すると「パス」画面が表示されます。
作成中のパスは、作業パスとして「パス」画面に表示されます。

○以前に作成した「パス1」と
現在編集作業中の「作業用の
パス」が表示されている例

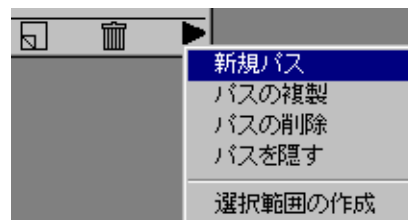


●作業パス

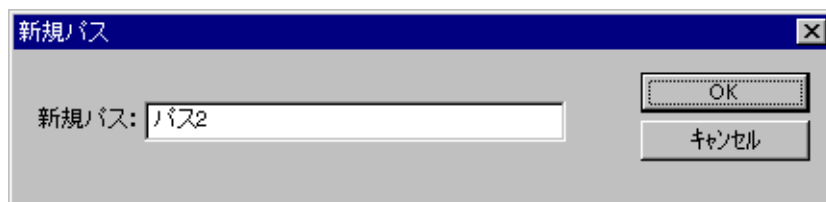
ペンツールでアンカーポイントを作成していくと「パス」画面に作業パスとして表示されます。
パスを追加していくとこの作業パスに追加されます。

●新規パスの作成

- 1 「パス」画面の[パス]タブを選択して [パスオプション] アイコンをクリックする。
- 2 表示されるメニューから[新規パス]を選択する。



○「新規パス」画面が表示されます。

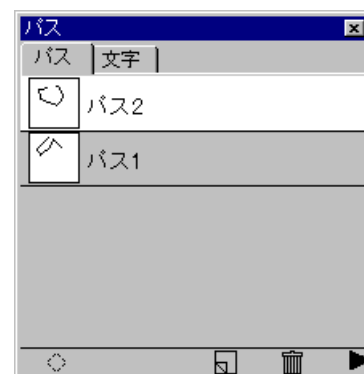


- 3 新規パスの名称を入力して[OK]をクリックする。

パスを作成中に表示される作業パスをダブルクリックして新規パスとして作成することもできます。「パス」画面上のパスリストに設定した名称で保存されます。

パスリストで選択されているパスが画像編集画面に表示されます。リストで選択している画面で新規にアンカーポイントを作成すると、パスが追加されます。

「パス」画面上の [新規パス作成] アイコンをクリックして新規パスを作成することもできます。

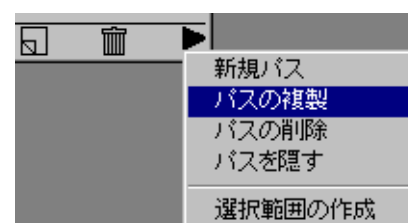


●パスの複製

- 1 複製するパスを「パス」画面のリストから選択する。
- 2 [パスオプション] アイコンをクリックする。
- 3 表示されるメニューから[パスの複製]を選択する。

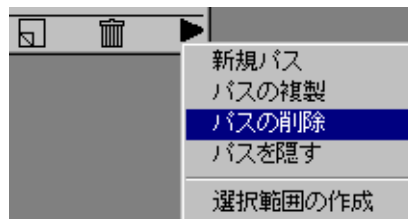
パスリストで選択しているパスの複製がすぐ下に作成されます。

「パス」画面上の [新規パス作成] アイコンにドラッグして複製することもできます。



●パスの削除

- 1 削除するパスを「パス」画面のリストから選択する。
- 2 [パスオプション] アイコンをクリックする。
- 3 表示されるメニューから [パスの削除] を選択する。



パスリストで選択しているパスが削除されます。

選択したパスを「パス」画面上の「選択パスの削除」アイコンにドラッグして削除することもできます。

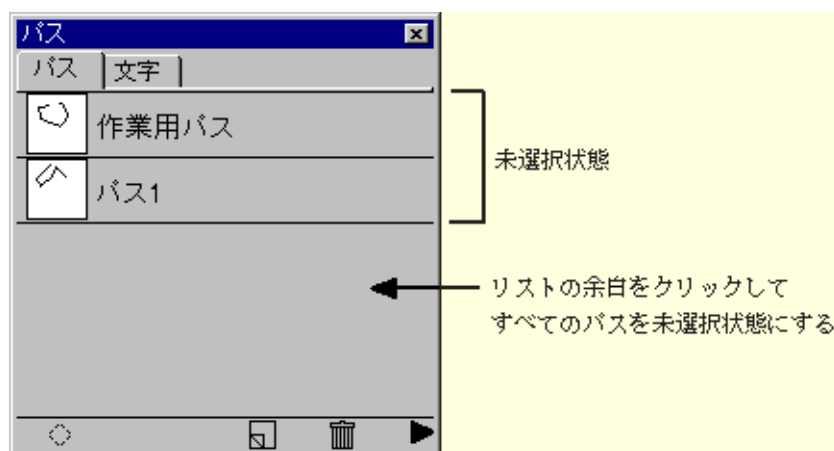
●パスの非表示

パスリストでパスを選択すると画像編集画面に表示されます。

他の編集をする場合にパスを表示していると操作しづらくなる場合は、パスを非表示にします。

- 1 [パスオプション] アイコンをクリックする。
- 2 表示されるメニューから [パスを隠す] を選択する。

すべてのパスが選択していない状態になり画像編集画面で表示されなくなります。



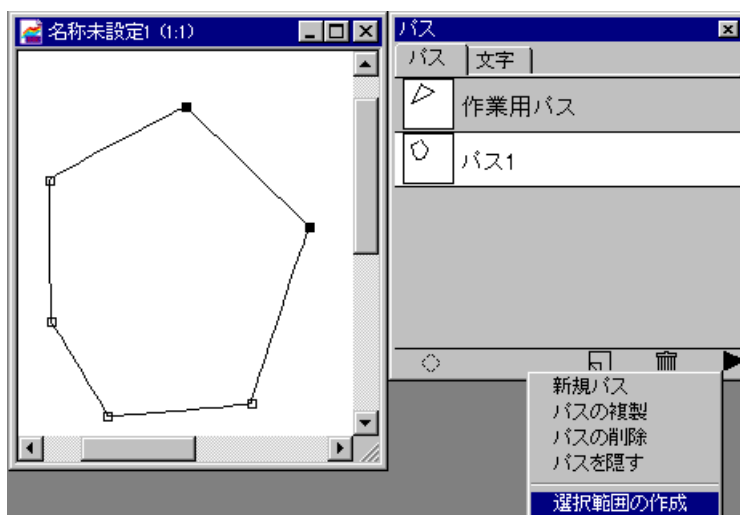
●パスから選択範囲を作成する

作成したパスから選択範囲を作成することができます。

① 選択範囲として作成したいパスを「パス」画面の [パス] タブから選択する。

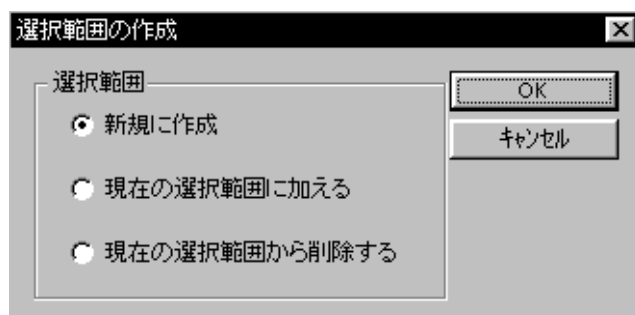
② [パスオプション] アイコンをクリックし、[選択範囲の作成]を選択する。

「選択範囲の作成」画面が表示されます。

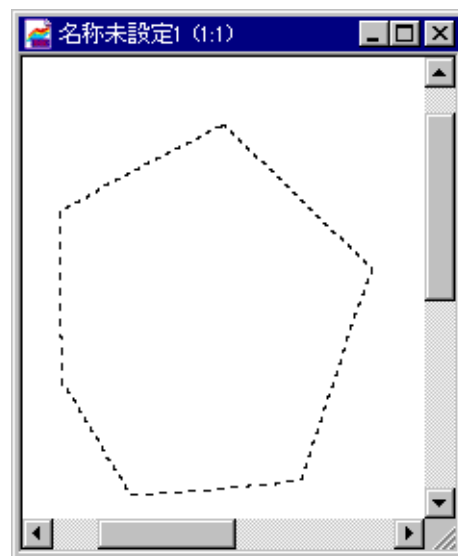


③ 作成方法を選択する。

選択しているパスから選択範囲が作成されます。



選択したパスを「パス」画面の [パスを選択範囲に変換] アイコン上にドラッグして選択範囲を作成することもできます。



■文字ツール

画像編集画面にテキストのパスを作成することができます。

作成したテキストを自由に変形したり、色を変更することができます。

① ツールパレットから文字ツールを選択する。

② 文字を作成する範囲をドラッグする。

「新規テキスト」画面が表示されます。

③ テキスト欄に文字を入力する。



④ テキストのフォントをポップアップメニューのリストから選択する。

必要であれば不透明度の値を設定します。

⑤ [OK]をクリックする。

ドラッグした範囲の大きさでテキストが作成されます。



⑥ コントロールポイントとハンドルを操作して変形する。



作成された文字は、属性を変更可能な状態で画像編集画面に配置されます。画像として確定されていませんので選択範囲で囲んでコピーしたりする操作はできません。印刷や他の画像形式で保存する際に画像に変換されます。

●変形の操作

作成されたテキストには、4つのコントロールポイントとそれぞれのコントロールポイントに一方向のハンドルがあります。

コントロールポイントとハンドルを操作してテキストを変形します。

●文字の移動

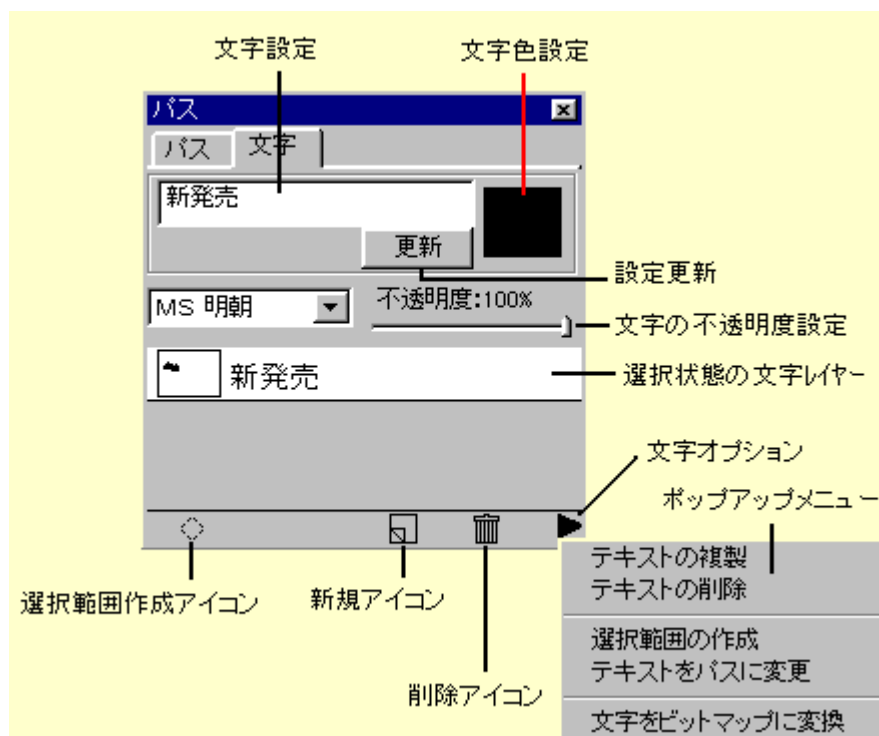
ツールパレットから文字ツールを選択して、画像編集画面に表示されている文字部分をクリックしてドラッグすると移動できます。

お知らせ

「レタッチ」での文字入力、パスで作成されているため通常、PCF形式で保存されます。文字を右クリックして、コンテキストメニューを表示させ、[文字をビットマップに変換]を選択すると、BMP形式で保存できます。一度、BMP形式に変換すると、文字編集はできません。

■文字画面の操作

[表示(V)]メニューの[パス]を選択すると「パス」画面が表示されます。[文字]タブを選択すると、文字ツールのオプションとして、文字設定画面が表示されます。



●文字の選択

「パス」画面の[文字]タブのレイヤーリストから選択したい文字レイヤーをクリックします。レイヤー名は入力した文字で表示されます。

●文字設定

[文字設定] の欄に文字を入力します。一度設定した文字のパスでも簡単に文字を変更できます。変更結果を画像編集画面の文字に反映させるには[更新]をクリックします。

●文字の色設定

[文字の色設定]をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。設定したい色を選択し、[OK]をクリックします。変更結果が画像編集画面の文字に反映されます。

●フォントの設定

フォント選択ポップアップメニューからフォント名を選択します。

●不透明度の設定

不透明度スライダで不透明度を設定します。

●文字の複製

- 1 複製する文字パスを「パス」画面の[文字]タブのレイヤーリストから選択する。
- 2 文字オプションアイコンをクリックする。
- 3 表示されるメニューから[テキストの複製]を選択する。
文字リストで選択している文字パスの複製がすぐ下に作成されます。
選択した文字パスを「パス」画面の[新規]アイコンにドラッグして複製することもできます。

●文字の削除

- 1 削除する文字パスを「パス」画面の[文字]タブのレイヤーリストから選択する。
- 2 [文字オプション] アイコンをクリックする。
- 3 表示されるメニューから[テキストの削除]を選択します。
削除する際に文字をフロートに変換するかどうかを確認する画面が表示されます。
「はい (Y)」をクリックするとフロート選択範囲を作成して文字が削除されます。
「いいえ (N)」をクリックするとそのまま文字が削除されます。「キャンセル」をクリックすると削除が中止されます。選択した文字パスを「パス」画面の[削除]アイコンにドラッグして削除することもできます。

●文字のコントロールポイントを非表示にする

「パス」画面の[文字]タブのレイヤーリストの空白部分をクリックするとリストの選択がすべて解除されます。画像編集画面でのコントロールポイントの表示が消えます。

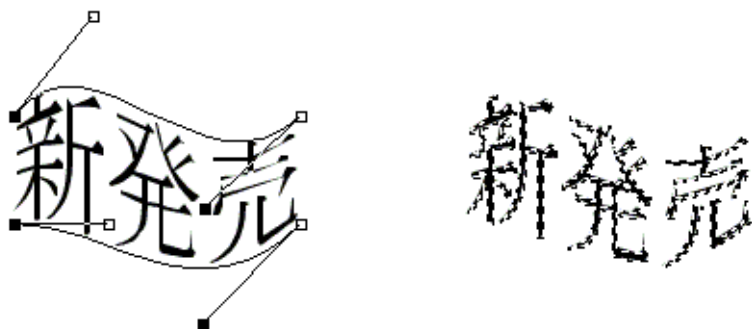
○空白部分



●文字から選択範囲を作成する

作成した文字から選択範囲を作成することができます。

- 1 選択範囲として作成したい文字を「パス」画面の[文字]タブのレイヤーリストから選択する。
- 2 [文字オプション] アイコンをクリックする。
- 3 表示されるメニューから[選択範囲の作成]を選択する。
「選択範囲の作成」画面が表示されます。
- 4 選択範囲の種類を選択する。
 - 新規に作成：
既存の選択範囲を解除して文字の選択範囲を作成します。
 - 現在の選択範囲に加える：
既存の選択範囲に文字の選択範囲を追加します。
 - 現在の選択範囲から削除する：
既存の選択範囲と重なる部分が既存の選択範囲から削除されます。



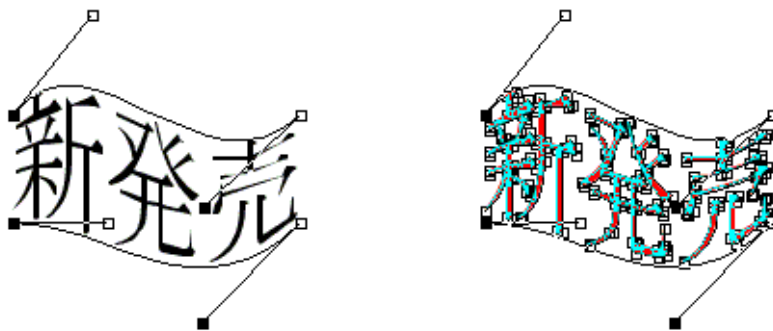
選択した文字を「パス」画面の[文字]タブの[選択範囲作成]アイコン上にドラッグして選択範囲を作成することもできます。この場合は選択範囲の設定画面は表示されずに新規に作成されます。



パスを選択範囲に変換するアイコンをクリックしても、作成
できます。

●文字からパスを作成する

- ① パスを作成したい文字を「パス」画面の[文字]タブのレイヤーリストから選択する。
- ② [文字オプション] アイコンをクリックする。
- ③ メニューから[テキストをパスに変更]を選択する。
選択している文字のパスが作成されます。



■切り抜きツール

切り抜きツールを使うと、選択した範囲の画像を切り取って残すことができます。
画像の残したい部分をドラッグして選択し切り抜くことができます。

- 1** 切り抜きツールを選択し画像表示画面上の切り抜きたい部分をドラッグして選択します。

ドラッグ後に選択範囲の四隅のコントロールをドラッグして範囲の細かい調整もできます。



- 2** 選択した範囲内でマウスをダブルクリックする。
選択した範囲以外の画像が消去され選択した範囲が残ります。

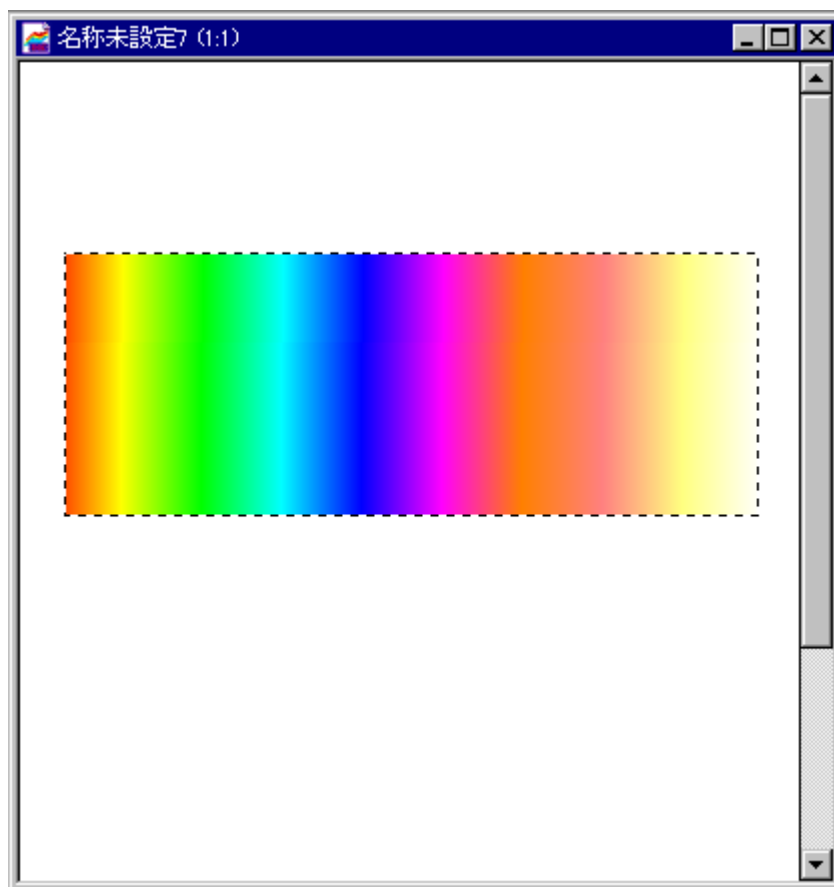


■グラデーションツール

グラデーションツールを使用して、マルチカラーグラデーションで塗りつぶすことができます。グラデーションとは1つの色から別の色への移行を段階的に行うことができる塗りつぶしの方法です。

グラデーションの種類、マルチカラーのパターンなどの選択を行い、画像編集画面でマウスポインタをドラッグすることでグラデーションを描画できます。

○プリセットパターンのうちの1種類を使って「線」タイプのグラデーションをかけた例



●グラデーション塗りの操作

- 1 塗りつぶす選択範囲を作成する。
(参照：選択範囲の作成)
- 2 ツールパレットのグラデーションツールをクリックする。
「グラデーション設定」画面が表示されます。



- 3 グラデーション形式をリストから選択する。
選択した形式によって有効になるオプションの設定項目があります。
- 4 不透明度を設定する。
不透明度スライダをドラッグして設定します。
- 5 プリセットパターンを選択する。
- 6 [OK]をクリックする。
設定画面が終了します。
- 7 画像編集画面上でマウスをドラッグする。
ドラッグした方向によりグラデーションが塗られます。
何度でも、塗り直しができます。ドラッグせずに、画像編集画面上をクリックすると、単色に変化しますが、ドラッグし直すとグラデーションが塗られます。

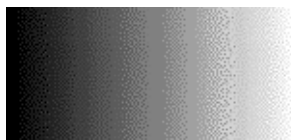
●不透明度の設定

グラデーション設定画面の不透明度スライダで塗りつぶす際の不透明度を設定します。不透明度の％を低くするほど下の画像とブレンドされる度合いが強くなります。

●グラデーションの種類

線：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンで直線状にドラッグした方向に塗りつぶします。



オプションの設定はありません。

正円：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした長さを半径として塗りつぶします。



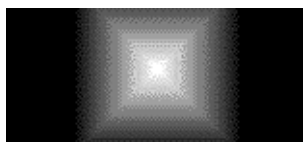
(フェードの方向)

「内」を選択すると正円の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると正円の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

3D正四角形：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした方向に四角く塗りつぶされます。ドラッグした長さが四角形の中心からの長さになります。



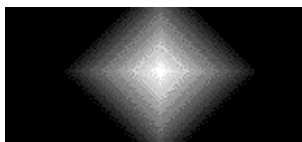
(フェードの方向)

「内」を選択すると四角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると四角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

3D斜め四角形：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした方向に四角く塗りつぶされます。ドラッグした長さが四角形の中心からの長さになります。正四角形を45度回転した形になります。



(フェードの方向)

「内」を選択すると四角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると四角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

3D正三角形：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした方向に三角形で塗りつぶされます。ドラッグの開始点で三角形の位置が決定します。ドラッグした長さが三角形の大きさに反映されます。



(フェードの方向)

「内」を選択すると三角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると三角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

(グラデーションの方向)

上下左右を選択すると三角形の中心から外に向けてのグラデーションになり、ドラッグ開始点が三角形の中心になります。

斜め方向を選択すると、三角形の底辺の中心から外に向けてのグラデーションになり、ドラッグ開始点が三角形の底辺の中心となります。

正三角形：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした方向に斜めの三角形で塗りつぶされます。ドラッグの開始点で三角形の位置が決定します。ドラッグした長さが三角形の大きさに反映されます。



(フェードの方向)

「内」を選択するとグラデーションの方向で選択した方向に、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

「外」を選択するとグラデーションの方向で選択した方向に、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

(グラデーションの方向)

上下左右を選択すると三角形の中心から外に向けてのグラデーションになり、ドラッグ開始点が三角形の中心になります。

斜め方向を選択すると、三角形の底辺の中心から外に向けてのグラデーションになり、ドラッグ開始点が三角形の底辺の中心となります。

3 D 逆三角形組み合わせ：

3 D 正三角形を二つミラー状態で配置したグラデーションが作成されます。



(フェードの方向)

「内」を選択すると三角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると三角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

(合成図形方向)

合成図形の方法を縦、横、斜め方向から選択します。

逆正三角形組み合わせ：

正三角形を二つミラー状態で配置したグラデーションが作成されます。



(フェードの方向)

「内」を選択すると三角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

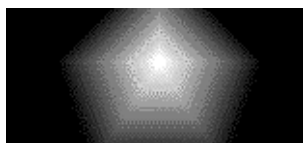
「外」を選択すると三角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

(合成図形方向)

合成図形の方法を縦、横、斜め方向から選択します。

3D五角形：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした方向に六角形で塗りつぶされます。ドラッグの開始点で五角形の位置が決定します。ドラッグした長さが五角形の大きさに反映されます。



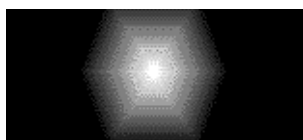
(フェードの方向)

「内」を選択すると五角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると五角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

3D六角形：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした方向に六角形で塗りつぶされます。ドラッグの開始点で六角形の位置が決定します。ドラッグした長さが六角形の大きさに反映されます。



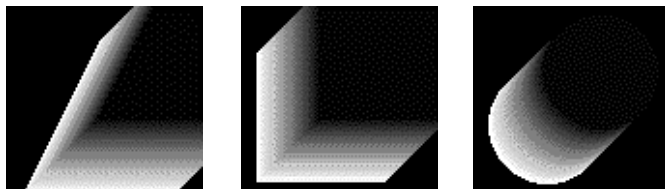
(フェードの方向)

「内」を選択すると六角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると六角形の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

三角柱 / 四角柱 / 円柱：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンで、ドラッグした長さと方向で塗りつぶします。選択した形状が作成されます。



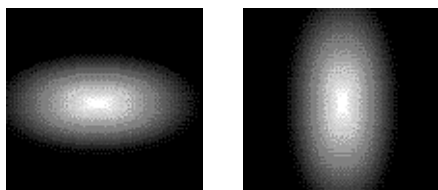
(フェードの方向)

「内」を選択するとドラッグした方向に、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

「外」を選択するとドラッグした方向に、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

楕円横 / 楕円縦：

グラデーションパターンの始点から終点までのパターンでドラッグした長さを半径として塗りつぶします。



(フェードの方向)

「内」を選択すると楕円の中心から外に向けて、グラデーションパターンの終点から始点に塗りつぶされます。

「外」を選択すると楕円の中心から外に向けて、グラデーションパターンの始点から終点に塗りつぶされます。

波：サイン波 / タンジェント波：

波の形状でグラデーションを作成します。画像サイズがある程度大きくないとグラデーション塗りの効果がでません。

(波の高さ)

波の高さを 0 から 512 倍の範囲でスライダで設定します。倍率を大きくするほど変化の大きいグラデーションが作成されます。

この形式では、ドラッグする方向は関係ありません。

ドラッグの距離が短いと、このグラデーションの効果が得られません。距離が長いほど、効果も大きくなります。

ドラッグの距離と、倍率の調整で効果を試してください。

●グラデーションパターンの作成

オリジナルのグラデーションを作成して登録できます。

登録したパターンは、ユーザーパターンのポップアップメニューから選択して使用できます。

●パターンエディタの起動

1 プリセットパターンをクリックして参照するパターンを選択する。

パターンプレビューボックスにそのパターンが表示されます。



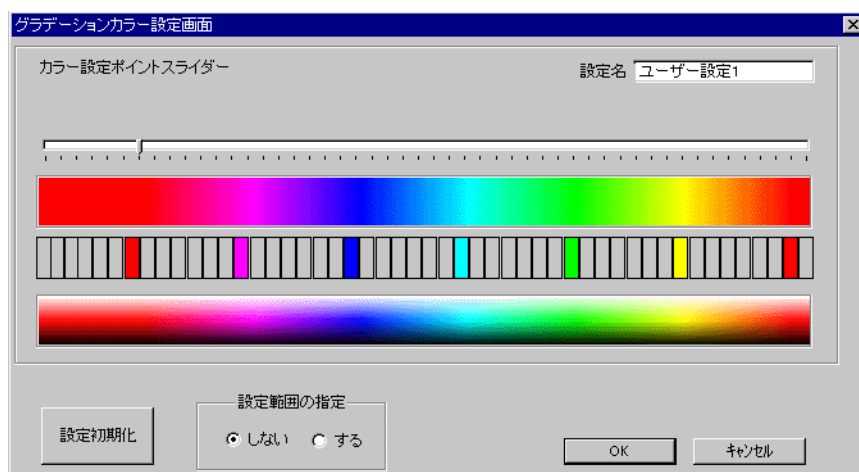
2 登録する場所をユーザーパターンのポップアップメニューで選択する。

3 パターンプレビューボックスをクリックするか、[編集]をクリックする。

「グラデーションカラー設定画面」が表示されます。

●パターンの作成

パターンエディタには、パターンプレビューボックスに表示されているグラデーションがグラデーションバーに表示されます。その下に 50 個のカラー登録チップが並んでいます。



●カラーチップでのグラデーションカラーの設定

1 カラー登録チップの任意のチップをクリックする。

「色の設定」画面が表示されます。

2 色を選択し、[OK]をクリックします。

選択したカラー登録チップにその色が登録され、グラデーションバーのその位置に選択した色が設定されます。

設定した位置の色から左右の色にグラデーションが作成されます。

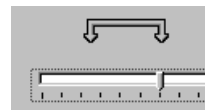
カラー登録チップ上でマウスを右クリックするとカラー登録をキャンセルできます。

●範囲指定によるグラデーションカラーの設定

グラデーションバーの上にカラー設定ポイントスライダがあります。このポイントを移動してカラーピッカーで色をそのポイントに設定できます。

① [設定範囲の指定]で[する]を選択する。

② カラー設定ポイントスライダをマウスでドラッグする。



ドラッグした位置までの範囲が設定されます。範囲指定ブラケットがドラッグした方向に伸びます。

③ カラーピッカー上でマウスをクリックする。

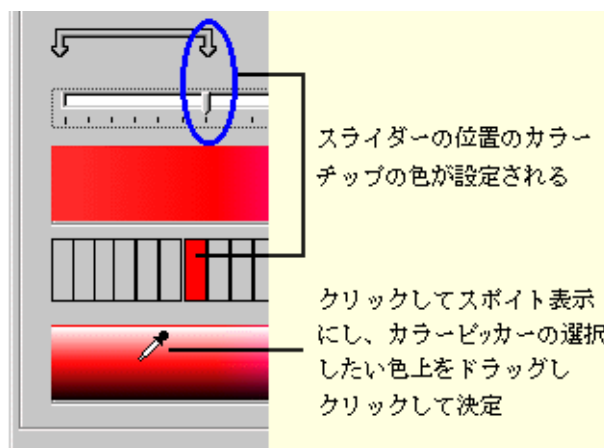
マウスポインタがスポイトになります。

④ カラーピッカー上をドラッグする。

マウスポインタのある位置の色がカラー設定ポイントの位置に反映されグラデーションが確認できます。

⑤ 色が決定したらマウスをクリックする。

カラー設定ポイントの位置に決定した色が設定され同時にその下のカラー登録チップにも登録されます。

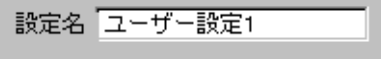


範囲指定ブラケットの中央部分をドラッグして次の指定位置に範囲を移動する。
範囲指定ブラケットの左と右端のカラー登録チップが、移動した場所にコピーされます。繰り返しのグラデーションを作成することができます。

●グラデーションパターンの登録

作成したグラデーションパターンを登録できます。

1 「設定名」にグラデーションの名前を入力する。



2 [OK]をクリックする。

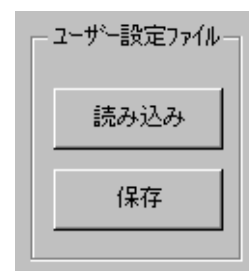
「グラデーション設定画面」が終了します。

ユーザーパターンのポップアップメニューに登録されます。

お知らせ

ユーザーパターンを登録しても保存する前に、他のプリセットパターンをクリックしたり、「グラデーション設定画面」を閉じると、登録したユーザーパターンは消えてしまいます。残しておきたいユーザーパターンは、保存操作をしてください。

●カスタムグラデーションファイルの保存と読み込み



○ユーザーパターンの保存：

現在の「ユーザーパターン」ポップアップメニューに登録されている10個のパターンをまとめて、ユーザーパターンファイルとして保存できます。

画面の「ユーザー設定ファイル」の[保存]をクリックすると保存画面が表示されます。ファイル名と保存場所を設定して保存します。

○ユーザーパターンの読み込み：

「読み込み」ボタンをクリックして保存しているユーザーパターンファイルを読み込むことができます。

読み込んだユーザーパターンはポップアップメニューから選択して使用できます。

■描画色と背景色の選択

ツールパレットの色選択ボックス内の左上に表示される描画色を使って、選択範囲のペイント、塗りつぶし、境界線の描画を行います。背景色は色選択ボックスの右下に表示され、消去した部分の塗りつぶしに使います。初期設定では、描画色は黒で、背景色は白です。

1 描画色または、背景色のボックスをクリックする。

描画色を変更するには、色選択ボックス内の左上のボックスをクリックします。

背景色を変更するには、色選択ボックス内の右下のボックスをクリックします。

2 「色の選択」画面から色を選択し、[OK]をクリックする。

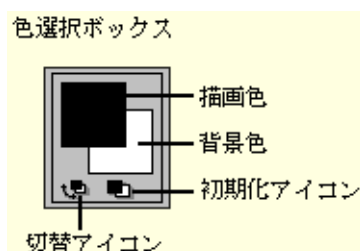


●描画色と背景色の入れ替え

ツールパレットの[切替]アイコンをクリックすると、描画色と背景色が入れ替わります。

●描画色と背景色を初期化

ツールパレットの[初期化]アイコンをクリックすると、描画色と背景色を初期設定に戻します。



画像編集画面に開いている画像を編集するためには、編集する範囲を選択する必要があります。画像の一部や全部を選択します。

■長方形の選択範囲



1 ツールパレットから選択ツールを選択する。

2 画像領域を選択する長方形を指定する。

「ドラッグ開始点」と「ドラッグ終了点」を対角線とした矩形範囲が選択範囲となります。

■フリーハンドの選択範囲



1 ツールパレットからなげなわツールを選択する。

2 画像領域を選択する範囲をドラッグして指定する。

なげなわツールを使うと、自由な曲線で範囲を選択できます。「ドラッグ開始点」と「ドラッグ終了点」が結ばれていないときは自動的に2点間が直線で結ばれて範囲が選択されます。

お知らせ

より詳細な選択範囲を作成したい場合は、[「パス」を使用して選択範囲を作成](#)してください。

■近似色で選択範囲を作成



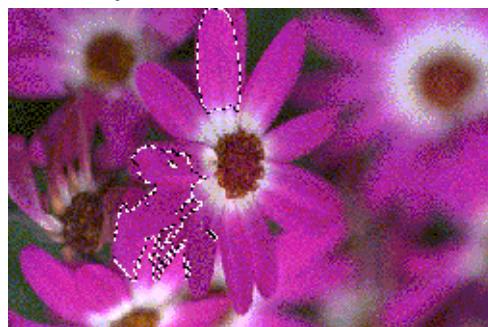
自動選択ツールを使うと、隣接するピクセルの近似色を利用して画像の一部を選択できます。単色で塗られた範囲を簡単に選択できます。

自動選択ツールでの選択は、隣接するピクセルが指定の色域（選択する色の範囲）内にあるかどうかで選択範囲が決まります。自動選択パレットで選択する色の範囲を調整できます。

1 ツールパレットから自動選択ツールを選択する。

2 画像上で選択する色をクリックする。

選択した色に近似した色の隣接ピクセルがすべて選択されます。



■パスで選択範囲を作成



パスを作成して選択範囲に変換することで、他の選択範囲作成ツールでは難しい精密な選択範囲を作成できます。

(参照：[パスを選択範囲にする](#))

■画像のすべてを選択する

画像編集画面に表示されている画像の全体を選択範囲にするには、[編集(E)]メニューから[全画面の選択 (L)]を選択します。

○ショートカットキー:([Ctrl] + [A])

画像編集画面でマウスを右クリックして

表示されるメニューからもこの機能にアクセスできます。

編集(E)	表示(V)	画像変換(C)	ファイル(F)
元に戻す(U)			Ctrl+Z
切り取り(T)			Ctrl+X
コピー(C)			Ctrl+C
貼り付け(P)			Ctrl+V
削除(D)			Del
塗りつぶし(F)			
全画面の選択(L)			Ctrl+A
選択範囲の反転			
文字をビットマップに変換			

■選択範囲の編集

作成した選択範囲の画像を編集できます。

●画像のコピー

[編集 (E)]メニューから[コピー (C)]を選択します。選択範囲の画像がクリップボードにコピーされます。

画像編集画面でマウスを右クリックして表示されるメニューからもこの機能にアクセスできます。

●コピーした画像の貼付け

[編集 (E)]メニューから[貼り付け (P)]を選択します。クリップボードにコピーされた画像が画像編集画面に配置されます。

画像編集画面でマウスを右クリックして表示されるメニューからもこの機能にアクセスできます。

●画像の切り取り

[編集 (E)]メニューから[切り取り (T)]を選択します。選択範囲内の画像が削除され、クリップボードにコピーされます。

画像編集画面でマウスを右クリックして表示されるメニューからもこの機能にアクセスできます。

●画像の削除

[編集 (E)]メニューから[削除 (D)]を選択します。選択範囲の画像が削除されます。クリップボードにはコピーされません。

画像編集画面でマウスを右クリックして表示されるメニューからもこの機能にアクセスできます。

●画像の移動

選択ツールで選択範囲を作成後、マウスポインタでドラッグします。ドラッグした位置に選択範囲の画像が移動します。

●選択範囲の塗りつぶし

[編集 (E)]メニューから[塗りつぶし (F)]を選択します。

[塗りつぶし]画面が表示されます。

○内容

何で塗りつぶすかを「使用」のポップアップメニューから選択します。

○合成

塗りつぶす際に不透明度や描画モードを選択します。

(参照：レイヤー操作「描画モード」)



■フロートした選択範囲

クリップボードにある画像を貼り付けたり、選択範囲の画像を移動すると特別な選択状態となります。この状態を「フロート」と呼びます。

フロート状態にある選択範囲はドラッグで移動したり、回転、透明度の変更などの編集をおこなってもフロート状態を解除しないかぎり、下にある画像に影響を与えません。これは、選択範囲の画像を一時的なレイヤーを作成して操作するためです。「レイヤー」画面にフロートレイヤーが表示されます。



このレイヤーを選択して[新規レイヤー作成]アイコンをクリックすると新規レイヤーとして確定されます。フロート状態を解除するには選択範囲以外の場所をクリックします。

(参照：[フロートからレイヤーを作成する](#))

■レイヤーの操作

●レイヤーとは：

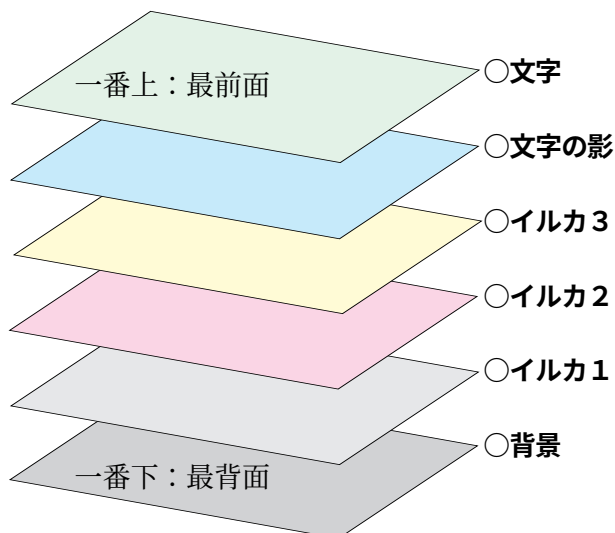
レイヤー (layer) とは「層」が、地層などのように幾層にも重なっていることを意味します。

「レタッチ」では、このレイヤー(層=透明フィルムのようなもの)を幾重にも背景の上に積み重ね、1つの画像を形成できます。何も描かれていないレイヤーは、透かしてその下のレイヤーを見ることができます。

(初期設定で「透明表示」を選択した場合)

新規書類を作成すると、一番下に背景(背景もレイヤーに変換して操作可能です。)が作成されます。

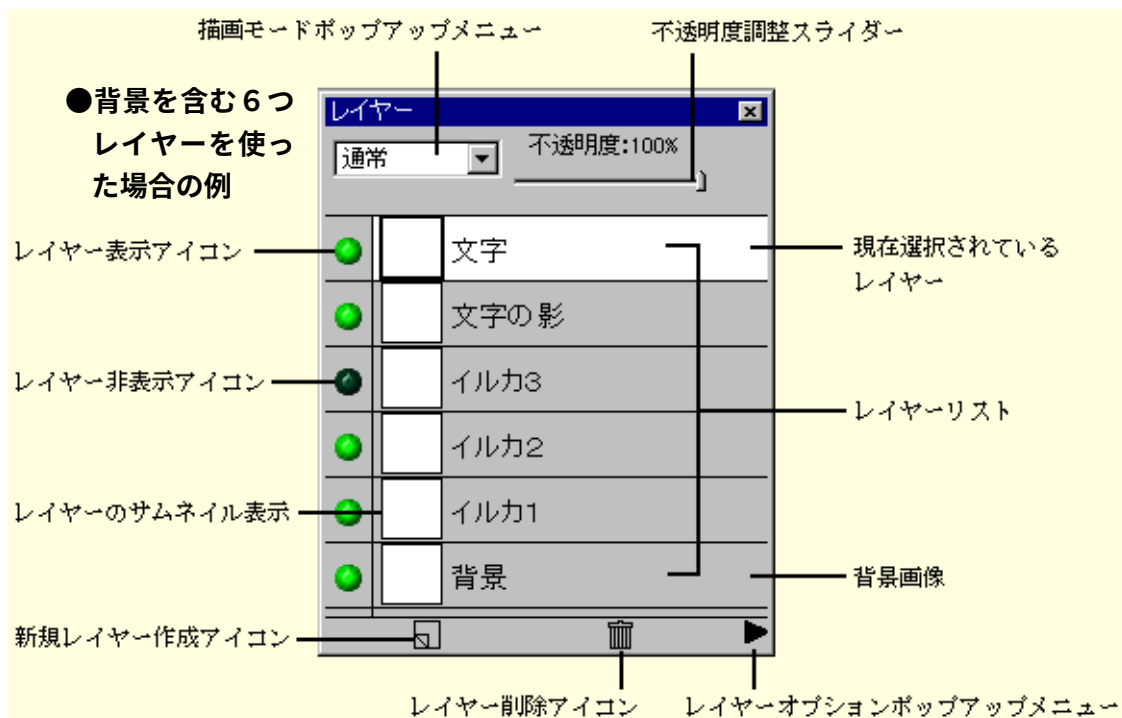
○6層のレイヤーを使ってイルカの絵に文字を重ねた画像のイメージ図



■レイヤーパレットの概要

「レイヤー」画面で複数のレイヤーが管理できます。レイヤーの作成や削除、並び替えなどの操作ができます。

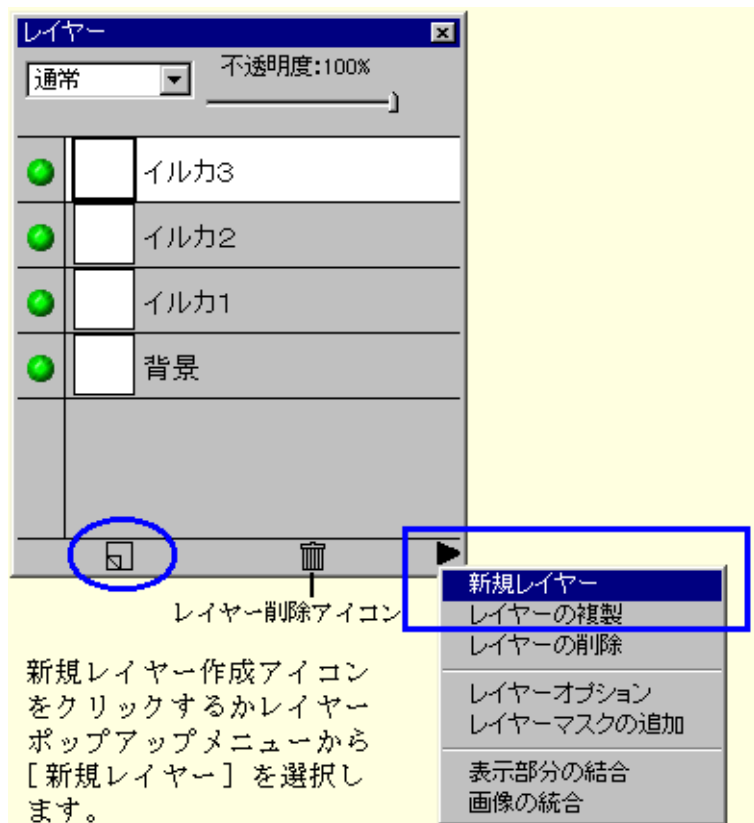
「レタッチ」を起動し、画像を新規で作成するか、既存のファイルを開いた後、[表示(V)]メニューから「レイヤー」を選択し、レイヤーパレット(レイヤー画面)を表示させます。



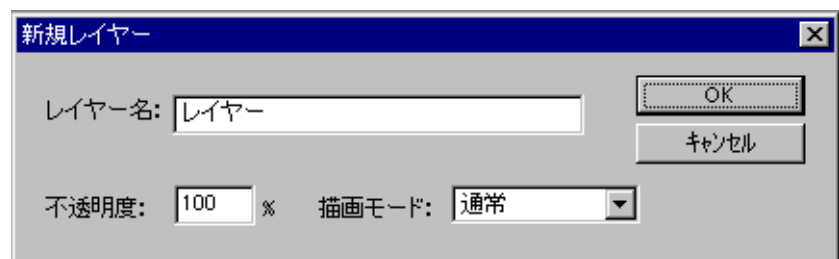
■レイヤーの作成

●新規レイヤーの作成

- 1 「レイヤー」画面の[新規レイヤー作成]アイコンをクリックする。
または、レイヤーオプションポップアップメニューから[新規レイヤー]を選択する。



「新規レイヤー」画面が表示されます。

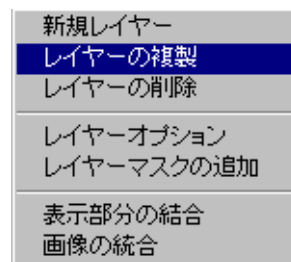


- 2 新規レイヤーの名称、不透明度、描画モードを設定する。
新規レイヤーがレイヤーリストに挿入されます。
挿入される位置は、新規レイヤー作成時に選択していたレイヤーの一つ上になります。

●レイヤーの複製

選択しているレイヤーを複製することができます。

- 1 レイヤーリストから複製したいレイヤーをクリックして選択する。
- 2 レイヤーオプションポップアップメニューから[レイヤーの複製]を選択する。



レイヤーリストに複製されたレイヤーが挿入されます。

挿入される位置は複製するために選択したレイヤーの一つ上になります。複製されたレイヤーの名称は複製元のレイヤー名に[コピー]を付け加えた名称になります。レイヤーオプションの不透明度、描画モードは、複製元と同じになります。

●フロートからレイヤーを作成する

クリップボードにある画像を貼付けたり、選択範囲の画像を移動すると特別な選択状態となります。この状態を「フロート」と呼びます。フロート状態にある選択範囲はマウスドラッグで移動したり、回転、透明度の変更などの編集をおこなってもフロート状態を解除しないかぎり、下にある画像に影響を与えません。これは、選択範囲の画像を一時的なレイヤーを作成して操作するためです。「レイヤー」画面にフロートレイヤーが表示されます。このレイヤーを選択して[新規レイヤー作成]アイコンをクリックすると新規レイヤーとして確定されます。フロート状態を解除するには選択範囲以外の場所をクリックします。

1 選択範囲をフロート状態にする。

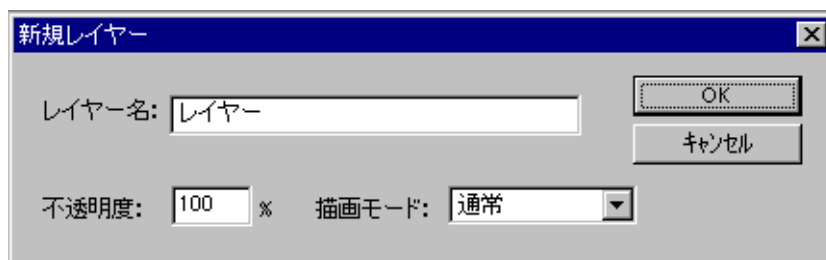
画像をペーストする、選択範囲の画像を移動するなどの操作でフロート状態の選択範囲を作成します。

フロート状態になると、「レイヤー」画面にフロートレイヤーが作成されます。



フロートレイヤーは現在選択されているレイヤーのすぐ上に作成されます。この状態で他のレイヤーをクリックするとフロートレイヤーは削除され、選択範囲が解除されます。

2 「レイヤー」画面のフロートレイヤーをダブルクリックするか、レイヤーオプションポップアップメニューから[新規レイヤー]を選択する。



3 新規レイヤーの名称、不透明度、描画モードを設定する。

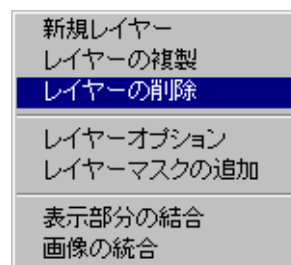
フロートレイヤーがレイヤーに変換されレイヤーリストに挿入されます。

フロートレイヤーの位置に挿入されます。レイヤーとして作成後は、選択状態が解除となります。

■レイヤーを削除する

レイヤーリスト内のレイヤーを削除します。多くのレイヤーを使用すると書類サイズが大きくなりメモリを大量に消費するようになります。合成の操作で使用した後に不要になったレイヤーを削除することをお勧めします。

- 1 「レイヤー」画面のリストから削除するレイヤーをクリックして選択する。
- 2 「レイヤー」画面の[レイヤー削除]アイコンをクリックするか、レイヤーを[レイヤー削除]アイコンにドラッグする。
または、レイヤーオプションポップアップメニューから[レイヤーの削除]を選択する。



■レイヤーをまとめる

複数のレイヤーを一つのレイヤーにまとめることでレイヤーを整理し、ファイルサイズを小さくできます。それぞれのレイヤーの編集が完了し、レイヤー間の描画モードなどの調整が完了した後でこれらのレイヤーにその編集結果を統合することができます。ただし、レイヤーを結合すると画像の重なった部分を個別に編集することができなくなる（選択範囲を作成しての編集は可能です）ので注意が必要です。「レタッチ」では表示レイヤーを一つに結合することができます。

- 1 結合しないレイヤーを非表示にする。
[レイヤー表示]アイコンをクリックしてオフにするとそのレイヤーを非表示にできます。背景画像も非表示にしておかないと結合されます。
- 2 レイヤーオプションポップアップメニューから[表示部分の結合]を選択する。
表示レイヤーがリストに表示されている順番を反映して一つのレイヤーに結合されます。結合したレイヤーは結合前のレイヤーの一番下にあるレイヤーの名称になります。

お知らせ

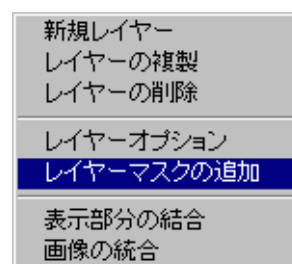
作成したレイヤーを、まとめない（結合しない）でそのまま保存するときは、PCF形式で保存してください。JPEG、BMP形式で保存すると結合しなかったレイヤーは消去されます。

■レイヤーマスクの使用

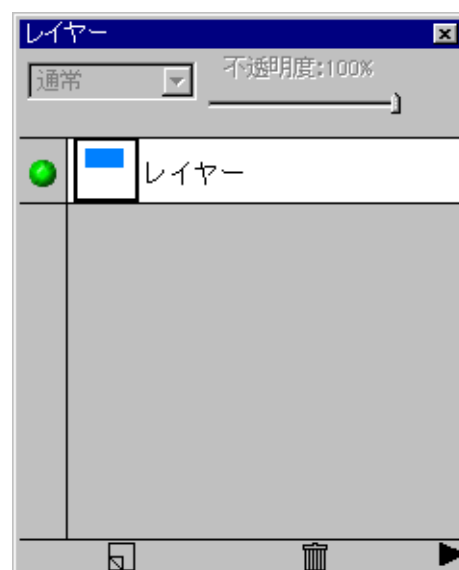
レイヤーにレイヤーマスクを作成することでレイヤー上の画像の一部を非表示にできます。

●レイヤーマスクの追加

- 1 レイヤーマスクを作成するレイヤーを選択する。
- 2 レイヤーオプションポップアップメニューから[レイヤーマスクの追加]を選択する。



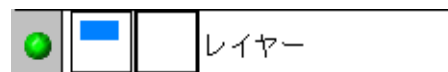
レイヤーのサムネイルの右側にレイヤーマスクのサムネイルが作成され選択された状態になります。



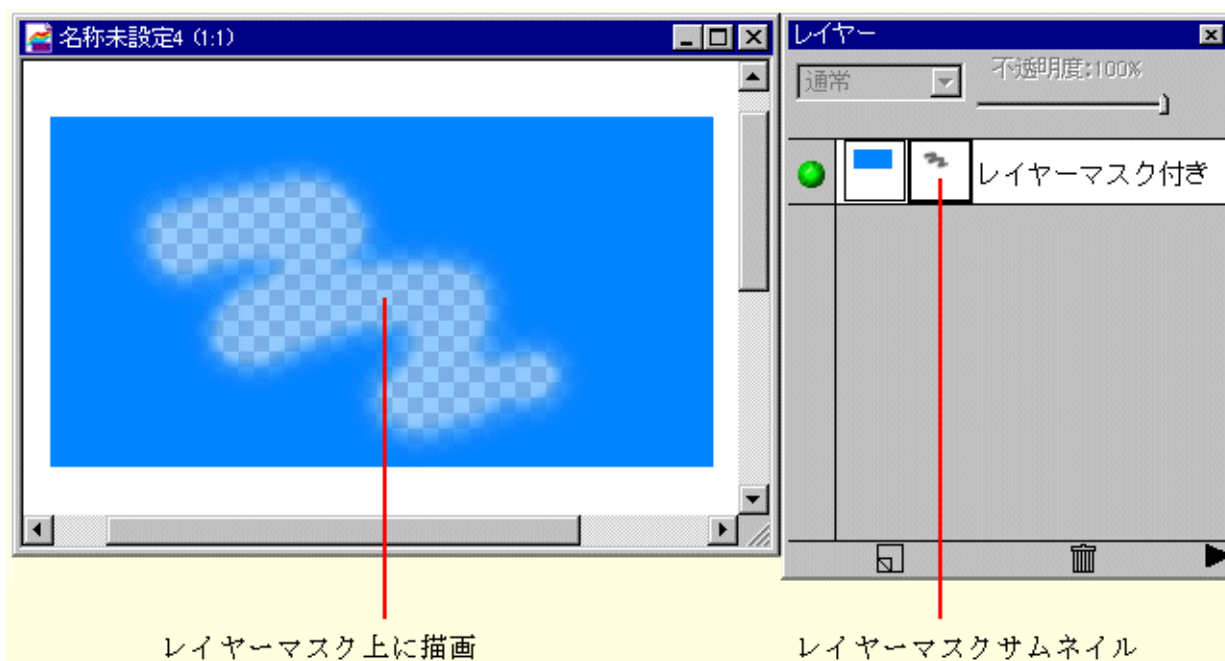
●レイヤーマスクの描画

1 レイヤーを選択し、レイヤーマスクのサムネイルをクリックする。

サムネイルの枠が太線表示になり選択されます。



2 画像編集画面で通常の画像編集と同様に描画する。



描画色を黒にして描画すると画像が完全にマスクされ、消去された状態になります。

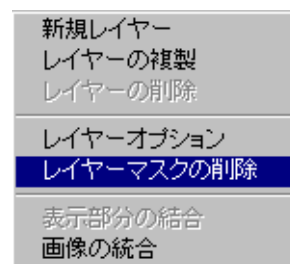
お知らせ

レイヤーマスクはレイヤー上の画像を実際に削除するのではなく隠す意味をもちます。

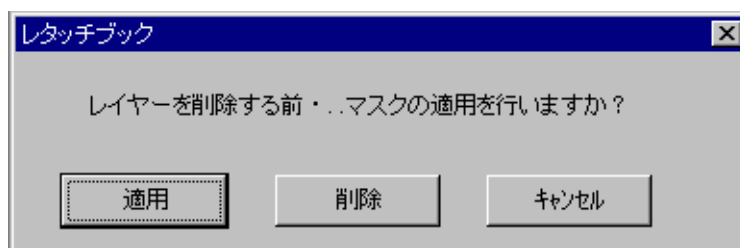
- 描画色を白にして描画するとマスクされません。すでに白以外で描画されているマスクに上書きするとマスクが消去された状態になり画像が表示されます。
- 他の色を使用することもできますが、その色で描画されるわけではなく明るさの値でマスクが描画されます。黒に近い濃度の色を使用すると強くマスクされます。白に近い明るさの色を使用するとその逆になります。
- 白から黒へのグラデーション塗りを使用するとレイヤー上の画像が滑らかに透明になる効果を得ることができます。

●レイヤーマスクの削除

- 1 レイヤーマスクの設定されているレイヤーを選択する。
- 2 レイヤーオプションポップアップメニューから[レイヤーマスクの削除]を選択する。



マスクを、[レイヤー削除]アイコンにドラッグすることでも削除できます。
マスクを適用して削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



3 [適用]をクリックする。

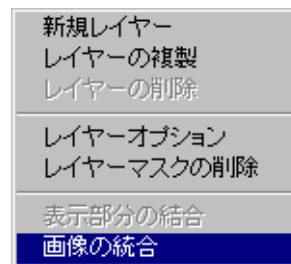
マスクをレイヤーの画像に適用して、レイヤーマスクが削除されます。
レイヤーの画像に変更が加えられます。
適用しない場合は[削除]をクリックします。

■画像を統合する

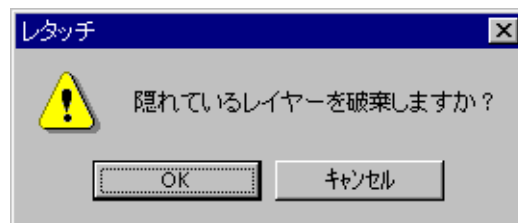
レイヤーリストのレイヤーをまとめて背景に統合します。

統合後は、背景画像のみとなります。この状態で画像をBMPやJ P E G形式で保存することができます。レイヤーを含む画像は、「レタッチ」オリジナルP C F形式でのみ保存できます。

1 レイヤーオプションポップアップメニューから[画像の統合]を選択する。



非表示のレイヤーがある場合は、そのレイヤーを削除するか確認する画面が表示されます。



2 [OK]をクリックする。

非表示のレイヤーが削除され画像が統合されます。

[キャンセル]をクリックすると画像の統合を中止します。

■レイヤーの編集

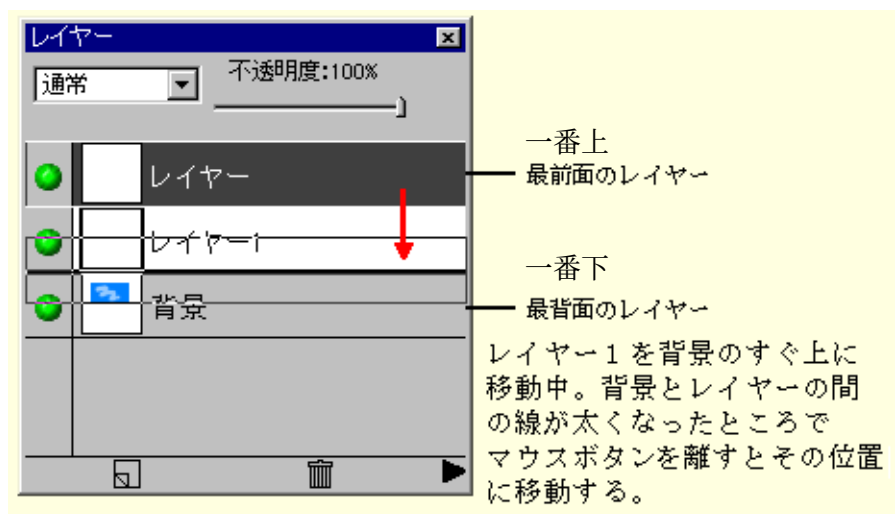
レイヤーの表示順を入れ換えたり、レイヤーごとの不透明度、描画モードを設定できます。

●レイヤーの並び替え

レイヤーの表示順序を入れ換えて画像の合成を編集できます。

「レイヤー」画面のレイヤーリストから表示順を変更したいレイヤーを選択し、移動したいリスト内の位置にドラッグします。

挿入可能な位置にドラッグすると、レイヤー間を区切る線が太線表示に変わります。区切る線が太線表示のときにドロップする（マウスボタンを離す）とその位置に挿入されます。

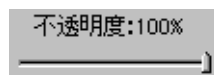


●不透明度の設定

「レイヤーオプション」画面の「不透明度」か、「レイヤー」画面の「不透明度」スライダを使うと、レイヤーの不透明度を変更できます。不透明度が1%のレイヤーでは画像が透明になり、100%のレイヤーは完全に不透明になります。不透明度はレイヤーごとに設定できます。

① 不透明度を設定するレイヤーを選択する。

② 不透明度スライダーを調整する。



レイヤーをダブルクリックするかレイヤーオプションポップアップメニューから[レイヤーオプション]を選択することで「レイヤーオプション」画面を表示させ、不透明度を設定することもできます。



■描画モードの設定

レイヤー上のピクセルと、下にあるレイヤーのピクセルの合成方法を設定できます。「レイヤー」画面上の「描画モード」ポップアップメニューか「レイヤーオプション」画面の描画モードポップアップメニューで設定します。



(参照：描画モード)

●描画モードの種類と効果

描画モードを設定するとレイヤー間での合成の状態が変化します。各モードでの合成例を下図の画像を使用して説明します。ここでは、上の画像を「レイヤー1」、下の画像を「レイヤー0」とします。合成するレイヤー上の画像の色情報を利用してそれぞれのモードで合成した結果を描画します。



●通常

初期設定では、このモードが選択されています。設定した画像のピクセルの色がそのまま反映されます。



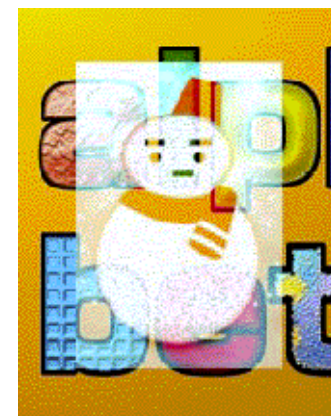
●乗算

レイヤー0の色とレイヤー1の色を掛け合わせます。合成結果は常にレイヤー0の各色より暗くなります。レイヤー1の黒の領域は黒になり、白の領域背景の色がそのまま残ります。黒や白以外の領域はレイヤー0とレイヤー1の色を掛け合わせた色となります。



●スクリーン

レイヤー0とレイヤー1のピクセルをそれぞれ反転した色を掛け合わせます。合成結果は色は常にレイヤー0の色より明るくなります。レイヤー1の黒の領域はレイヤー0の色がそのまま残り、白の領域は白く残ります。



●オーバーレイ

レイヤー0の色に応じて乗算とスクリーンを使い分けます。レイヤー1の明るい領域はレイヤー0の色を明るくし、暗い領域は暗くします。レイヤー0の色は置き換えられるのではなく、レイヤー1の色と合成されてレイヤー0の色の明るさや暗さが表現されます。



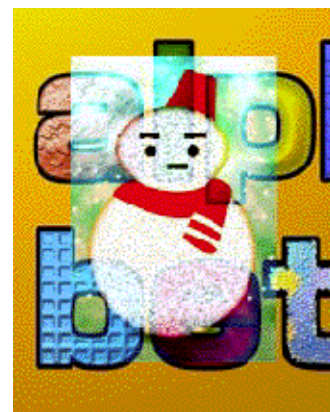
●ソフトライト

レイヤー1の色に応じて色を明るくしたり暗くしたりします。レイヤー1の色が50%のグレーよりも明るい場合、画像は明るくなります。50%のグレーよりも暗い場合は暗くなります。純粋な黒や白の領域もレイヤー0の色に影響されます。



●ハードライト

レイヤー1の色に応じて乗算とスクリーンを使い分けます。レイヤー1の色が50%のグレーよりも明るい場合は、スクリーンを適用したときのように明るくなるので、ハイライトの効果を得ることができます。50%のグレーよりも暗い場合は、乗算を適用したときのように暗くなるので、シャドウの効果を得ることができます。レイヤー1の純粋な黒や白の領域は、合成された色も純粋な黒や白で残ります。



●比較（暗）

レイヤー0とレイヤー1で暗い方を合成した色にします。レイヤー0と比較してレイヤー1の色が明るいピクセルが置き換えられて、暗いピクセルはそのまま残ります。



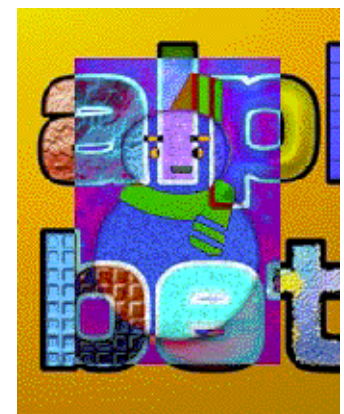
●比較（明）

レイヤー0の色とレイヤー1の色の明るい方を合成した色にします。レイヤー1と比較してレイヤー0の色が暗いピクセルが置き換えられ、明るいピクセルはそのまま残ります。



●差の絶対値

レイヤー0の色からレイヤー1の色を取り除くか、その逆を取り除きます。明るさの値の大きい方の色から小さい方のレイヤー0の色からレイヤー1の色を取り除くか、その逆を取り除きます。明るさの値の大きい方の色から小さい方の色を取り除きます。



■画像解像度の変更

画像の解像度を変更します。「画像変換 (C)」メニューの[画像解像度]を選択すると「画像解像度の変更」画面が表示されます。変更する画像の幅と高さ、解像度を設定します。

縦横の比率を維持して変更する場合は、[縦横比固定]をチェックします。

通常、画像解像度を大きくするとファイルのサイズも大きくなります。

解像度の変更に伴いファイルサイズを変更したくない場合は、[ファイルサイズ固定]をチェックすると、解像度を変更してもファイルサイズは変更されません。このとき、設定されたファイルサイズに合うように画像サイズが変更されます。

単位のポップアップメニューで入力する単位は「mm」、「inch」、「Pixel」から選択できます。



■鏡像

選択した範囲の画像を水平、垂直方向の鏡像に変換します。

●水平方向



●垂直方向

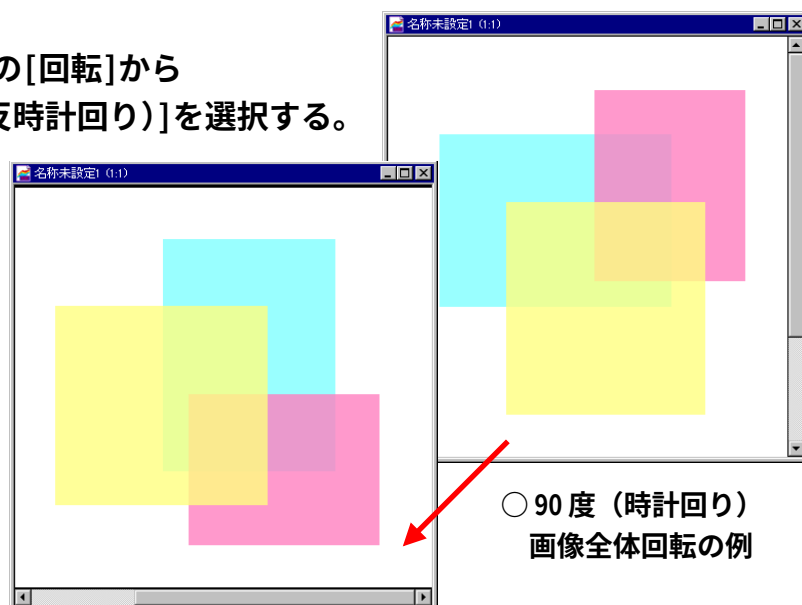


■画像の回転

画像全体を回転したり、選択範囲を回転することができます。
[画像変換 (C)]メニューより[回転]を選択します。

●画像全体の回転

- 1 画像編集画面に選択範囲が作成されていないことを確認する。
選択範囲が作成されている場合は、選択範囲以外の領域をクリックします。画像全体を選択範囲としている場合でも変換を実行すると画像編集画面内で回転してしまいます。
- 2 [画像変換 (C)]メニューの[回転]から
[90度回転 (時計回り、反時計回り)]を選択する。
画像全体が90度回転します。



●選択範囲の回転

- 1 画像編集画面で回転させる範囲を選択する。
- 2 [画像変換 (C)]メニューの[回転]から回転の種類を選択します。
選択した内容で画像が回転します。
選択範囲の画像を選択した方向と角度で回転します。

●角度入力による回転

選択範囲の画像を指定した角度で回転します。[画像変換 (C)]メニューの[回転]の「回転の角度」画面で回転する角度を設定します。マイナスの値は入力できません。

●マウス操作での自由回転

選択範囲の画像をマウスによる操作で回転させます。[回転]の[マウスで回転]を選択すると選択範囲に回転枠が設定されます。四隅にハンドルが表示されます。このハンドルをドラッグして回転する角度を決めます。回転する角度が決定したら回転枠内でクリックします。

■画像の変形

●選択範囲の変形

- 1 画像編集画面で変形する選択範囲を作成する。
- 2 [画像変換 (C)]メニューの[変形]から変形の種類を選択する。
変形枠が選択範囲に表示されます。
- 3 変形のコントロールポイントをドラッグして形を設定する。
- 4 形が決定したら変形枠内でクリックする。
変形処理が実行されます。大きな画像で変形に時間がかかる場合は進行状況のグラフが表示されます。

●拡大／縮小

選択範囲の画像を拡大縮小します。選択範囲の比率を保ったまま拡大縮小するには、コントロールポイントを[Shift]キーを押しながらドラッグします。ドラッグするコントロールポイントの対角線上のコントロールポイントは固定されます。

キーボードの[Shift]キーを押しながらドラッグすると比率を維持したまま拡大縮小できます。

●平行四辺形

選択範囲の画像を平行四辺形の形状で変形します。一つのコントロールポイントをドラッグすると平行なコントロールポイントが同時に移動します。

●遠近法

選択範囲の画像を平行四辺形の形状で変形します。一つのコントロールポイントをドラッグすると平行なコントロールポイントが同時に逆方向に移動します。

●自由変形

選択範囲の画像を自由な形に変形します。四隅のハンドルを単独で操作して形を決定できます。

○遠近：

短い辺の画像が遠くに見えるように変形します。

○比例：

各辺の比率に合わせて変形します。

「レタッチ」では画像加工用のフィルタが、それぞれの効果によって3種類に分類して用意されています。

○画質補正

明るさ・コントラスト
輝度彩度
彩度を下げる
グレースケール
色相彩度
暗く
自動補正
明るく
ぼかし(弱)/ぼかし(強)
シャープ1 / シャープ2

○画像加工

まわりをぼかす
ボタン化
エンボス1 / エンボス2
影をつける
ノイズ(明るさ中央値)
ノイズ(明るさ最大値)
ノイズ(明るさ最小値)

○三次元加工

三次元移動

ツールパレットの「選択」、「なげなわ」ツールで選択した画像領域に対して使用できます。

お知らせ

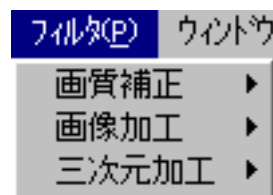
「DVスジォ2」をインストールすると、プログラムの収めてあるディレクトリに「Plugins」ディレクトリが作成されます。このディレクトリ内にフィルタが収められています。

1 画像編集画面内の画像を選択ツールで選択する。

2 [フィルタ(P)]メニューから使用したいフィルタを選択する。

選択すると直ちに実行されるフィルタと設定画面が表示されるフィルタがあります。

設定画面が表示された場合は、必要な設定を行ない[OK]をクリックすると実行されます。
処理結果を取り消したい場合は、[編集 (E)]メニューの[元に戻す (U)]を直後に選択します。



■画質補正

●明るさ・コントラスト

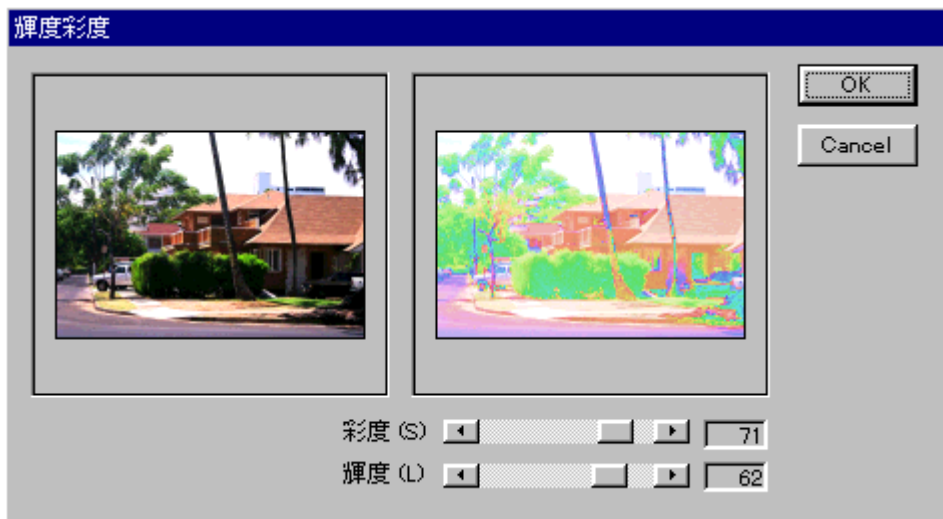
選択した画像の明るさとコントラストを変更します。

プレビュー表示を見ながら明るさとコントラストを変更します。



●輝度彩度

選択した画像の輝度と彩度を変更します。プレビュー表示を参照して、輝度、彩度を調節します。



●彩度を下げる

選択した画像の彩度を下げることができます。プレビュー表示を確認し、[OK] をクリックします。中止する場合は [Cancel] をクリックします。



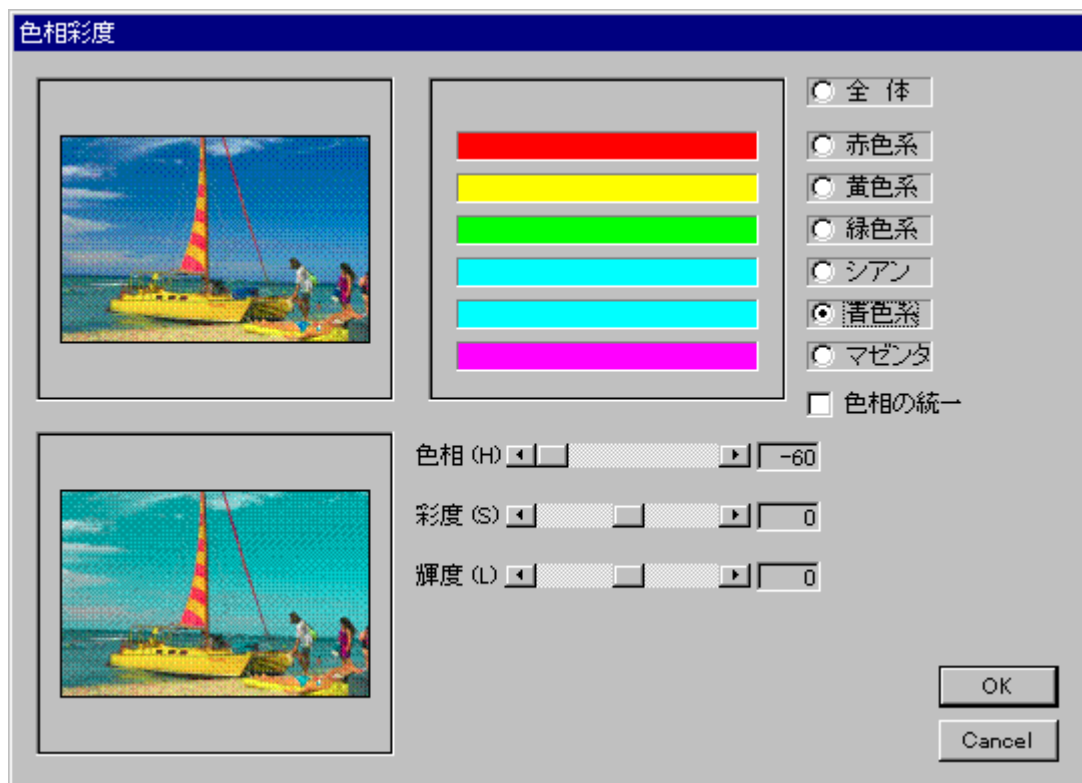
●グレースケール

選択した領域を白黒階調に変換することができます。



●色相彩度

選択した色の範囲の色相、彩度、輝度を変更します。ある色の範囲だけを別の色に変更することができます。変更したい色を右側の色系統リストから選択し、色相、彩度、輝度の各スクロールバーを操作して調整します。



●暗く

選択した領域を暗くすることができます。フィルタメニューの[暗く]をクリックすると、処理が実行されます。



●自動補正

選択した領域の画質を、自動的に補正します。フィルタメニューの[自動画質補正]を選択すると、処理が実行されます。



●明るく

選択した領域を明るくします。フィルタメニューから[明るく]を選択すると、処理が実行されます。



●ぼかし（弱）／ぼかし（強）

選択した範囲の画像をぼかします。
2種類のぼかし量から選択できます。



●シャープ1／シャープ2

選択した範囲の画像をシャープにするフィルタが2種類あります。
スクロールバーでシャープにする幅を調整します。数値が大きくなるほどコントラストが強くなります。



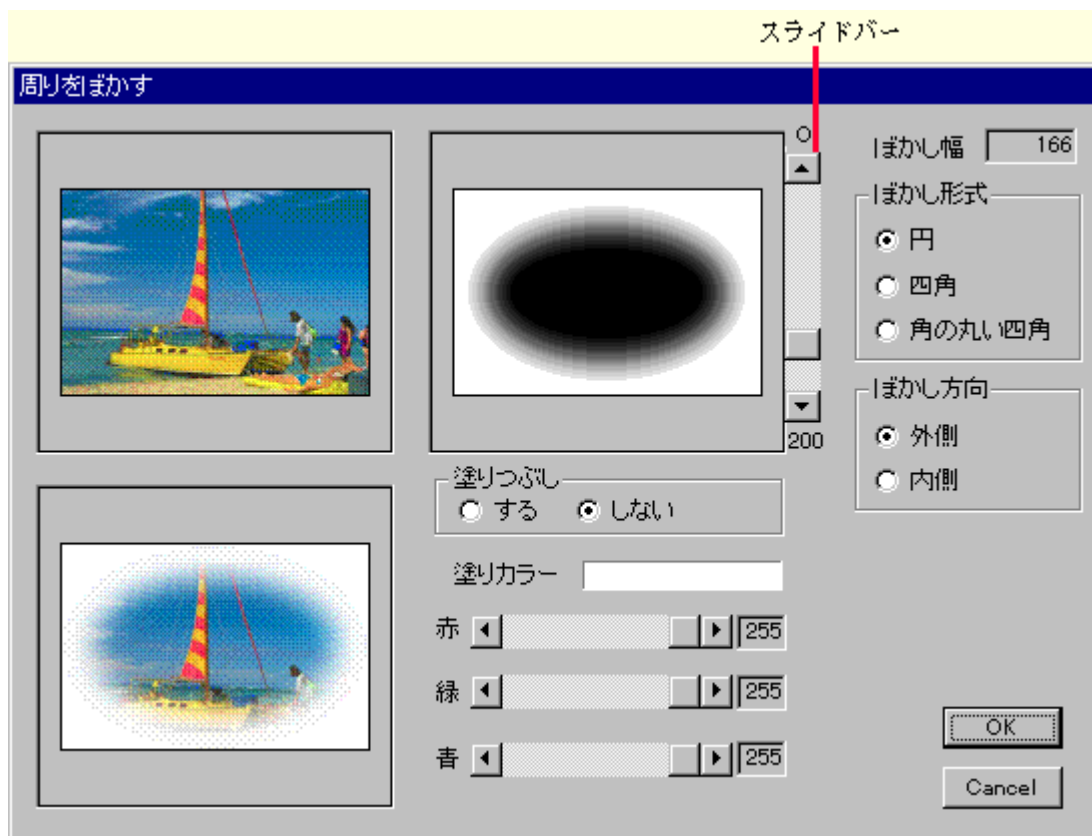
■画像加工

●まわりをぼかす

選択した範囲の画像の周りをぼかします。

ぼかし幅とぼかす形式、方向を設定し、スライドバーでぼかす強さを調整します。

ぼかした範囲を指定したカラーで塗りつぶすこともできます。



お知らせ

Windows95の「画面のプロパティ」－「ディスプレイの詳細」の「フォントサイズ」で「大きいフォント」を選択した場合、フィルタ画面の文字が欠けることがあります。

●ボタン化

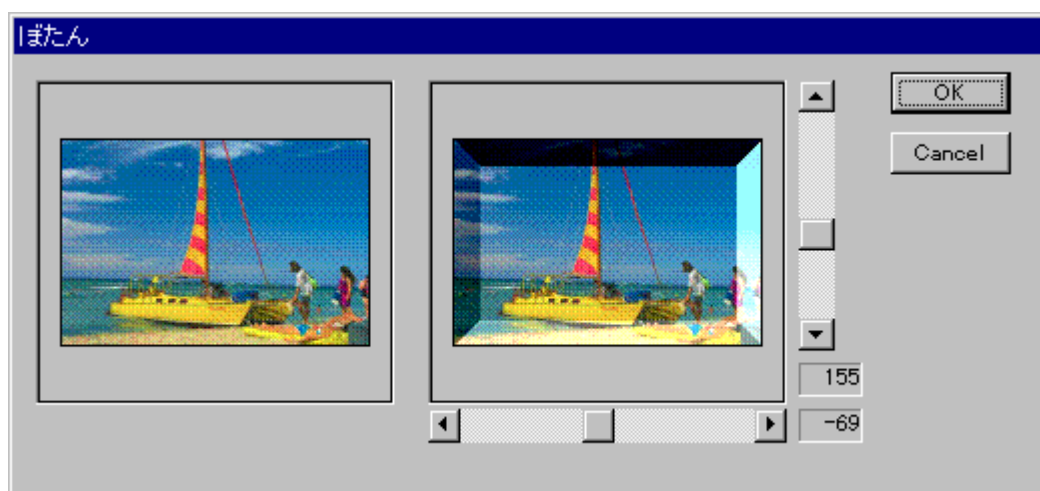
選択範囲の画像をボタン化します。

- 水平のスクロールバーでボタンの厚みを設定します。

スクロールバーを「+」方向、「-」方向に移動することでアップボタン、ダウンボタンのイメージを作成できます。

- 垂直のスクロールバーでボタンの輪郭の明度 / コントラストを調整します。

0から255の範囲で調整します。数値を大きくすることでボタンのハイライト、影の強さがそれぞれ増します。



●エンボス1 / エンボス2

エンボスイメージ(選択した範囲を浮き彫りにするような効果)を作成するフィルタが2種類あります。

- スクロールバーでエンボスの適用量を指定します。数値を大きくするほど適用量が増え凹凸のイメージが強まります。
- プレビュー画面右側の角度リストから光線の角度を選択します。



●影をつける

左の縦スクロールバーで上下方向の影の幅を調整します。

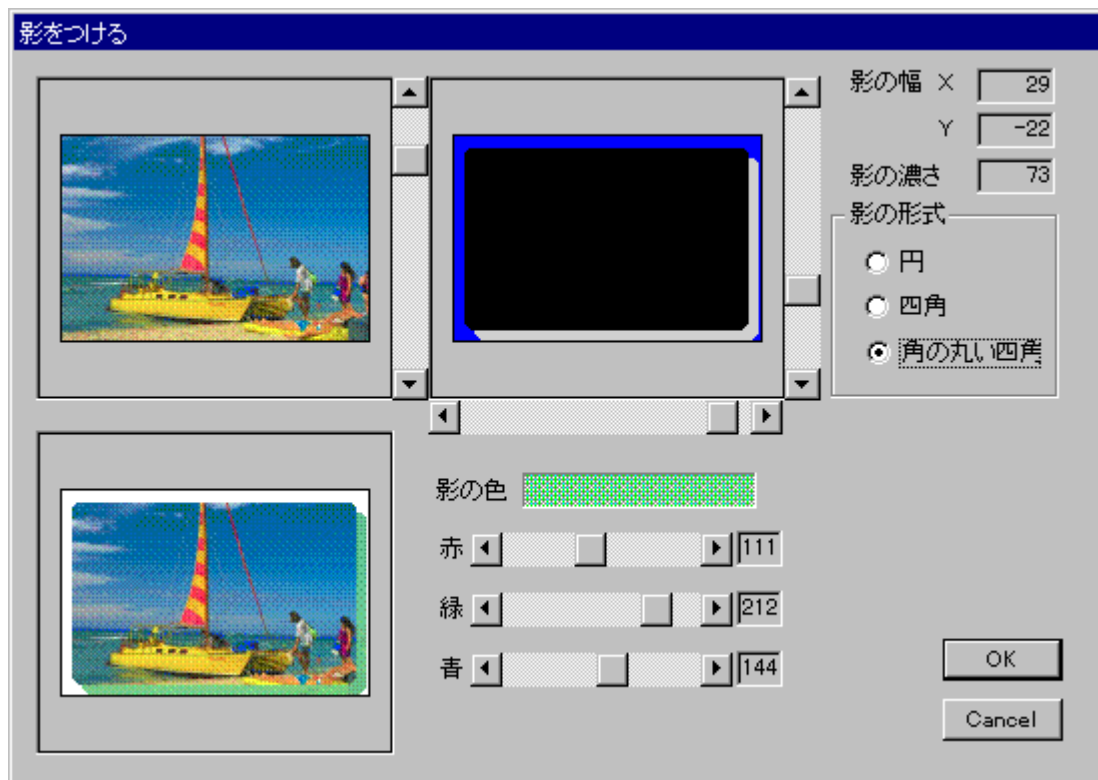
水平のスクロールバーで左右方向の影の幅を調整します。

右の縦スクロールバーで影の濃さを調整します。

影の形式を選択します。

影の色をR,G,Bのスクロールバーを操作して設定します。

処理を実行すると選択範囲の影が作成されます。



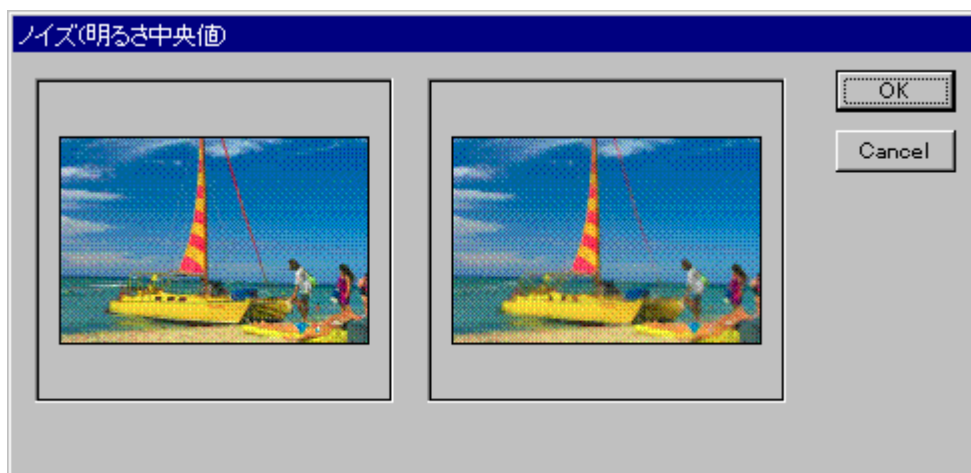
お知らせ

Windows95の「画面のプロパティ」－「ディスプレイの詳細」の「フォントサイズ」で「大きいフォント」を選択した場合、フィルタ画面の文字が欠けることがあります。

●ノイズ（明るさ中央値／最大値／最小値）

選択した範囲の画像にノイズをかけます。

明るさの値で三種類（中央値・最大値・最小値）から選択します。



■三次元加工

●三次元移動

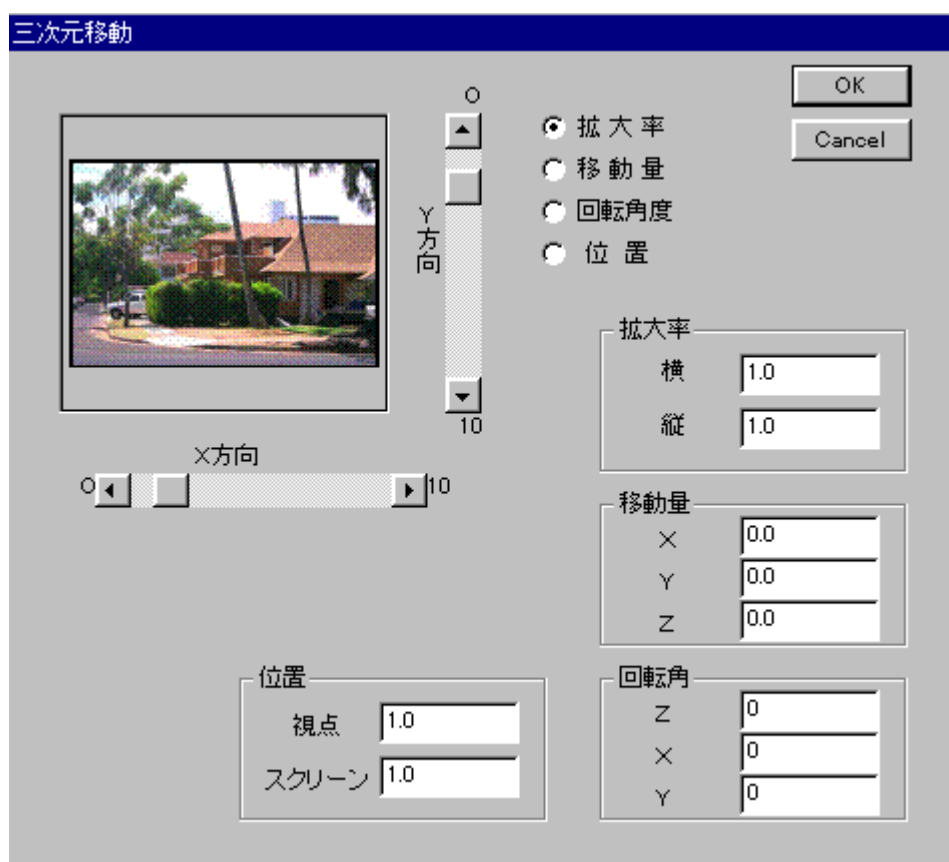
選択した範囲の画像を平坦な板に貼り込み、いろいろな視点から見たような画像の変形が行えます。

拡大率、移動量、回転角度、位置それぞれの要素についてスクロールバーで調整します。

設定した値はそれぞれの設定値に数値で表示されます。

数値を直接に入力して設定することもできます。数値入力するときは、以前に設定されている数字を全て反転表示させて消去してから、新しく数値を入力しなおしてください。

プレビューウィンドウで変化を確認しながら調整してください。



「DVスタジオ2」の「[アルバム](#)」にドラッグアンドドロップで画像編集画面上の画像を登録したり、アルバムに登録している画像を読み込んで操作できます。

■レイヤーの登録

「[レタッチ](#)」のレイヤーを含む画像ファイルは独自形式となりますので他のアプリケーションでは直接開くことができません。他のアプリケーションで開くには、レイヤーを統合して、BMPなどの一般的な形式で保存する必要があります。

「[アルバム](#)」では、「レタッチ」の独自形式（拡張子が .pcf）も登録することができます。画像全体ではなく一つのレイヤーだけでも透明度を維持したまま登録できます。

- 1 「レタッチ」でレイヤーを含む画像を開く。
- 2 [ウインドウ(W)]メニューから[アルバムを並べる (B)]を選択する。
「アルバム」が起動します。画面の下半分に画面が表示されます。
F 8 キーを押すとサムネイル画面が一行の表示になりツールバーが非表示となります。この状態で「レタッチ」の画像ブラウザとして利用できます。
- 3 「アルバム」の画像データベース書類を開く。
サムネイル画面が表示されます。
- 4 「アルバム」に登録するレイヤーを選択する。
- 5 範囲を選択する。
レイヤー全体を登録する場合は、[編集 (E)]メニューから[全画面の選択 (L)]を選択します。
- 6 [Alt] キーを押しながらマウスで画像編集画面から「アルバム」のサムネイル画面にドラッグしドロップする。
長方形選択ツール、なげなわツールを選択しているときは、現在のレイヤーが対象になります。手のひらツールを選択している場合は、すべてのレイヤーが対象になります。

「アルバム」に登録されレイヤーのサムネイルが表示されます。

レイヤー PCF 形式で自動的に保存されます。インストールした「DV Studio2」フォルダ内の [Pcfobj] フォルダに保存されます。「アルバム」の画像を送る機能を利用して、別の場所に画像を移動して管理することもできます。

お知らせ

画像編集画面から「アルバム」にドラッグして登録する場合に、エラーでアルバムが終了する場合があります。この場合は、画像編集画面からデスクトップに一度ドラッグしてから作業してください。デスクトップに一度でもドロップの操作を行うと、「アルバム」へのドロップも正常に行えます。

■ 「アルバム」の登録画像を編集する

[「アルバム」に登録してある画像](#)を、サムネイル画面から「レタッチ」の画像編集画面にドロップして開くことができます。

また、サムネイル画面の画像をダブルクリックするか、画像選択後にコンテキストメニューから「開く」を選択しても「レタッチ」の画像編集画面に開くことができます。

画像編集画面にドロップするとフロート状態で貼り付けられます。フロートレイヤーをダブルクリックして新規レイヤーとして作成して編集できます。

お知らせ

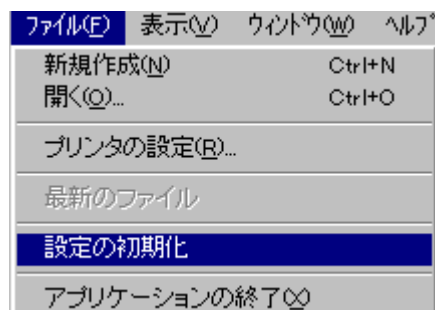
- DVF形式の画像は「アルバム」以外では扱えないファイル形式です。ドラッグ&ドロップで「レタッチ」に開くことはできません。
サムネイル画面の画像をダブルクリックするか、画像選択後にコンテキストメニューから「編集」を選択して取り込むときは、BMP形式のファイルが自動的に作成されて、「レタッチ」にBMP形式で開かれています。このとき、同時に「アルバム」内には同じ画像がBMP形式で追加登録されています。
- ドラッグ&ドロップは画面の中心をつかんでいるため、ドロップする位置(はなす位置)によって画像が欠けることがあります。位置を確定する前に、ドロップした画像をドラッグしながら用紙に対して調整してください。その後、画像をクリックすると位置が確定されます。

設定の初期化

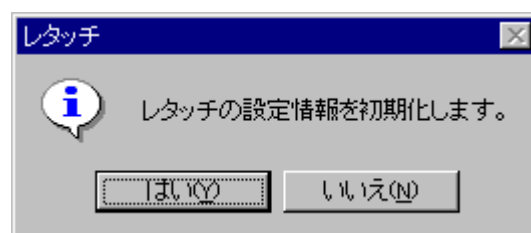
「レタッチ」の様々な設定をインストール直後の状態に戻すことができます。

1 「ファイル(F)」メニューより「設定の初期化」を選択する。

「初期化の確認」画面が表示されます。



2 初期化する場合は「はい (Y)」を選択し、初期化しない場合は「いいえ (N)」を選択する。



マスクサンプルの使用

第Ⅲ章 レタッチ

マスクサンプルはレタッチの独自形式で保存されています。

セットアップでサンプルも併せてインストールした場合は、ハードディスク上にインストールされた、「DV STUDIO2」フォルダ内の「アルバム」フォルダ内に、「画像サンプル」フォルダが作成されます。その中の「Retouch」のサンプルフォルダに、マスクサンプルが登録されています。

●レイヤーマスクとは

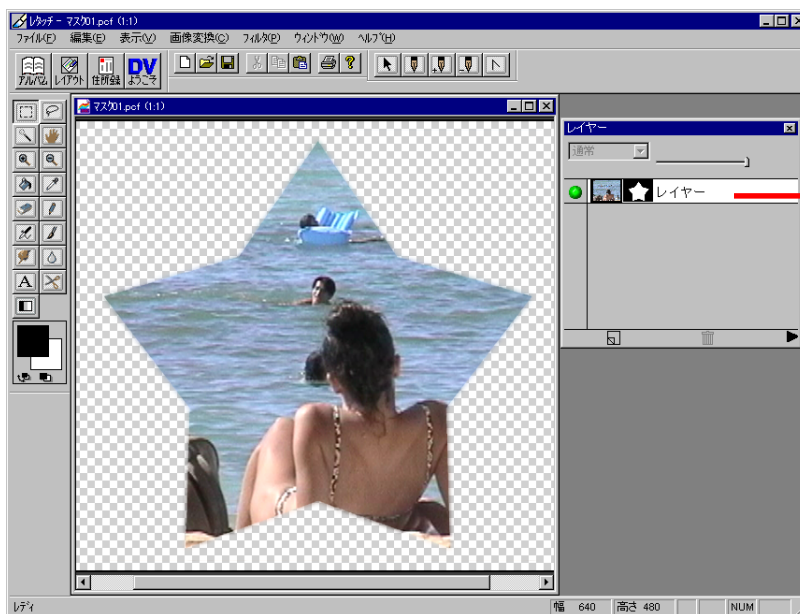
レイヤーにレイヤーマスクという、レイヤー上の画像にマスクをつけて非表示の領域を作成できる機能を使用しています。

ハート型などのレイヤーマスクが用意されていますので、レイヤーマスクの設定されているレイヤーに画像を貼り付けると、その形に切り抜かれた状態になります。

デジカムから取り込んだ静止画を貼り付けるとちょうどいいようにサンプルのサイズは640×480ピクセルで作成しています。

●サンプルに別の画像を貼り込む

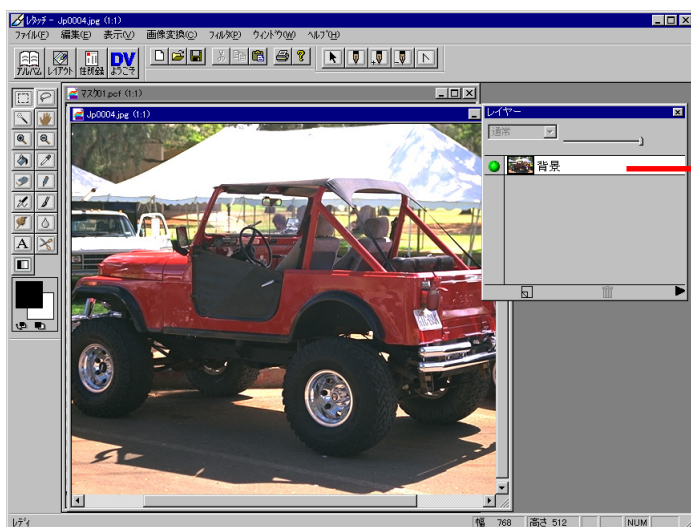
- 1 「レタッチ」でマスクサンプル（pcf 形式）を開く。
- 2 表示メニューから「レイヤー」を選択して、「レタッチ」画面にレイヤーパレットを表示させる。



○レイヤーマスクが設定されているレイヤー
レイヤーマスクの黒い部分でレイヤー上の画像を非表示にしている。

マスクサンプルの使用

③ 貼り付けたい他の画像（デジカムから取り込んだ静止画など）を開く。



貼り付けたい画像を開いた状態

[編集]メニューの[全画面の選択]で画像を全て選択し、編集メニューから[コピー]を選択する。

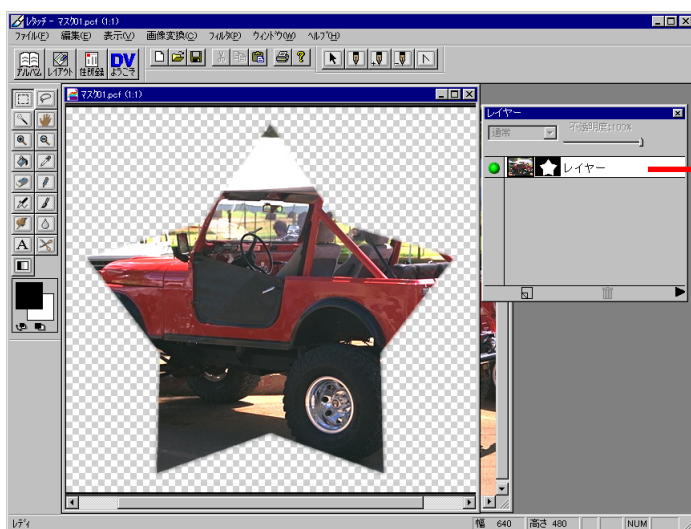
④ [編集]メニューの[全画面の選択]を選択して全ての領域を選択する。

⑤ [編集]メニューから「コピー」を選択する。

⑥ 先に開いてあるマスクサンプルを表示させる。

⑦ [編集]メニューから「貼り付け」を選択する。

コピーした画像がレイヤーパレット上に「フロート選択範囲」として貼り付けられます。



コピーした画像を貼り付けた状態

このレイヤー上をクリックするとフロート選択範囲が解除される。

このときに、選択範囲内をドラッグして位置の調整やサイズの変更（[画像変換 (C)]メニューの[変形]）をすることが出来ます。

⑧ レイヤーマスクを設定してあるレイヤーをクリックする。

フロート選択範囲が解除され、レイヤーマスクを設定してあるレイヤー上にコピーした画像が貼り付けられます。

第IV章 レイアウト

レイアウトデザインは、レイヤー機能を装備した書類レイアウト作成機能です。

「アルバム」の画像を配置したり、文字の入力や図形の描画ができます。

配置したオブジェクトの移動やサイズの変更、オブジェクトの重なり具合を変更したりすることが簡単にできます。

画像も一つのオブジェクトとして配置されますので、ペイントソフトのように一度貼りこんでしまうと操作できなくなるようなことはありません。

高解像度の画像を配置して印刷時に元画像の持つ解像度で出力することができますので、高品位な出力が気軽に実現できます。

住所録のフィールドを配置してデータベースのカードブラウザのように扱うこともできます。

データベースとリンクしてデータを表示できますので、はがきの宛名印刷などで便利です。

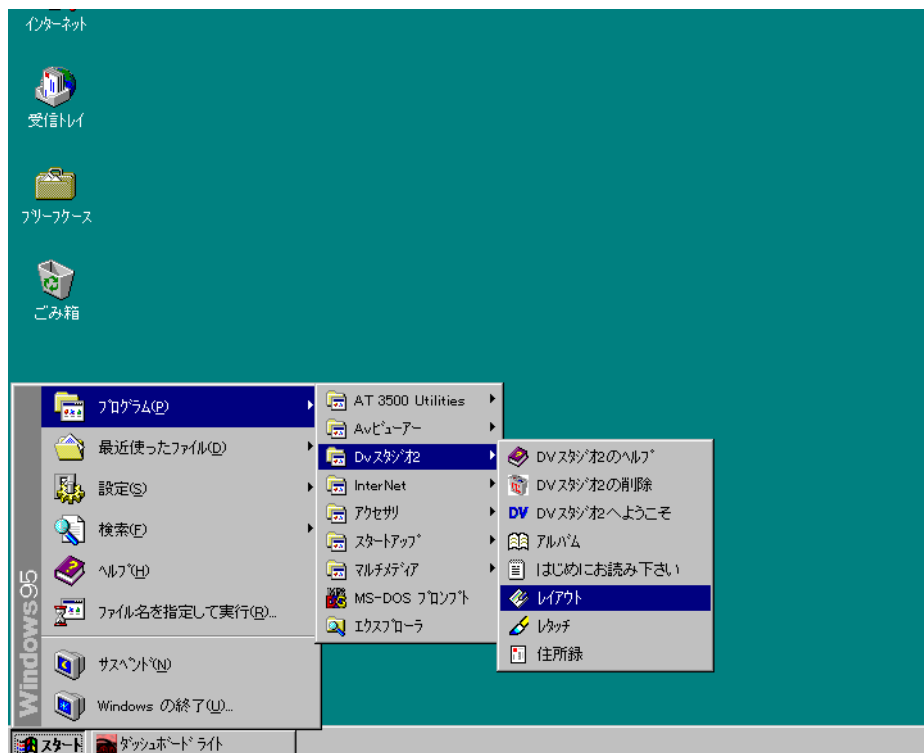
4.1 レイアウトの起動	IV -2
4.2 編集領域の設定	IV -3
4.3 レイアウトの終了	IV -5
4.4 ファイル操作	IV -6
4.5 テキストの配置	IV -12
4.6 画像の配置	IV -16
4.7 図形の描画	IV -17
4.8 オブジェクトの編集・操作	IV -18
4.9 シートの操作	IV -25
4.10 レイアウトの印刷	IV -26
4.11 ツールバー	IV -28
4.12 設定の初期化	IV -31

レイアウトの起動

次の3種類の起動方法があります。

起動操作後、「レイアウト」が起動され、編集用の画面が表示されます。

- A** [スタート] メニューから [プログラム(P)] — [DVスタジオ2] — [レイアウト] を選択する。



- C** 「DVスタジオ2へようこそ」を起動後、「ようこそ」画面で [レイアウト] をクリックする。



- D** 「アルバム」「レタッチ」「住所録」のリモコンバーで [レイアウト] をクリックする。



編集領域の設定

「レイアウト」が起動されると、最初に「編集領域設定」画面が表示されます。

画面の各項目を設定し、[OK] をクリックすると、「レイアウト」画面が表示され、名称未設定のレイアウトのドキュメントファイルが表示されます。



■編集領域

これから作成しようとするドキュメントファイルの大きさを設定します。一般的な用紙サイズを選択するか、幅、高さを自由に入力することができます。

○ **【用紙サイズ】で[サイズの指定]を選択した場合：**

幅と高さをエディットボックスに入力します。

○ **【用紙サイズ】で一般的な用紙サイズを選択した場合：**

幅と高さの数値を変更すると「[サイズの指定]」の選択に変更されます。

編集領域の初期設定は、直前に編集していたサイズです。

お知らせ

編集領域で大きなサイズを指定すると、データの編集のためにメモリやハードディスクを大量に使用します。大きなサイズを指定する時は、ハードディスクを十分に空けてから編集を始めてください。

■用紙の方向

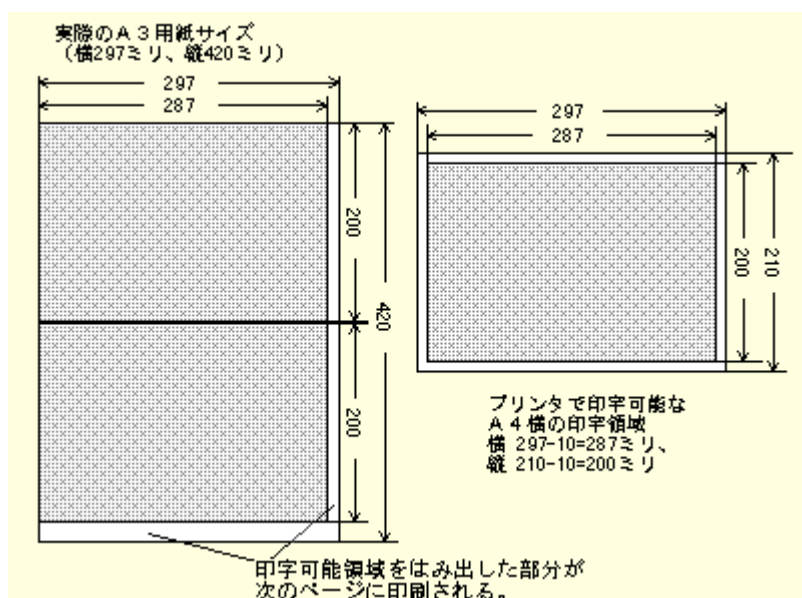
編集するドキュメントファイルの用紙方向を設定します。

■印刷時のタイル指定

「レイアウト」では、プリンタでは印刷できない大きな編集領域を、プリンタで印刷可能な用紙サイズ何枚かに分割して印刷することができます。この機能を使用するときは、[分割ページ]を選択します。

ただし、一般的にプリンタは、用紙サイズ全域を印字できずに、用紙の外側から3ミリから10ミリ印字できないエリアがあります。（この値はご使用になるプリンタによって異なります。）したがって、[分割ページ]（タイル印刷）で大きな編集領域を指定する時は、この印字不可能領域の部分を編集領域から差し引いて設定する必要があります。

下の例では、編集領域がA3の場合に、タイル印刷時にA4横の印字領域で、分割される様子を示しています。



この図のように、A3領域をA4印字範囲で分割すると、右側と下側にA4印字領域2枚では入りきらない部分があるため、結果として6枚のA4用紙に分割されます。

上の例のプリンタではA4用紙2枚で印字できる編集領域は、A3実領域から印字不可能領域を差し引いた、横287ミリ、縦400ミリで設定すれば良いことになります。

タイル印刷を指定した時の現在プリンタに設定されている用紙でのタイル割の様子は、[表示(V)]メニューの[印刷領域の表示(P)]をチェックするとレイアウト画面上で見ることができます。

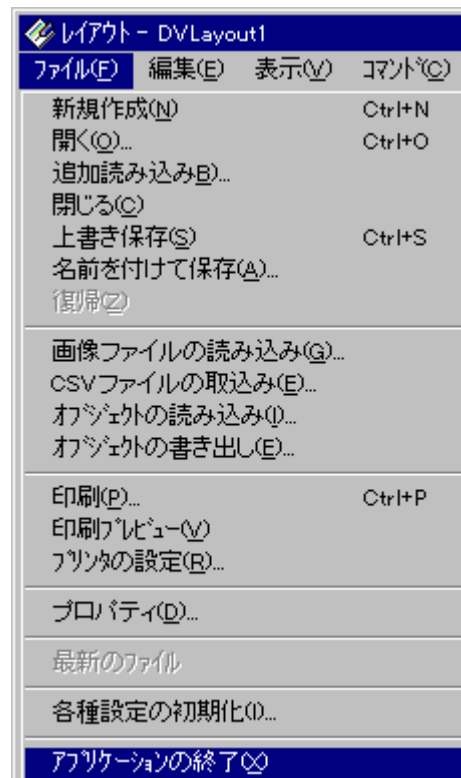
「レイアウト」では、一部のプリンタでのみ使用可能なバナー印刷（長尺印刷）用紙もタイル印刷の一部としてサポートしています。バナー印刷の用紙は、A4の用紙がミシン目で区切られた連続用紙で、2枚から6枚までの連続用紙サイズを設定できます。ただし、この用紙の場合は、最後のページの長手方向の編集領域がプリンタの仕様にしたがって40ミリほど短くなっています。バナー用紙を選択した場合は、必ず印刷時のタイル指定を[分割ページ]に設定します。

お知らせ

[単一ページ]を指定した場合の印字可能領域は、用紙の外側からプリンタ固有の値が差し引かれた領域となり、プリンタの用紙サイズに入りきらない編集領域は切り捨てられます。

レイアウトの終了

[ファイル(F)] メニューから[アプリケーションの終了 (X)]を選択します。



このとき「レイアウト」画面に開かれているドキュメントファイルが、一度も保存されていない場合や変更後、保存されていない場合、注意をうながすメッセージ画面が表示されます。



○保存しない場合は：

[いいえ (N)]をクリックします。

○閉じるのを中止する場合は：

[キャンセル]をクリックします。

○保存する場合は：

[はい (Y)]をクリックすると「名前を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名、保存する場所を指定して「保存」画面の [保存 (S)] をクリックします。保存後に「レイアウト」画面が閉じられます。

■新規作成

新規の「レイアウト」のファイル（ドキュメントファイル）を作成します。

- 1 [ファイル(F)] メニューから[新規作成 (N)]を選択する。
または、標準ツールバーで[新規ファイル]をクリックする。
「編集領域設定」画面が表示されます。



- 2 各項目を設定し、[OK]をクリックする
「レイアウト」のドキュメントファイルが開かれ、名称未設定シートが画面上に表示されます。

お知らせ

- 新しく「レイアウト」ファイルを開き、レイアウトを作成するとき：**■新規作成**
- 既存の「レイアウト」ファイルを開き、レイアウトを編集するとき：**■既存のファイルを開く**

■ファイルのプロパティ

「レイアウト」のドキュメントファイルに関するタイトルやサイズなどの情報が表示されます。
ドキュメントファイルのタイトルを変更したりコメントをつけることができます。

1 [ファイル(F)] メニューから [プロパティ (D)] を選択する。

「ドキュメントのプロパティ」画面が表示されます。



2 [ドキュメント情報] タブをクリックし、タイトルとコメントを編集する。

入力したタイトルやコメントは、ドキュメントファイルの読み込み時に表示されます。



■既存のファイルを開く

- 1 [ファイル(F)] メニューから[開く (O)]を選択する。
または、標準ツールバーで[開く]をクリックする。
「ファイルを開く」画面が表示されます。
- 2 開きたいファイルを指定して、[開く (O)]をクリックする。
選択したファイルがレイアウト画面上に表示されます。

お知らせ

- ファイルを開けずに内容を確認したい場合は、[プレビュー表示]のチェックボックスをチェックしておけば、ファイルを開けずに縮小画面を表示させることができます。
- 「レイアウト」がドキュメントファイルとして扱うことができるのは、拡張子に(.lay)を持つ「レイアウト」で作成されたファイルです。

■ファイルの保存

作成したドキュメントファイルを保存するには、以下の2つの方法があります。

●上書きして保存する

- 1 [ファイル(F)] メニューから[上書き保存 (S)]を選択する。
または、標準ツールバーで[保存]をクリックする。
現在編集中的のドキュメントファイルの変更が保存されます。
新規作成ファイルとして作成後、一度も保存処理を行っていないドキュメントファイルの場合は、「名前を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名、保存する場所、などを設定して保存します。

●名前を付けて保存する

- 1 [ファイル(F)] メニューから[名前をつけて保存 (A)]を選択する。
「名前をつけて保存」画面が表示されます。
- 2 ファイル名、保存する場所、ファイルの種類を設定して[保存 (S)]をクリックする。
ドキュメントファイルが別の名前で保存されます。

お知らせ

こまめに保存を行いましょう。停電や、システムエラーなどで、せっかく入力したデータが無駄になる場合があります。

■追加読み込み

現在開いているレイアウトドキュメントに、既にあるレイアウトドキュメントを追加することができます。

1 [ファイル(F)] メニューから[追加読み込み (B)]を選択する。

「ファイルを開く」画面が表示され、拡張子に(.lay)のついた「レイアウト」のドキュメントファイルを選べます。

2 選択して、[開く (O)]をクリックする。

選択されたレイアウトドキュメントファイルは、現在のドキュメントに自動的に追加された新しいシート上に展開されます。

ファイルを開けずに内容を確認したい場合は、[プレビュー表示]のチェックボックスをチェックしておけば、ファイルを開けずに縮小画像を表示させることができます。

■画像ファイルの読み込み

「レイアウト」では、JPEG、TIFF、BMPといった一般的な画像ファイルのほか、「レタッチ」の画像ファイル(.pcf)もレイアウト画面上に配置できます。

1 [ファイル(F)] メニューから[画像ファイルの読み込み (G)]を選択する。

または、標準ツールバーで[画像ファイルの読み込み]をクリックする。

「ファイルを開く」画面が表示されます。

2 配置したい画像を選択して、[開く (O)] をクリックする。

レイアウト画面左上に、選択した画像が配置されます。

- 最初に配置される画像の大きさは、現在設定されているプリンタの解像度で展開されます。サイズを変更するには、画像オブジェクトを選択してから、サイズ変更ツールで自由なサイズに変更できます。

ファイルを開けずに内容を確認したい場合は、[プレビュー表示]のチェックボックスをチェックしておけば、ファイルを開けずに縮小画像を表示させることができます。

お知らせ

DVF形式の画像は「アルバム」以外では扱えないファイル形式です。ドラッグ&ドロップで「レイアウト」に開くことはできません。

「アルバム」のサムネイル画像を選択後にコンテキストメニューから「画像フォーマットの変換」でBMP形式に変換し、変換後のBMP形式の画像を「レイアウト」にドラッグ&ドロップしてください。

■CSVファイルの読み込み

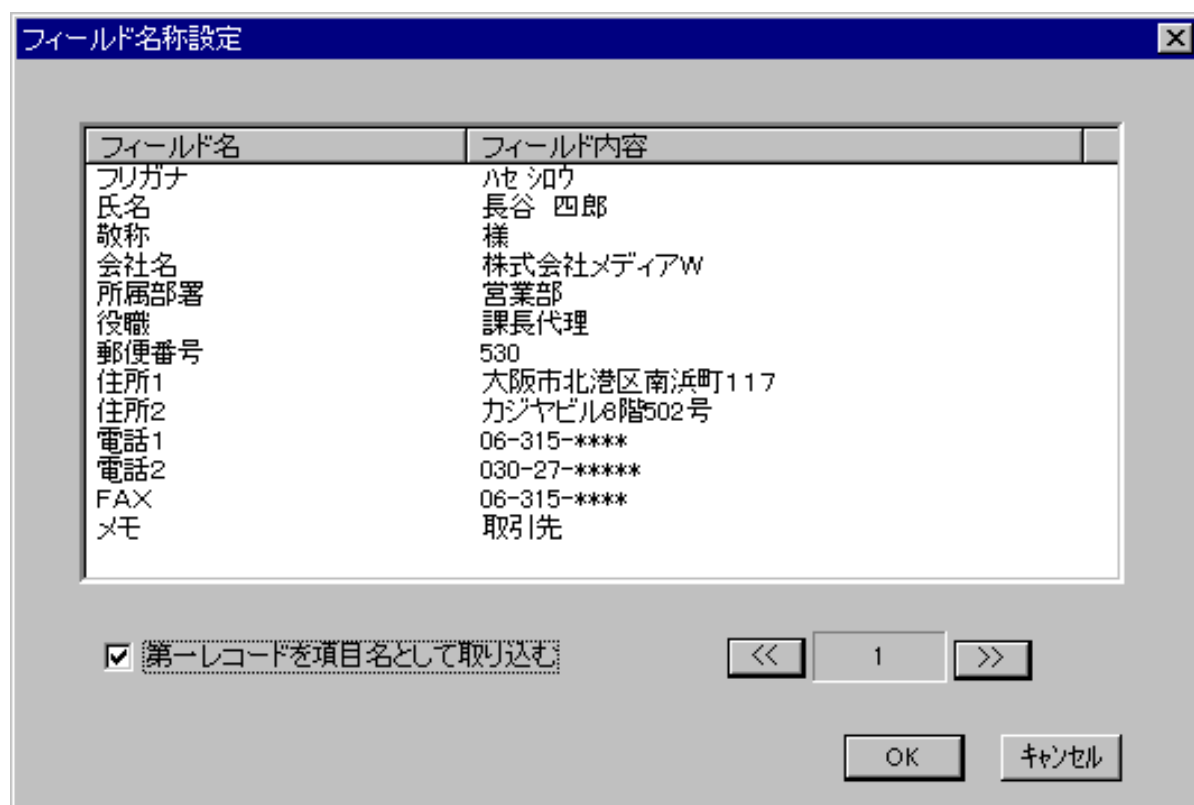
「レイアウト」では、データベースと連携したドキュメントの作成ができます。データベースのデータを「レイアウト」で使用するためには、データを半角の「,」でフィールド毎に区切ったCSV形式とよばれる書式（拡張子に（.csv）がついているファイル）に変換する必要があります。

- 1 [ファイル(F)] メニューから [CSVファイルの読み込み (E)] を選択する。
または標準ツールバーで [CSVファイル読み込み] をクリックする。

CSV形式のデータファイルを読み込むことができます。

CSVファイル形式で、第一レコード目に各々のフィールド名が記述されていれば、フィールドの内容に対するフィールド名称を確認できます。

- 2 このフィールド名でよければ[OK]をクリックする。

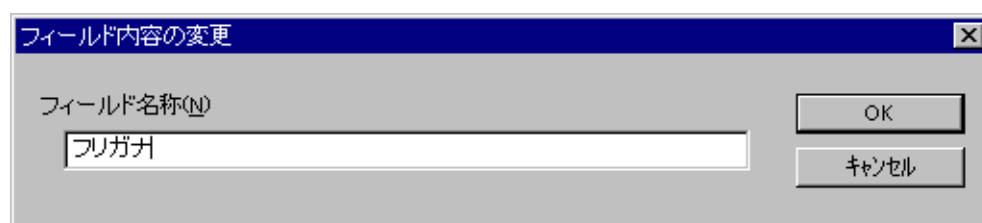


CSV形式のデータでも第一レコード目にフィールド名が記述されていない場合は、[第一レコードを項目名として取り込む]チェックボックスをオフにします。

この場合のフィールド名は、次の図のようにフィールド未設定の連番の名称で設定されます。



フィールド名を変更したい場合は、フィールド名の文字列を選択してからダブルクリックすると、以下の画面が表示されて、フィールド名を自由に設定することができます。



このようにして読み込んだCSVファイルのデータは、フィールド選択ボタン（[<<]、[>>]）をクリックしてフィールド選択パレットから希望するフィールド名を選択することで、レイアウト画面左上にオブジェクトとして取り込まれ、以降はテキストオブジェクトと同等に扱われます。

レイアウト画面上で、他のレコードの内容を確認するには、フィールド選択ボタンの上の [<<]、[>>] ボタンでレコード番号を変更します。

レコード番号0は、フィールド名の定義に割り当てられているので、実際のデータはレコード番号1からになります。

テキストの配置

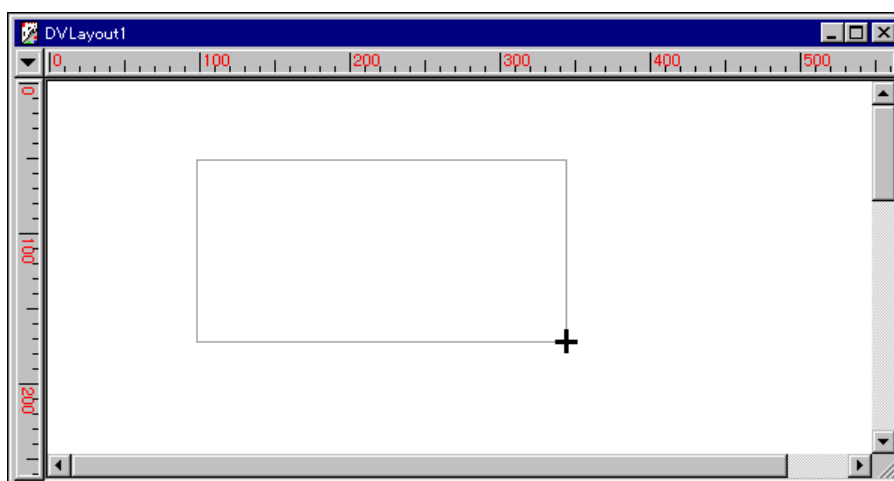
テキストの配置では、「テキストの編集」画面でテキストを入力してから「レイアウト」画面内に配置します。

- 1 [テキスト]ツールをクリックする。



- 2 テキストオブジェクトを配置する「レイアウト」画面上の位置をクリックするか、ドラッグする。

「テキストの編集」画面が表示されます。



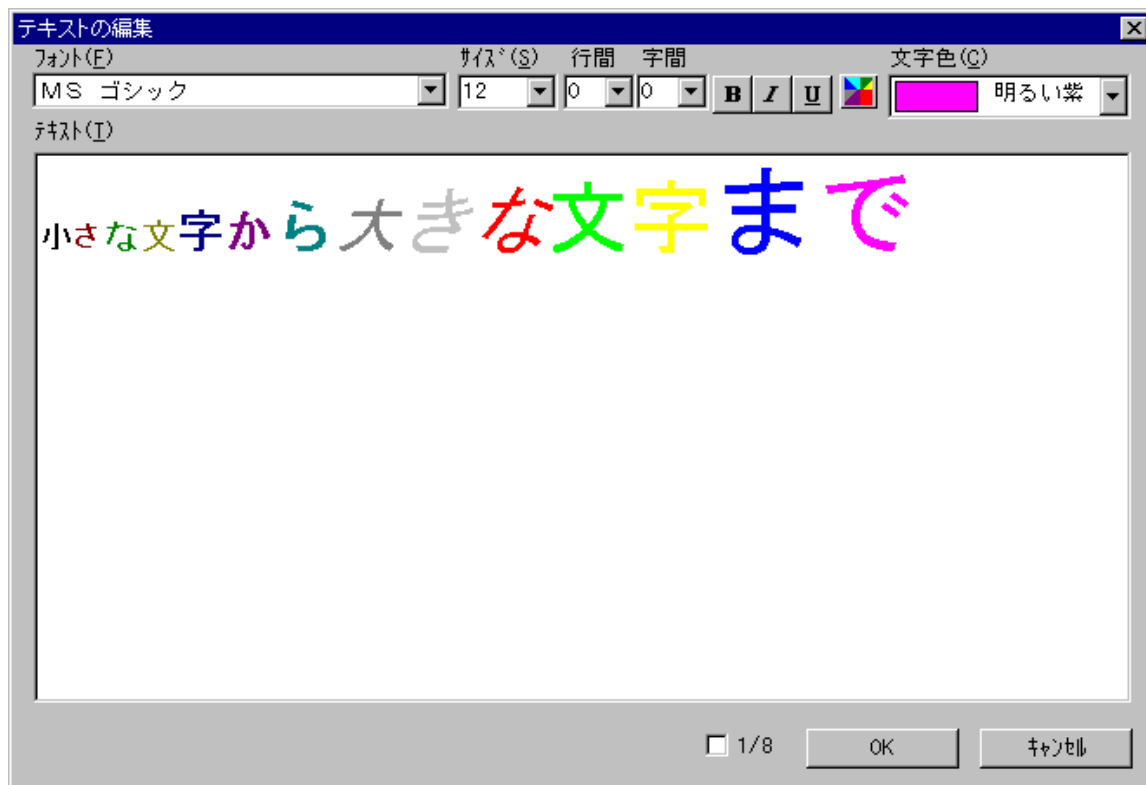
- 3 文字列を「テキストの編集」画面上で入力する。
(参照：テキストの入力編集)

- 4 フォントなどを設定して、[OK] をクリックする。
テキストが「レイアウト」画面上に配置されます。



■テキストの入力編集

「テキストの編集」画面上では、入力する文字ごとにフォントや色やスタイルを設定できます。



●フォント

[フォント(F)] のポップアップメニューから使用するフォントを選択します。



●縦書きの指定

テキストを縦書きで配置するには、[テキストの編集]画面を表示する前に、[書式 (O)] メニューの[文字方向 (D)]で[縦書き (V)]を指定します。

@マークの付いた縦書き用のフォントを指定してください。

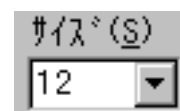
縦書きが設定されていると、入力画面でのカーソルの初期位置は右上になります。

お知らせ

「レイアウト」画面上に配置したテキストを縦書きにする場合は、そのテキストを選択してから、同じように [書式 (O)] メニューから [文字方向 (D)] で [縦書き (V)] を設定します。

●サイズ

フォントの大きさを設定します。[サイズ(S)] のポップアップメニューのポイント数を指定するか、直接数値を上書きして設定します。



テキストの配置

●行間

行と行の間の距離を調整します。0から7の8段階(Pixel単位)で設定できます。

●字間

同一行の隣接する2つの文字の間隔を調整します。0から7の8段階(Pixel単位)で設定できます。



「テキストの編集」画面内では、変化しません。設定後、[OK] をクリックして「レイアウト」画面に戻ると変化します。

●スタイル

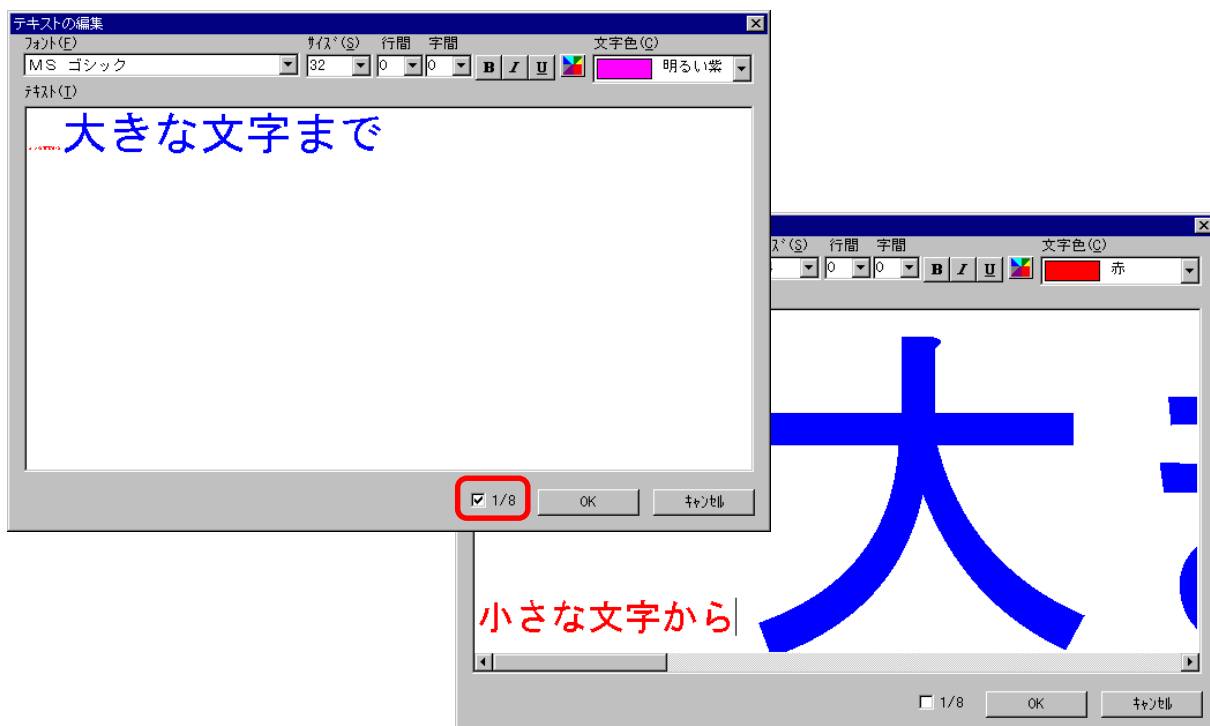
B(太字)、I(斜体)、U(下線) の設定したいスタイルのボタンを押して設定します。設定したスタイルは「テキストの編集」画面上で確認できます。

テキストオブジェクトの変形方法を、[書式 (0)] で [変形方法 (C)] [オブジェクトに合わせる (O)] を選択している場合、太字、下線の設定は「レイアウト画面」に戻ると無効になります。



●1/8 フォントビューチェックボックス

一つの文字列の中に非常に大きいフォントサイズと小さいフォントサイズを混在させると、画面に一度に入り切らずに文字列の編集がしづらくなります。このようなときは、このチェックボックスをチェックすると、すべての文字が1/8のサイズで表示されるので、全体を一度に見ることができます。この場合、1/8のサイズになるのは「テキストの編集」画面上だけで「レイアウト画面」に戻ると設定している1/1の文字サイズになっています。

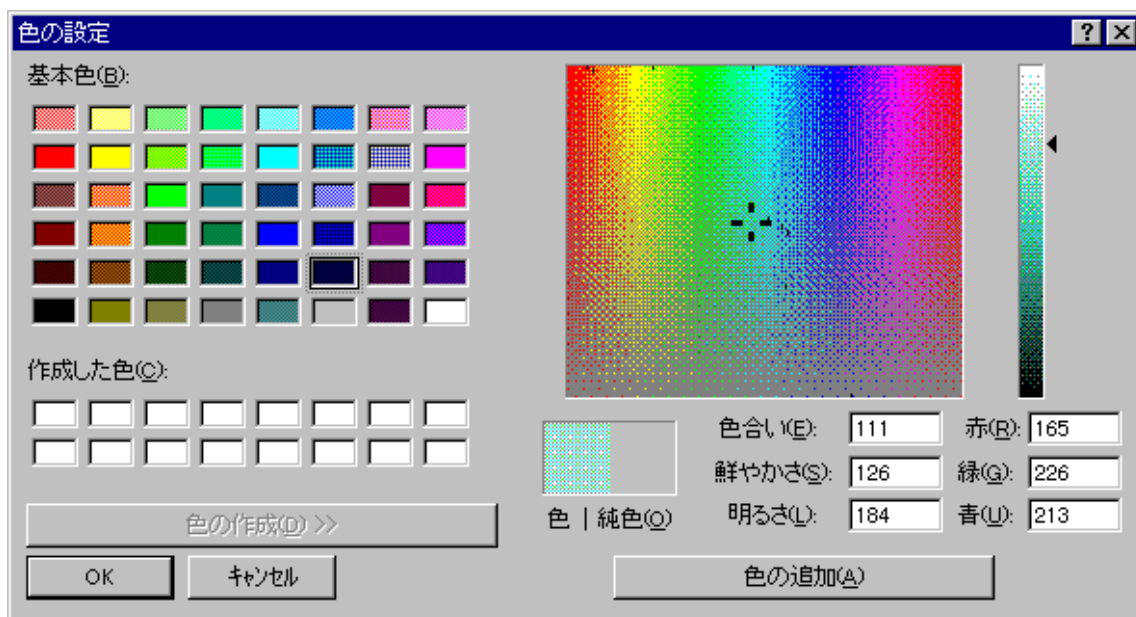


●文字色の設定

文字をドラッグして選択し、[文字色 (C)] のポップアップメニューから希望する色を選択します。



細かい色の設定をしたい場合は、リストボックスの左にある[カラーボタン]をクリックすると、「色の設定」画面が表示されます。



[基本色 (B)]のカラーボックスの中から選択するか、画面右側にあるスライダーや、カラーパレットの十字のアイコンをマウスでドラッグして色を作成します。気に入った色が作成できたら、[色の追加 (A)]をクリックすると、[作成した色 (C)]のカラーボックスに登録され、次回からはここをクリックするだけで、作成した色に設定できます。最後に登録した色は、[文字色 (C)]ポップアップメニューの[カスタム]にも表示されます。

画像を「レイアウト」画面上に配置するには以下のような方法があります。

「レイアウト」では、JPEG、TIFF、BMPといった一般的な画像ファイルのほか、「レタッチ」の画像ファイル（.pcf）も「レイアウト」画面上に配置できます。

お知らせ

- 配置された画像は、[表示 (V)] メニューの[画像の簡易表示 (Q)]をチェックすることで、画像エリアを灰色にシェーディングされた矩形の表示におきかえることができます。頻繁な編集作業で画面のスクロールが遅く感じる時には、この表示方法をご使用ください。
- 印刷領域の表示は「プリンタの設定」画面に表示されています。[ファイル(F)] メニューの [プリンタの設定 (R)] でシートの用紙サイズを選択すると正しい領域が表示されます。

■「アルバム」の登録画像を配置する

「アルバム」の画像データベースから登録してある画像を、「レイアウト」画面上にドラッグ&ドロップすることで配置できます。

「ウィンドウ(W)」メニューの[アルバムを並べる (B)]を選択すると、「アルバム」をブラウザ機能として使え、ドラッグ&ドロップがよりスムーズにできます。

お知らせ

- DVF形式の画像は「アルバム」以外では扱えないファイル形式です。ドラッグ&ドロップで「レイアウト」に開くことはできません。
[編集 (T)] メニューの [画像フォーマットの変換] をクリックするか、サムネイル画像選択後にコンテキストメニューから [画像フォーマットの変換] を選択して形式を変換します。
BMP形式・JPEG形式・TIFF形式が「レイアウト」に対応しています。
- プリンタードライバーがインストールされていない場合、「アルバム」から「レイアウト」に画像をドロップするとエラー表示の後、原画サイズで配置されます。

■画像ファイルを読み込んで配置する

- 1 [ファイル(F)] メニューから[画像ファイルの読み込み (G)]を選択する。
または、標準ツールバーで[画像ファイルの読み込み]をクリックする。
「ファイルを開く」画面が表示されます。

- 2 配置したい画像を選択して、[開く (O)] をクリックする。
レイアウト画面左上に、選択した画像が配置されます。

■クリップボードの画像を貼り付ける

他のアプリケーションなどでコピーした画像を、[編集 (E)] メニューまたは標準ツールバーの[貼り付け (P)]を選択して配置できます。

ツールパレットから図形描画ツールを選択して「レイアウト」画面に直接描画できます。これらのツールで描かれた画像は、四隅に座標点をもったオブジェクトとして扱われ、後から様々な方法で変形や拡大、縮小が可能です。

■直線ツール

直線を描画します。

[Shift]キーを押しながらマウスをドラッグすると、水平線、垂直線、45度の傾き線で描画できます。

■矩形ツール

四角形を描画します。

[Shift]キーを押しながらマウスをドラッグすると、正方形が描画できます。

■楕円ツール

楕円形を描画します。

[Shift]キーを押しながらマウスをドラッグすると、正円が描画できます。

オブジェクトの編集 / 操作

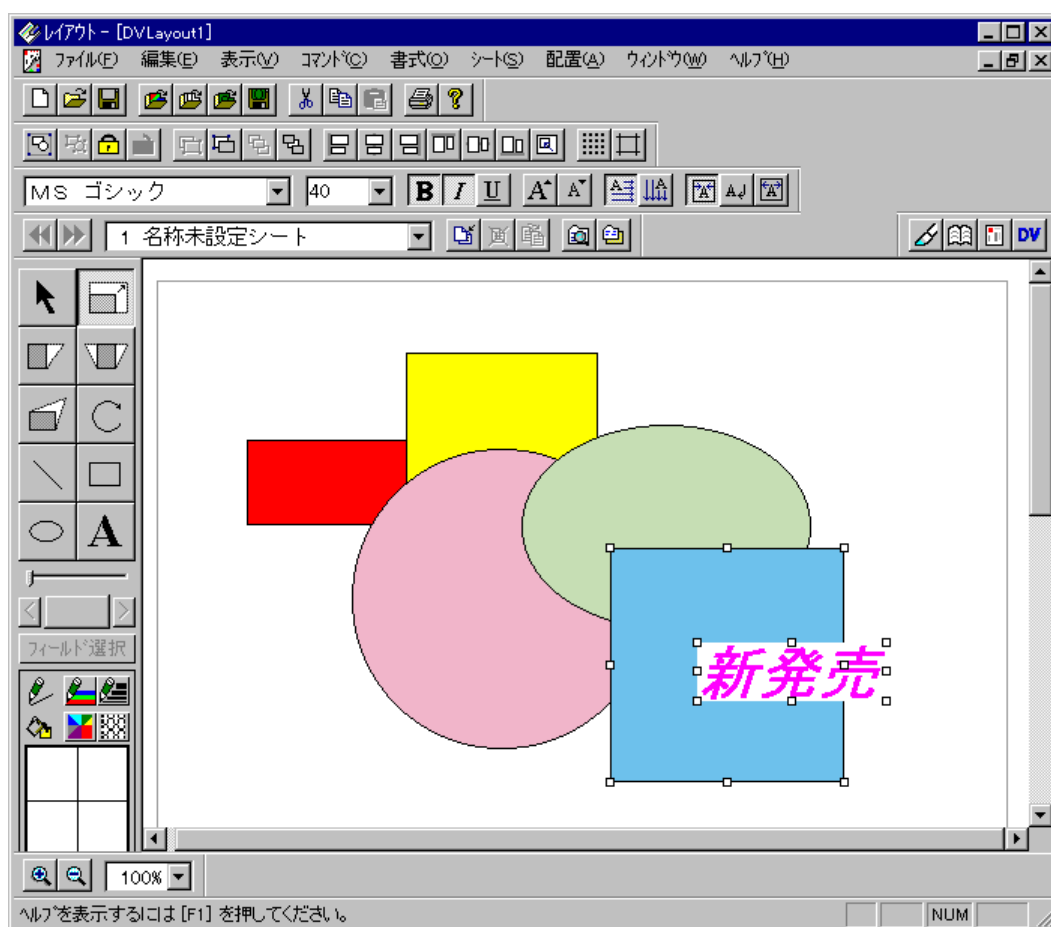
レイアウト画面上に配置されたオブジェクト（テキスト、画像、図形）は、画像情報のほかに、画像情報を取り囲む四隅に座標点をもっています。マウスでこの座標点を移動させることで、サイズ変更、回転、遠近法、平行移動、任意変形などのオブジェクトの変形操作ができます。

■オブジェクトを編集する手順

- 1 [コマンド (C)] メニューから [選択ツール (D)] を選択する。
または、[ツールパレット](#)で [選択ツール] をクリックする。
- 2 編集しようとするオブジェクトを選択して四隅にハンドルを表示させる。
- 3 変形ツールを選び、座標点あるいは、辺に現れたハンドルをマウスでつかんで変形操作をする。

変形操作が行われ、マウスのカーソルがそのオブジェクト上にあれば、カーソルの形状がかなづちの形に変わります。もし思い通りの変形になっていれば、クリックで画像が確定し新しくオブジェクトとして固定されます。

（ただし、サイズ変更の場合は、かなづちの形のカーソルは現れず、変形操作の終了時にそのままサイズが変更されます。）



オブジェクトの編集 / 操作

●選択



オブジェクトを選択します。複数のオブジェクトを選択するには、コントロールキーを押しながらマウスをクリックして選択するか、希望するオブジェクトの回りを囲む矩形をドラッグすれば、その矩形の範囲内のオブジェクトを選択することができます。

●サイズ変更



掴んだ頂点のハンドルと対角の頂点を基点に、オブジェクトのサイズを変更します。辺の中央にあるハンドルを掴んだ場合は、対する辺をベースにサイズを変更します。
[Shift]キーを押しながらマウスをドラッグすると、オブジェクトを縦横等倍比でサイズ変更できます。

●回転



オブジェクトを回転させます。

●遠近法



マウスで掴んだオブジェクトの頂点ハンドルと反対側の頂点のハンドルを、残る2点のハンドル位置は変えずに、対称に変形させます。

●平行移動



マウスで掴んだオブジェクトの頂点のハンドル、あるいは辺（辺の中央にあるハンドル）を相対する辺と平行に、移動・変形させます。

●任意変形



マウスで掴んだオブジェクトの頂点のハンドルを、自由な位置に移動させて変形させます。

■オブジェクトの重なり

選択したオブジェクトの重なり順を変更します。変更したいオブジェクトを選択します。
[配置 (A)] メニューか[配置ツールバー](#)から画像の重なり順を選択します。

○前面へ / 背面へ：

選択したオブジェクトの重なり順が一つ上（前面）、下（背面）に移動します。

○最前面へ / 最背面へ：

選択したオブジェクトの重なり順を配置されたすべてのオブジェクトのもっとも上（最前面）、または下（最背面）に変更します。

■オブジェクトのグループ化

●グループ化

複数のオブジェクトをグループ化することで位置関係を崩さずに移動する場合に便利です。

1 グループ化したいオブジェクトを選択する。

複数のオブジェクトの選択は、選択したいオブジェクトの周りを選択ツールでドラッグして囲んで選択するか、キーボードの [Ctrl] キーを押しながらクリックしていきます。

2 [配置 (A)] メニューから[グループ化 (G)]を選択する。

または、[配置ツールバー](#) で[グループ化]をクリックする。

選択したオブジェクトがグループ化されます。各オブジェクトに表示されていたハンドルが一つになります。

●グループ解除

グループ化されたオブジェクトの一部を変更する場合は、グループ化を解除する必要があります。

1 グループ化されたオブジェクトを選択する。

2 [配置 (A)] メニューから[グループ解除 (D)]を選択する。

または、[配置ツールバー](#) で[グループ解除]をクリックする。

グループが解除され各オブジェクトのハンドルが表示されます。

個々のオブジェクトを操作できます。

■オブジェクトのロック

変更の必要がないオブジェクトを変形や移動ができないように固定することができます。

●ロック

1 固定したいオブジェクトを選択します。

2 [配置 (A)] メニューから[ロック (L)]を選択する。
または、[配置ツールバー](#) で[ロック]をクリックする。

オブジェクトがロックされハンドルがグレイ表示になります。移動したり変形することはできません。

●ロック解除

オブジェクトのロックを解除して操作可能にできます。

1 ロックされているオブジェクトを選択する。

2 [配置 (A)] メニュー から[ロック解除 (U)]を選択する。
または、[配置ツールバー](#) で[ロック解除]をクリックする。
ロックが解除され移動や変形が行えるようになります。

■オブジェクトの整列

レイアウト画面に配置した複数のオブジェクトを整列できます。

1 整列するオブジェクトを選択する。

2 [配置 (A)] メニューから
[水平整列 (H) - (右辺, 中央, 左辺を揃える)]
[垂直整列 (V) - (上辺、中央、下辺を揃える)]
[整列 (A) - (水平整列と垂直整列を組み合わせで指定)] を選択する。
または、[配置ツールバー](#)でそれぞれの操作に適した整列のツールをクリックする。
選択した方法でオブジェクトが整列されます。
整列は選択したオブジェクトのコントロールポイント位置を基準とします。

■オブジェクトの集合

[配置 (A)] メニューの [集合 (K)] を選択すると編集領域外にあるオブジェクトを原点に移動できます。

■グリッド

●グリッドに合わせる

オブジェクトをグリッドに吸着させることができます。グリッドとは、レイアウトの補助として一定の間隔で引かれた格子状のガイドラインのことです。

「配置 (A)」メニューまたは[配置ツールバー](#)の「グリッドに合わせる (G)」を有効にする（チェックマークが付いた状態）と、オブジェクトを移動したときに「レイアウト」画面に設定されたグリッドに吸着します。オブジェクトをマウス操作で間隔を均一に整列したい場合などに便利です。

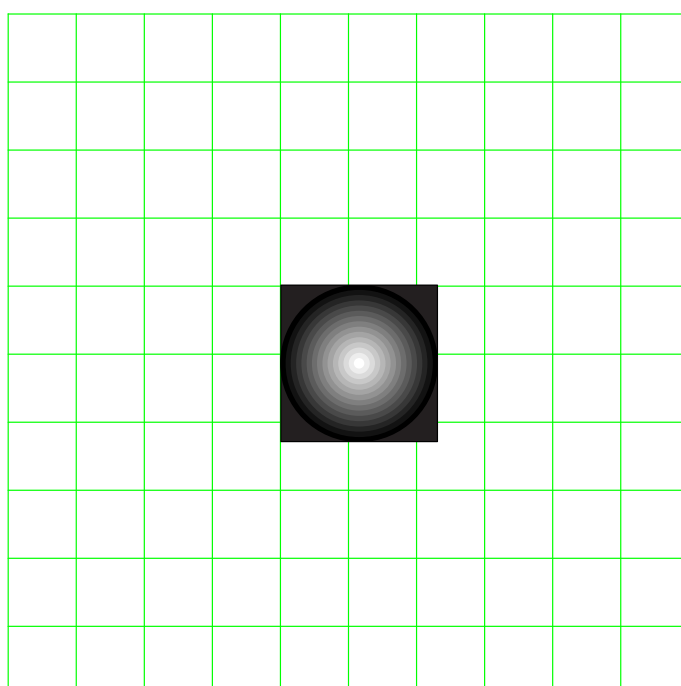
1ドット (Pixel) 単位の移動が必要な場合は、このモードを無効にします。無効にするには「配置 (A)」メニューから「グリッドに合わせる (G)」を選択してチェックを外します。

●グリッド設定

「配置 (A)」メニューまたは[配置ツールバー](#)から「グリッド設定 (C)」を選択してグリッドの間隔を設定できます。単位はドット (Pixel) 単位で設定できます。ここで設定した間隔でレイアウト画面にグリッドが設定されます。



○グリッドにオブジェクトが吸着する様子
（「レイアウト」では、グリッドラインは見えません。）



■テキストオブジェクトの編集

「テキストの編集」画面から「レイアウト」画面に配置したテキストオブジェクト（「レイアウト」画面上の、ハンドルで囲まれたテキスト）を加工、編集できます。

テキストオブジェクトを選択した後、[書式 (O)] メニューから必要なコマンドを選択して実行します。

●フォント (F)

ポップアップメニューから使用するフォントを選択します。

●サイズ (S)

フォントの大きさを設定します。ポップアップメニューのポイント数を指定して設定します。

●スタイル (T)

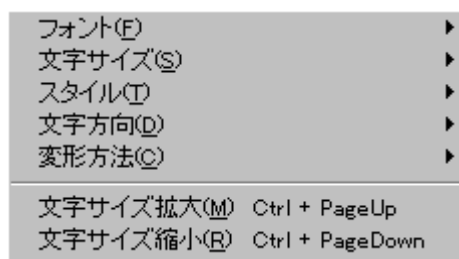
B(太字)、I(斜体)、U(下線) の設定したいスタイルのボタンを押して設定します。

●文字方向 (D)

テキストの縦書き、横書きを変更します。

●フォント拡大 (M) / 縮小 (R)

フォントのサイズを1ステップずつ拡大、縮小します。



○ [書式 (O)] メニュー

同様に、文字ツールバーにも文字編集の操作ボタンが配置されています。



●テキストオブジェクトの変形方法

テキストオブジェクトのサイズを変更するときに、文字列の配置の方法を、[書式 (O)] メニューの [変形方法 (C)] または、[書式ツールバー](#) で設定できます。

○テキストに合わせる (T) :

[テキスト編集]画面で入力したときの文字列の幅、高さが、そのままオブジェクトのサイズとして固定されます。

○折り返す (R) :

変形後のテキストオブジェクトの幅が入力した文字列より小さくなる場合には、文字列を変更後のテキストオブジェクトの幅に合うように折り返します。

○オブジェクトに合わせる (O) :

変形後のテキストオブジェクトの幅とサイズに合わせて、文字列のフォントの幅と高さを変形させます。テキストスタイルの太字、下線は無効です。

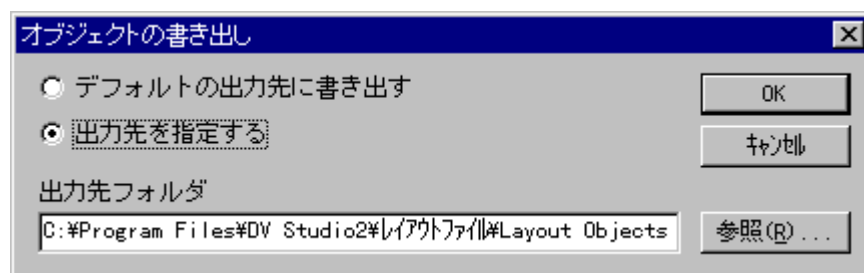
お知らせ

テキストオブジェクトの大きさは、なるべく変形機能で調整するのではなく、[書式 (O)] メニューまたは[書式ツールバー](#)でフォントのポイントサイズを変更して調整した方が、きれいに仕上がります。

■オブジェクトの書き出し

「レイアウト」で、変形・編集したオブジェクトを保存することができます。

- 1 保存したいオブジェクトを選択する。
- 2 [ファイル(F)] メニューから、[オブジェクトの書き出し (E)]を選択する。
または、[標準ツールバー](#)で[オブジェクトの書き出し]をクリックする。
「オブジェクトの書き出し」画面が表示されます。



- 3 保存するディレクトリを指定する。
 - [デフォルトの出力先に書き出す] を指定すると、レイアウトがインストールされたディレクトリの下に、「layobj」というディレクトリに保存されます。
 - 書き出し先を指定したときは、指定したディレクトリに保存されます。
 - 複数のオブジェクトを選択していても、書き出す時は一つ一つ独立したファイルとして、「レイアウト」が自動的に固有のファイル名を連番でつけます。このファイル名を変更することはできません。
 - オブジェクトファイルは、(.lob) という拡張子がつけられます。

■オブジェクトの読み込み

「レイアウト」で作成し [ファイル(F)] メニューの[オブジェクトの書き出し (E)]で保存されたオブジェクトファイルは、いつでも読み出して「レイアウト」画面上に配置できます。

- 1 [ファイル(F)] メニューから[オブジェクトの読み込み (I)]を選択する。
または[標準ツールバー](#)で[オブジェクトの読み込み]をクリックする。
「ファイルを開く」画面が表示され、指定されたディレクトリにあるオブジェクトファイルの一覧がリスト表示されます。
- 2 ファイルを選んで[開く (O)]をクリックする。
選択されたオブジェクトファイルが、現在編集作業をしているシートの左上に展開されます。

[オブジェクトの座標情報も読み込む]をチェックすると、オブジェクトを保存した時のシートの左補上からの座標も一緒に読み込まれて、その位置にオブジェクトとして展開されます。

レイアウトでは、一つのドキュメントファイルに対して複数のシートと呼ばれるページレイアウトを持たせることができます。各シートは独自の用紙サイズを持つことができます。

■シートの追加

- [シート(S)] メニューから[挿入 (I)]を選択する。
または、[シートツールバー](#)で[シート追加]をクリックする。
「編集領域設定」画面が表示されるので、[新規作成](#) の手順と同じように用紙サイズなどを設定します。

■シートの削除

- [シート(S)] メニューから[削除 (D)] を選択する。
または、[シートツールバー](#)で [シート削除] をクリックする。
「削除シートの選択」画面が表示されるので、削除したいシート名をリストから選択して[削除]をクリックします。

■シートの並べ換え

- [シート(S)] メニューから[並べ換え (S)]を選択する。
または、[シートツールバー](#)で[シート並べ換え]をクリックする。
「シートソート」画面が表示されるので、画面上に表示されたシートの縮小画像をマウスで掴んで並べ換えて、最後に[OK]をクリックします。

■シートのプロパティ

作成したシートに名称やコメントを付けることができます。

- [シート(S)] メニューから[プロパティ (R)]を選択する。
または、[シートツールバー](#)で[シートプロパティ]をクリックする。
「シートプロパティ」画面が表示され、現在選択されているシートのプレビューと名称、コメントが表示されます。シートの名称を変更したければ、表示されている名称をダブル・クリックして新しい名称を入力します。

■シートのサイズ変更

- [シート(S)] メニューから[サイズ変更 (C)]を選択する。
または[シートツールバー](#)で[シートサイズ 変更]をクリックする。
「編集領域設定」画面が表示され、現在選択されているシートの編集領域やタイル印刷の指定が変更できます。

作成したレイアウトドキュメントは、シート単位でWindows95対応のプリンタで出力できます。プリントの方法は、Windows95の「アプリケーションからの印刷方法」に準拠しています。使用するプリンタの取扱説明書をご覧ください。

- 1 印刷したいシートをレイアウト画面上に表示させる。
- 2 [ファイル(F)] メニューから[印刷 (P)]を選択する。
- 3 「印刷」画面で、印刷したいページや部数、印刷するプリンタやプリンタのオプションなどを設定する。
現在選択されているシートのみが印刷されます。

■読み込んだCSVファイルの印刷

「印刷」画面でのページ番号は、印刷するシートがCSVファイルを読み込んでいる場合のみ有効で、CSVファイルのレコード番号に相当します。つまり10レコードの住所ファイルをCSVファイルとして読み込んだ場合は、1ページ目が1レコード目のデータを貼り付けたページとなり、10ページ目は10レコードに相当します。CSVファイルのオブジェクトとしての貼り付けは、[CSVファイルの読み込み](#) を参照してください。

■タイル印刷

「編集領域設定」画面で分割ページによるタイル印刷を指定した場合は、プリンタの設定で指定された用紙サイズと用紙方向で編集領域が分割して印字できます。どのように分割されるかの確認は、印刷プレビューか、「レイアウト」画面上で、[表示 (V)] メニューから[印刷領域の表示 (P)] をチェックするとできます。タイル印刷における用紙サイズと編集領域の関係については、[編集領域の設定](#) を参照してください。

■バナー印刷（長尺印刷）

バナー印刷（長尺印刷）用紙も印刷できます。

バナー印刷をするには、[編集領域の設定](#) でバナーA4用紙を選択しておけば、プリンタのプロパティで「用紙」のタブを選択し「バナー紙（長尺紙）印刷」をチェックするだけで、バナー印刷ができます。

（長尺印刷のプリンタドライバでの設定方法や、用紙をプリンタへセットする時の注意事項は、プリンタに付属の取扱説明書を参照してください。）

■プレビュー表示

編集中のレイアウトシートを印刷時のイメージで印刷プレビュー画面に表示させることができます。

1 [ファイル(F)] メニューから[印刷プレビュー (V)]を選択する。

「印刷プレビュー」画面がメインの画面と入れ代わり、印刷時のイメージが1または2 ページ表示されます。画面上部に表示される印刷プレビューツールバーを使って、1または2 ページの画面表示の切り替え、表示するページの変更、表示の拡大縮小、印刷の開始などができます。

お知らせ

- タイル印刷やC S Vファイルの読み込み印刷を指定したときには、用紙の割付が思い通りの形になっているかをプレビューで確認してから印刷するようにしましょう。
- 通常の印刷においても、文字の全角／半角や、縦書き／横書き書体の設定など、自分の意図どおりになっているかプレビューで確認してから印刷してください。

「レイアウト」には、複雑な編集作業を簡略化するために、機能ごとにまとめられた次のようなツールバーが用意されています。ツールバーの表示／非表示は、[表示 (V)] メニューのツールバーの名称に、チェックマークを付けたり外したりして切り替えできます。また各々のツールバーの表示位置はツールバーのボタン以外の部分をマウスで掴みドラッグすることで移動できます。

お知らせ

機能を知りたいツールバーのボタンの上に、マウスポインタを移動すると、各ツールについての説明が表示されます。

●リモコンバー

他のパッケージプログラムを起動できます。[表示 (V)] メニューで [リモコンを小さく表示] を選択すると、リモコンバーの表示サイズを変更できます。



●標準ツールバー

ファイルのオープンやクローズ、印刷など、もっとも頻繁に使用される操作のボタンが配置されています。



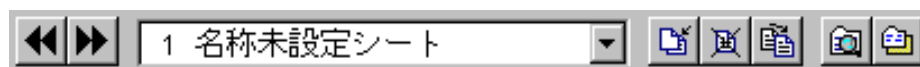
●書式ツールバー

文字入力に関する操作のボタンが配置されています。



●シートツールバー

レイアウトドキュメントは、シートと呼ばれる複数の編集ページを持つことができます。シートに関する操作のボタンが配置されています。



●配置ツールバー

オブジェクトの操作に関するボタンが配置されています。



●倍率ツールバー

最下部にズームボタンがあります。「+」をクリックするとズームインできます。「-」をクリックするとズームアウトできます。数字部分をクリックすると拡大・縮小率がリスト表示されます。25%から500%の範囲で選択できます。



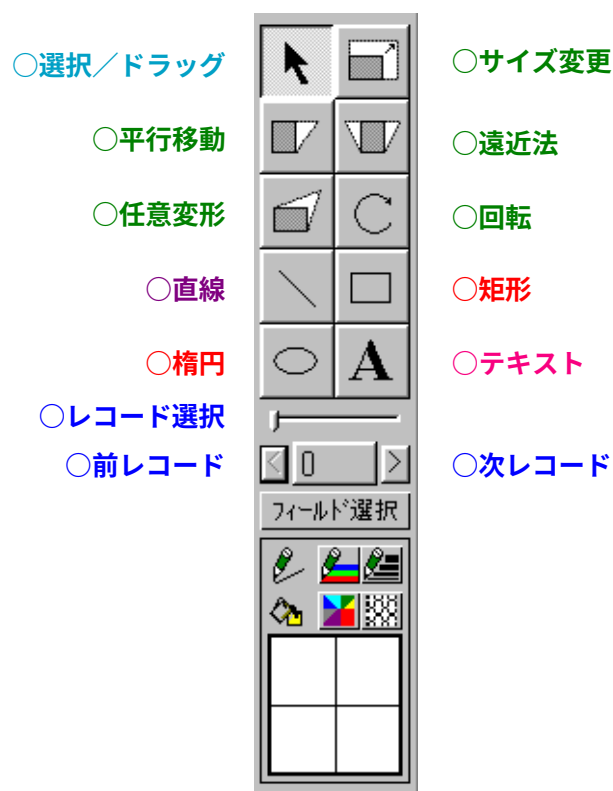
■ツールパレット

ツールパレットには、オブジェクトを選択したり、変形したり、図形を描画したりするためのツールがあります。また、描画色や線種、パターンなどを設定するボックスもあります。

ツールを選択するには、ツールパレットのアイコンをクリックします。クリックすると関連したパレットが表示されるツールもあります。

お知らせ

ツールパレットの機能を知りたいボタンの上にマウスポインタを移動するとツールについての説明が表示されます。



[コマンド (C)] メニューにもツールバーと同様のコマンドがあります。

▼ 選択(D)	Ctrl + 1
サイズ変更(C)	Ctrl + 2
平行移動(H)	Ctrl + 3
遠近法(P)	Ctrl + 4
任意変形(V)	Ctrl + 5
回転(K)	Ctrl + 6
直線(L)	Shift + 1
矩形(R)	Shift + 2
楕円(E)	Shift + 3
テキスト(T)	Shift + 4

■ルーラー

「レイアウト」画面上には、編集しているシートの大きさや、オブジェクトの大きさを確認するためのルーラーが用意されています。



ルーラー表示の単位は、ルーラーの左上隅の黒い三角マークをクリックすることで、Pixel scale (画素)、Centi scale (センチ)、Inch scale (インチ)、や非表示を設定することができます。

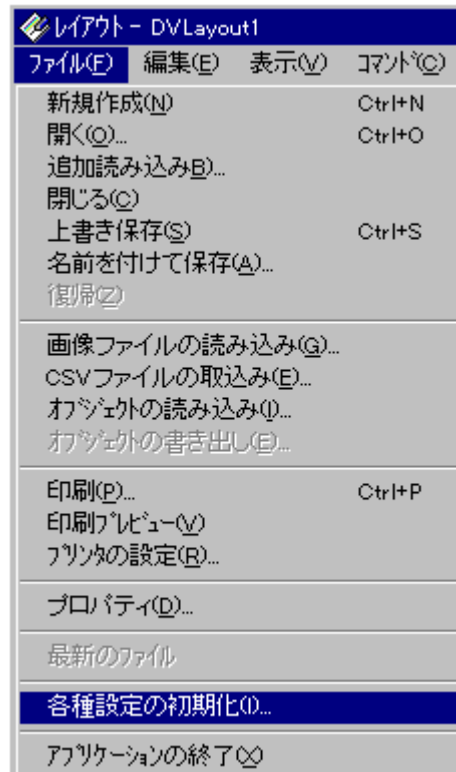
表示／非表示は「表示 (V)」メニューの「ルーラー (R)」で設定することもできます。

設定の初期化

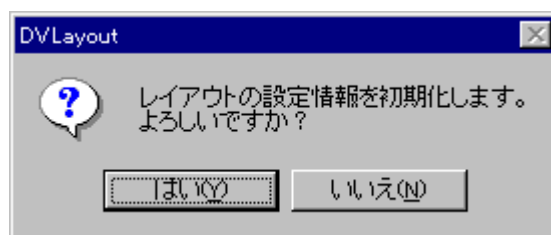
「レイアウト」 の様々な設定をインストール直後の状態に戻すことができます。

1 「ファイル(F)」メニューより「各種設定の初期化 (I)」を選択する。

「初期化の確認」画面が表示されます。



2 初期化する場合は「はい (Y)」を選択し、初期化しない場合は「いいえ (N)」を選択する。



第V章 住所録

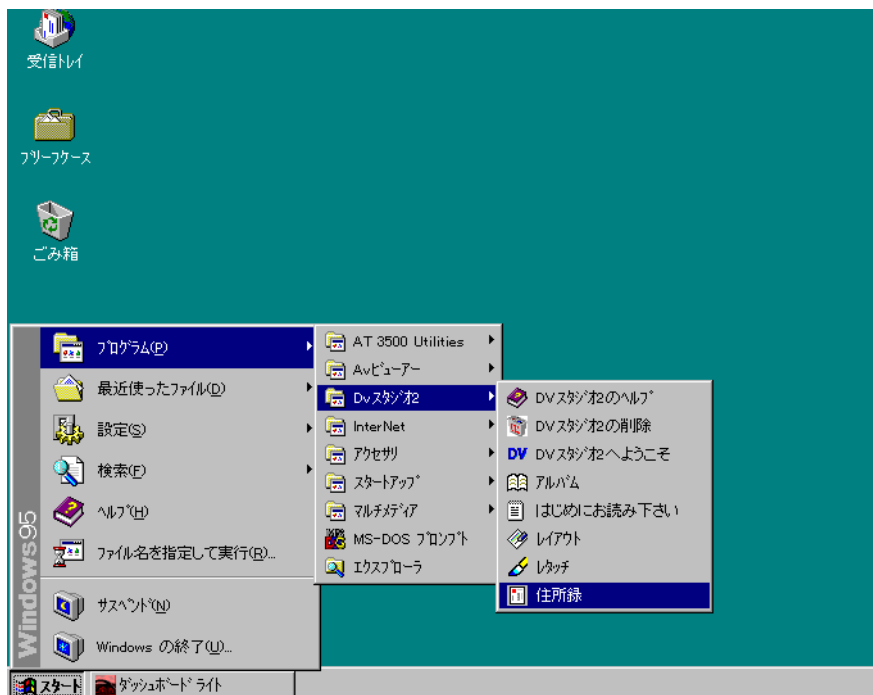
「住所録」は、住所録データベース機能です。あらかじめ住所録の管理に必要な項目が用意されていますので、すぐに住所データを登録することができます。検索や整列などの処理をおこないデータを管理できます。また、「レイアウト」画面に住所録の項目をレイアウトして表示したり、自動レイアウトの宛名印刷機能を使用して簡単に宛名の印刷ができます。

5.1 住所録の起動	V -2
5.2 住所録の終了	V -3
5.3 住所録画面	V -4
5.4 コントロールパネル	V -5
5.5 レコード一覧画面	V -6
5.6 入力パネル	V -8
5.7 データベース操作	V -10
5.8 住所録の印刷	V -13
5.9 データの読み込みと書き込み	V -17
5.10 「レイアウト」との連携	V -21

住所録の起動

次の3種類の起動方法があります。

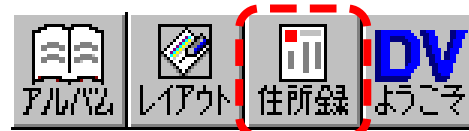
- A** [スタート] メニューから [プログラム(P)] — [DVスタジオ2] — [住所録] を選択する。



- B** 「DVスタジオ2 へようこそ」を起動後、「ようこそ」画面で [住所録] をクリックする。

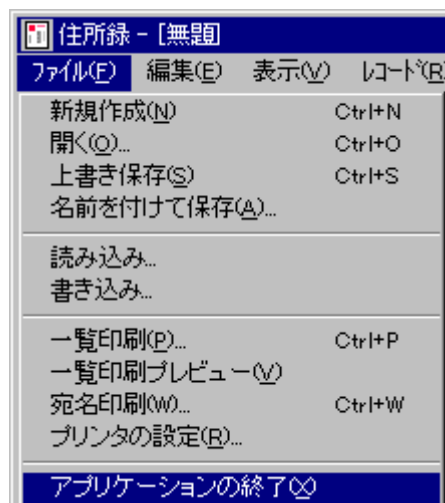


- C** 「アルバム」「レイアウト」「レタッチ」のリモコンバーで [住所録] をクリックする。

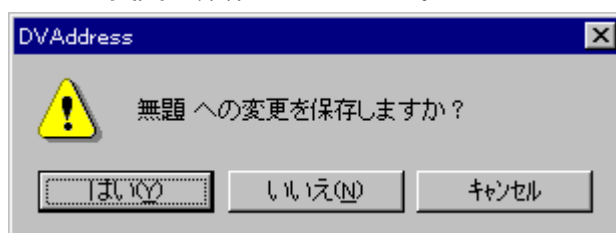


住所録の終了

「ファイル(F)」メニューから[アプリケーションの終了 (X)]を選択します。



終了時に保存していない住所録データや、住所録データ変更後に保存されていないデータがあると、変更保存のメッセージが表示されますので、必要であれば変更を保存してください。



「住所録」画面

起動操作後、「住所録」が起動され、新規ファイルの画面が表示されます。

レコード一覧画面：

検索や整列などのデータベース操作ができます。

住所録 - [無題]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) レコード(R) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

新規 削除 検索 整列 マーク

00006 件 / 00006 件中

氏名	会社名	住所 1	電話 1

フリガナ 氏名 敬称

会社名

所属部署 役職

住所 1 2

電話番号 1 2

メモ

NUM

コントロールパネル：

機能ボタンが配置されています。
ボタンをクリックして必要な処理
ができます。

入力パネル：

住所データを登録していきます。
郵便番号辞書入力や選択肢入力などの入力を
サポートする機能があります。

「住所録」画面の左側には、コントロールパネルがあり、機能ボタンが配置されています。



表示切り替えボタン：

入力パネルの表示／非表示を切り替えます。

新規レコード作成ボタン：

クリックすると新規レコードを追加し、入力パネルがデータを入力可能になります。

レコード削除ボタン：

クリックすると一覧画面で選択されているレコードが削除されます。[編集 (E)] メニューの [削除 (D)] を選択しても同様です。

レコード検索ボタン：

クリックすると検索条件設定画面が表示されます。指定した条件でレコードが検索され、条件に合致したレコードが選択されます。[レコード (R)] メニューの [検索 (F)] でも同様の処理ができます。

レコード整列ボタン：

クリックすると「ソートダイアログ」が表示されます。指定した項目のデータを元に昇順整列が行われます。[レコード (R)] メニューの [整列 (T)] でも同様の処理ができます。

マーク ON/OFF ボタン：

クリックすると選択しているレコードにマークを付けたり、外したりできます。[レコード (R)] メニューの [マークの ON] [マークの OFF] でも同様の処理ができます。

レコード移動ボタン：

ボタンをクリックして、住所録データベースの先頭レコード、末尾レコードへの移動や、現在のレコードの前、次レコードへの移動ができます。

○ [レコード (R)] メニューにも同様のコマンドがあります。

選択(F)...	Ctrl+F
整列(T)...	Ctrl+T
フリガナ検索	▶
検索解除(U)	Shift+F
マークの ON	Shift+E
マークの OFF	Shift+D

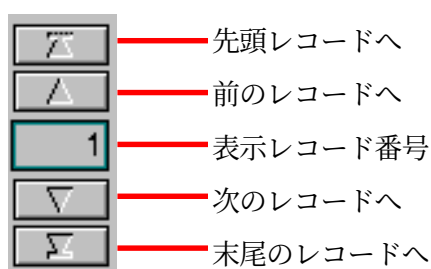
「住所録」画面には、レコードを一覧で表示する「レコード一覧」画面があります。レコードの選択や閲覧に利用します。

■レコードの選択

レコードの選択には以下の方法があります。

●一つのレコードを選択

選択したいレコードをクリックします。又は、レコード移動ボタンをクリックすることでレコードを選択することができます。



●連続したレコードを複数選択

最初のレコードをクリックし、[Shift]キーを押しながら最後のレコードをクリックします。

●任意のレコードを複数選択

[Ctrl]キーを押しながら選択したい任意のレコードをクリックします。

●全てのレコードを選択

[編集(E)]メニューから[全て選択(S)]を選択します。現在表示されているレコードが全て選択されます。

■項目

一覧画面では列方向に住所録の各項目が表示されます。

氏名	会社名	住所 1	電話 1
----	-----	------	------

●項目の追加

新規ファイルを作成すると初期状態で4項目表示されています。[表示(V)]メニューから[項目の追加(E)]を選択します。現在表示されている項目の最後にひとつ項目が追加されます。

●項目の削除

[表示(V)]メニューから[項目の削除(D)]を選択します。「レコード一覧」画面の最後の項目が削除されます。

●項目の変更

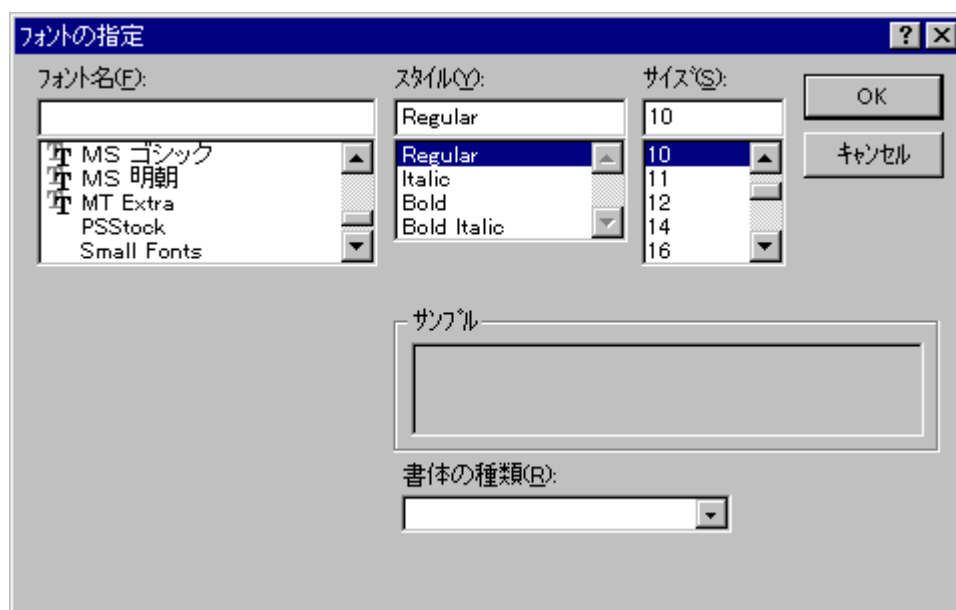
項目の名称部分をクリックするとポップアップメニューが表示されます。項目名を選択することでその項目の内容を表示できます。

●項目表示幅の変更

項目名と項目名の境目の部分にカーソルを置くとカーソルの形状が幅調整カーソルに変わります。その状態でマウスを左右にドラッグすると項目幅を変更できます。

■表示フォントの変更

[表示 (V)]メニューから[フォント (F)]を選択すると「フォントの指定」画面が表示されます。フォント名、スタイル、サイズなどを設定して[OK]をクリックします。設定したフォントで「レコード一覧」画面にデータが表示されます。



住所録データを登録するのが入力パネルです。住所管理に必要な項目が用意されています。入力をサポートする機能を装備しています。

フリガナ	川 野 **			連名
氏名	長谷 **		敬称	様
会社名	株式会社メディア **			
所属部署	営業部	役職	課長代理	
住所	〒530	大阪市北区南森町 **		
		**ビル8階502号		
電話番号	☎1 06-315-****	☎2 030-27-****	☎3 06-315-****	
メモ	取引先			

■選択肢入力

[敬称] [役職]の項目には定型的にを入力するデータをあらかじめ登録しておき、選択して入力する機能があります。[敬称] [役職]をクリックすると「定義ダイアログ」が表示されます。リストで入力したいデータをダブルクリックすると項目内に入力されます。「定義ダイアログ」の「登録する項目」の欄に文字列を入力して「登録」をクリックします。リストから削除したいデータを選択して「削除」をクリックすると削除できます。

削除

登録

キャンセル

様
御中
殿
先生
行
宛
係

登録する項目

削除

登録

キャンセル

代表取締役社長
代表取締役
専務取締役
常務取締役
取締役
部長
課長
係長
主任

登録する項目

■郵便番号辞書入力

郵便番号項目に郵便番号を入力して[〒]をクリックすると「郵便番号<->住所変換」画面が表示されます。検索された住所リストから該当する住所データを選択して[OK]をクリックすると[住所1]の項目に入力できます。

住所 1000000

郵便番号<->住所 変換

100	1000000	東京都千代田区(以下に掲載がない場合)
100	1000011	東京都千代田区内幸町
100	1000004	東京都千代田区大手町
100	1000013	東京都千代田区霞が関(次のビルを除く)
100	1006090	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(地階・階層不明)
100	1006001	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(1階)
100	1006002	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(2階)
100	1006003	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(3階)
100	1006004	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(4階)
100	1006005	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(5階)
100	1006006	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(6階)
100	1006007	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(7階)
100	1006008	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(8階)
100	1006009	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(9階)
100	1006010	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(10階)
100	1006011	東京都千代田区霞が関霞が関ビル(11階)

郵便番号 5桁 7桁

☐ 郵便番号のみ使用

OK キャンセル

「住所録」に登録した住所データをもとに検索、整列などの処理が行なえます。

■レコードの検索

登録してあるレコードを条件によって選択します。

- 1 [レコード (R)]メニューから[検索 (F)]を選ぶ。または、コントロールパネルの[選択]をクリックする。

「検索」画面が表示されます。

- 2 検索条件を設定する項目をポップアップメニューから選択する。
- 3 検索したい条件（文字列）を入力する。
- 4 どういう条件で選択するかをポップアップメニューから選択する。

○～を含む：

指定した項目内のデータに条件が含まれるレコードを選択します。

○～を含まない：

指定した項目内のデータに条件が含まれないレコードを選択します。

○～である：

指定した項目内のデータと条件が完全一致するレコードを選択します。

○～で始まる：

指定した項目内のデータが条件で始まるレコードを選択します。

5 検索オプションを選択する。

○ファイル全体から探す：

登録されている全レコードを対象に検索します。

○現在表示されているリストから探す：

現在選択されているレコードを対象に検索しレコードを絞り込みます。

○現在表示されているリストに追加する：

全レコードを対象に検索し、現在表示されているレコードに検索結果を追加します。

レコードが選択された状態でない場合は、「ファイル全体から探す」オプションしか選択できません。

6 [検索] をクリックして選択処理を実行する。

●マークつきレコードの検索

レコード一覧表にはリストのいちばん左にマークをつける項目があります。レコードが選択された状態でコントロールパネルの[マーク]をクリックするとそのレコードにチェックマークが付きます。このマークをもとにレコードの選択を行います。

「検索」画面で[マークのついているものを検索]をチェックし[検索]をクリックします。マークつきレコードが選択されます。

[レコード(R)]メニューの[マークのON]を選択することで、選択しているレコードにマークを付けることができます。マークを外す場合は、再度[マーク]をクリックするか、[レコード(R)]メニューの[マークのOFF]をクリックします。

●検索解除

レコードが選択された状態を解除するには、[レコード(R)]メニューから[検索解除]を選択します。選択解除を実行すると登録順の状態になり、整列状態も併せて解除されます。

●フリガナ検索

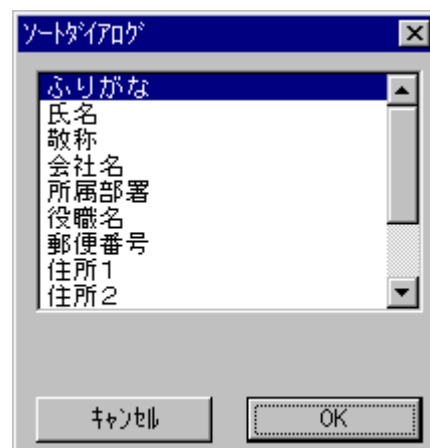
「フリガナ」項目に入力したフリガナを元に検索できます。[レコード(R)]メニューの[フリガナ検索]のサブメニューから検索したい条件を選択します。

フリガナの先頭文字が条件に合致したレコードだけが選択されます。

■レコードの整列

全レコード、または選択したレコードを対象にレコードの整列ができます。

- 1 コントロールパネルの[整列]をクリックする。
または[レコード (R)]メニューから[整列 (T)]をクリックする。
「ソートダイアログ」画面が表示されます。



- 2 整列対象の項目を選択する。
選択された項目を対象に昇順に整列されます。
整列前の状態に戻すことはできませんので注意してください。
整列前の状態が必要な場合は、一旦、整列前の状態を保存しておいてください。

「住所録」では、一覧印刷と宛名の自動レイアウト印刷ができます。

■ 一覧印刷

「住所録」は、登録した住所録データを一覧形式で印刷できます。

- 1 **[ファイル(F)]メニューから[一覧印刷 (P)]を選択する。**
プリンタの「印刷」設定画面が表示されます。
- 2 **[プロパティ(P)]をクリックして、用紙のサイズ、印刷のモードなどを設定する。**
選択した用紙サイズで一覧表が印刷されます。一覧表の項目幅、項目順は画面の状態をそのまま反映して出力されます。

■宛名印刷

「住所録」では、登録したデータを官製はがきに自動レイアウト機能を使用して宛名印刷ができます。「住所録」の宛名印刷機能は項目のデータのあるなしを自動的に判断して定型のフォーマットで自動レイアウトして出力する機能です。例えばあるレコードには氏名が入力されており別のレコードでは会社名しか入力されていない場合でもバランス良く出力できます。

1 [ファイル(F)]メニューから[宛名印刷 (W)]を選択する。
「宛名印刷」画面が表示されます。

2 宛名出力項目を設定する。
各項目のチェックボックスをチェックするとその項目が出力されます。
連名の出力は[会社名]、[部署名]、[役職]を出力しない場合にのみ可能です。

③ 差出人設定項目を設定する。

[差出人データ] をクリックして表示される「差出人データ」画面で差出人データを登録します。

The image shows two windows from a software application. The top window is titled '差出人設定' (Sender Settings) and contains a list of checkboxes for selecting fields to include in the mailing: 氏名 (Name), 会社名 (Company Name), 部署名 (Department Name), 住所1 (Address 1), 住所2 (Address 2), 郵便番号 (Postal Code), 連名1 (First Name), 連名2 (Middle Name), 連名3 (Last Name), 住所1 (Address 1), 住所2 (Address 2), and 郵便番号 (Postal Code). There are also buttons for 'フォント設定' (Font Settings) and '差出人データ' (Sender Data). The bottom window is titled '差出人データ' (Sender Data) and contains input fields for: 郵便番号 (Z) (Postal Code), 住所1 (A) (Address 1), 住所2 (B) (Address 2), 氏名 (N) (Name), 連名 (1) (First Name), (2) (Middle Name), (3) (Last Name), 会社名 (C) (Company Name), and 部署名 (P) (Department Name). There are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons at the bottom.

④ オプションの項目を設定する。

The image shows a dialog box titled 'オプション' (Options). It contains three checkboxes: '数字を漢数字に変換' (Convert numbers to Chinese numerals), 'ハイフンを”の”に変換' (Convert hyphens to 'the'), and '欄外の項目は印刷しない' (Do not print items outside the column).

○数字を漢数字に変換：

縦書き印刷の場合に有効なオプションです。[住所1] [住所2] 項目の数字を漢数字に変換して出力します。

○ハイフンを ”の” に変換：

[住所1] [住所2] 項目のハイフン「-」、「ー」を「の」に変換して出力します。「ー」は変換しません。

○欄外の項目は印刷しない：

郵便番号項目は、印刷位置を微調整できますが、プリンタの印刷可能領域をはみ出した場合に印刷しない場合はチェックします。チェックしない場合は、切れた状態でも印刷されます。

5 印刷方向を指定する。

縦書きか横書きかをポップアップメニューから選択します。

6 郵便番号の出力位置を調整する。

印刷して郵便番号が枠内にうまく収まらない場合に[〒位置]をクリックして表示される「微調整」画面で水平、垂直位置を調整します。起点は官製はがきの左上角になります。宛名、差出人の位置を個別に調整できます。

7 プリンタの設定をする。

[プリンタ設定]をクリックすると「プリンタの設定」画面が表示されます。「用紙」ではがきサイズを選択し印刷範囲などの必要なオプション設定を行ないます。

8 印刷イメージを確認し、[印刷開始]をクリックする。

[<]、[>]をクリックして、各レコードの内容を[印刷イメージ]で確認し、必要であれば修正してから、印刷してください。

●フォント設定

宛名設定項目、差出人設定項目で[フォント設定]をクリックして「宛名フォント設定」、「差出人フォント設定」画面を表示させます。



The image shows a dialog box titled "宛名フォント設定" (Name Font Setting). It contains a list of fields on the left, each with a dropdown menu for font selection. The fields are: 一括(E) (All), 郵便番号(Z) (Postal Code), 住所1(A) (Address 1), 住所2(B) (Address 2), 氏名(N) (Name), 連名(O) (Surname), 会社名(C) (Company Name), 部署名(P) (Department Name), and 役職(Q) (Position). All dropdown menus are currently set to "@MS ゴシック". To the right of these fields are two columns of checkboxes: "太字" (Bold) and "斜体" (Italic). At the bottom right are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

項目	フォント名	太字	斜体
一括(E):	@MS ゴシック	☐	☐
郵便番号(Z):	@MS ゴシック	☐	☐
住所1(A):	@MS ゴシック	☐	☐
住所2(B):	@MS ゴシック	☐	☐
氏名(N):	@MS ゴシック	☐	☐
連名(O):	@MS ゴシック	☐	☐
会社名(C):	@MS ゴシック	☐	☐
部署名(P):	@MS ゴシック	☐	☐
役職(Q):	@MS ゴシック	☐	☐

項目ごとに出力するフォントを設定します。[一括]をチェックすると全ての項目に同じフォントを指定できます。[太字][斜体]のスタイルをチェックして設定できます。

お知らせ

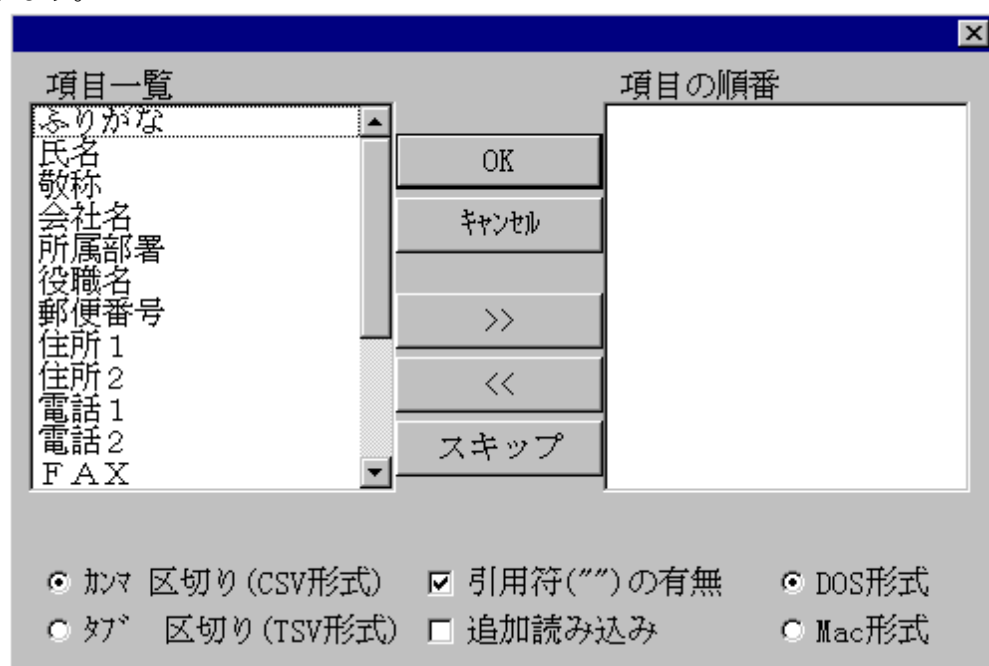
縦書き印刷を行なう場合は、@マークの付いたフォントを指定してください。

「住所録」は、タブ形式やカンマ形式のテキストデータを読み込んだり書き込むことができます。他のデータベースソフトや表計算ソフトと住所録データのやり取りが行えます。

■データの読み込み

1 [ファイル(F)]メニューから「読み込み...」を選択する。

「ファイルを開く」画面でタブ形式またはカンマ形式で保存されたテキストデータを指定します。設定画面が表示されます。



2 テキスト形式を選択する。

○読み込むファイルの形式

カンマ区切り (C S V形式) か、タブ区切り (T S V形式) のどちらかを選択します。

○引用符の有無：

読み込むテキストデータの引用符の有無によって設定します。読み込むテキストデータに引用符が無ければチェックを外してください。

「DVスタジオVer1」で作成した住所録より、初期設定で書き込まれたデータは「引用符有り」で作成されていますので「DVスタジオ2」で読み込む場合はチェックを付けて読み込んでください。

○追加読み込み：

現在開かれている住所録に追加する場合はチェックします。

○DOS形式、Mac形式：

DOS か Mac いずれの形式かを選択します。

③ 項目順を設定する。

設定画面の左のリストは「住所録」の項目一覧です。左側の項目を読み込むテキストの項目順にあわせて右の項目の順番リストに移動します。

移動する項目をクリックして選択し、右方向の矢印[≫]をクリックすると項目の順番リストに移動します。

項目の選択は、[Shift]キーを押しながらクリックすると連続した項目を、[Ctrl]キーを押しながらクリックすると任意の項目を複数選択できます。

あらかじめ読み込むテキストがどのような項目構成であるかを確認しておいてください。該当する項目が読み込むテキストにない場合はその位置で[スキップ]をクリックして空白項目とします。設定が完了したら、左側のリストに読み込むテキストには該当しない項目が残ることになります。

④ [OK]をクリックする。

新規住所録にデータが読み込まれます。

■データの書き込み

- 1 [ファイル(F)]メニューから「書き込み...」を選択する。
設定画面が表示されます。



- 2 テキスト形式を選択する。

○書き出すファイルの形式

カンマ区切り（CSV形式）か、タブ区切り（TSV形式）のどちらかを選択します。

○引用符の有無：

引用符を伴うデータはチェックします。

○DOS形式、Mac形式：

DOS か Mac いずれの形式かを選択します。

③ 項目順を設定する。

設定画面の左のリストは「住所録」の項目一覧です。左側の項目を書き出すテキストの項目順にあわせて右の項目の順番リストに移動します。

移動する項目をクリックして選択し、右方向の矢印[>>]をクリックすると項目の順番リストに移動します。

項目の選択は、[Shift] キーを押しながらクリックすると連続した項目を、[Ctrl] キーを押しながらクリックすると任意の項目を複数選択できます。

あらかじめどういう項目順で書き出すかを確認しておいてください。該当する項目が書き出すテキストにない場合はその位置を[スキップ]をクリックして空白項目とします。設定が完了したら、左側のリストに書き込むテキストには該当しない項目が残ることになります。

④ [OK] をクリックする。

「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名、保存場所を指定して[保存 (S)] をクリックします。

指定した形式でテキストファイルが保存されます。

「レイアウト」との連携

「住所録」で作成したデータを、C S V形式のファイルに書き込み、「レイアウト」画面の「ファイル(F)」メニューから[C S Vファイルの読み込み (E)]を選択すると、「住所録」で作成したデータを、「レイアウト」で 사용할 ことができます。